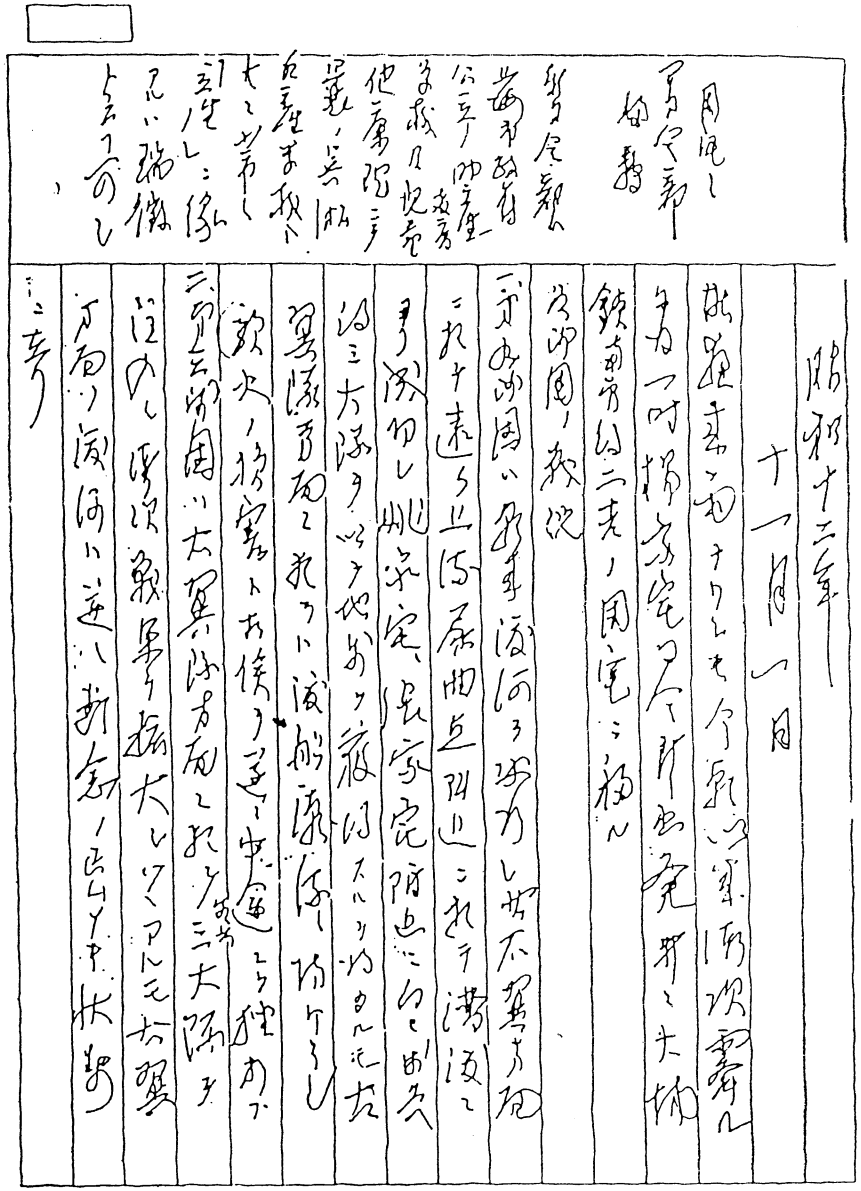
日記の部

昭和十三、一、十三、二、二八

松井石根大將戰陣日記



「松井日記」について

松井石根大将の陣中日誌のうち第壱巻（上陸作戦一ヶ月間）第弐巻（九月二十三日～十月三十一日）は戦後失われ、現存するものは、後半の昭和十二年十一月一日（蘇州河の戦闘）から同十三年二月二十八日（凱旋）までである。

この日記の特徴としては、特に十二月以降、松井大将が方面軍司令官専任となった後は、記述の重点は政・謀略に移り、和平工作あるいは新政権樹立などの経緯に詳しいが、軍事についての記述は物足りない感がある。

しかし、南京占領前後における中央の戦争指導と現地の思想の食い違いを通じて、支那事変の泥沼化への過程を窺う資料として興味深い。

A　軍事関係

①　日本型指揮官の常として、作戦の細部は参謀長任せであったようだ。とくに方面軍司令官になってからは、統帥上の制約もあり、派遣軍と第十軍に対する総括的な統制に限定され、それもかなり冷たく反応されていた【飯沼日記参照】ようである。国際関係に関し隷下部隊に向けて、度々出された松井大将の注意なども隔靴掻痒の感がある。

②　松井大将は対支積極論者であった。南京攻略を早くからとなえ、中央の不拡大方針に不満であった【一・一一・二二】。形の上では、第十軍に引きずられての南京攻略となるが、実は南京攻略は松井大将自身の出征当時からの悲願であった。南京占領後も参謀本部の消極的姿勢には大いに不満があり【一・二】、度々上申しては江北、浙江方面に占領地域を広げることを強く主張した。

③　状況によっては、大本営の意図を超越して行動することもあり得ると考えていたようであり、その一方で幕僚の協力姿勢には大いに不満があったようである【一・二八、二・一六】。「下克上」について視点がぐらついている点が興味深い。

B　政・謀略に関して

①　熱心で、記述も詳しい。人脈をたどって中国要人との交渉も多いが、結果として結実しなかった。これは勃興しつつある中国ナショナリズムに対する松井構想の時代的ズレを示すものではなかろうか。

②　松井大将の戦後処理構想は、軍事的圧迫によって蔣介石・国民政府を地方政権に追い込み、占領地拡大とともに各地に親日新政権を樹立し、軍指導による連合体を作る、いわば分断統治策であったとみられる。

③　従って国民政府の温存につながるトラウトマン和平工作に不満【一・一五】をもち、国民政府を否認する近衛声明「蔣介石を対手とせず」を歓迎【一・一六】している。

④　しかし当時の陸軍中央の大勢は北支重視で、中支重視の松井大将の構想と食い違い、また、参謀本部の事変短期終結方針にも不満があって、ついに辞任を考えるに至る【一・二七、二八】。

⑤　この間、頻発する国際問題の処理のため、列国軍隊、外交官憲との交渉などでかなり神経を労している【→支那事変日誌抜粋】。

⑥　主観的にはこよなく中国に愛情を注いだ松井大将の方針は、部下に理解されず、末端まで徹底せず、支那膺懲・支那人蔑視思想が今後の障害となることを憂い【一・一一】、軍直接の宣撫を「有害無益」と嘆いている【二・六】。

C　いわゆる南京事件に関して

①　軍中央部との応接について肝心なことが書かれていない。

飯沼日記には記されている十二月二十八日付参謀総長、陸軍大臣連名の「国際関係に関する件」、一月四日付総長の「軍紀風紀に関する要望」はもちろん、十二月三十日頃の阿南人事局長の来訪の記述が無い。本問第二部長来訪の主目的も外国権益に関してだが【→飯沼日記二・一】それについては書かれていない。

②　中国一般人民に対する配慮は充分窺われるが、捕虜に対する関心は全く薄い。

③　松井大将の捉えていた「南京事件」は、外国権益の侵害と一般市民に対する掠奪・暴行・強姦等の軍紀風紀問題で、捕虜処分の問題は視野の外であったようだ【→支那事変日誌抜粋】。

④　派遣軍などの反対を押して入城式を十七日に行った理由が、日記では甚だ漠然としている。盛大な入城式の誇示が、対外威信の向上、蔣政権の抗戦意欲の打撃、ひいては事変の有利な解決につながると考えたのであろうか、とりあえずの結果としてきびしい掃蕩になった。【→飯沼日記】

D　その他

①　十二月十八日の慰霊祭の後、松井大将が列席将兵に対し「涙の訓示」を行った話は有名だが、その事実は無い。松井大将の当日の行動は午前十時参謀長会同で訓示、午後一時四十五分両軍司令官、師団長に訓示、二時より慰霊祭、二時四十五分終了で、ただちに散会している。

翌昭和十三年二月七日、上海派遣軍慰霊祭の式後、松井大将は参列の諸隊長に対し「軍の諸不始末」について厳しく訓戒している【→飯沼日記二・七】。有名な訓示は、この訓戒のことと思われる。

②　松井大将は体調を崩していたせいか南京では殆ど外出せず、入城式、慰霊祭参列のほかは、十二月十九日の清涼山・北極閣視察、二十日の日本大使館訪問のみである。また、日記の十二月二十日から二十二日までの日付記入に乱れがある。

従来松井大将の下関視察は二十日とされていたが、二十一日とすれば、首都飯店十時出発「鴻」乗艦十時半で、碼頭での正味視察時間は十分くらいであろう。「角良晴証言」との食違いに注目したい。

③　誰でも大晦日の日記には、行く年えの感慨、来る年えの抱負などが記されているものである。軍事的成功を収めた最高司令官としての感懐など、書くべきことは多かったはずだが、松井日記の大晦日にはその気配すらなく「両広工作」の記述だけで素っ気なく終わっている。三十日と二日分のまとめ書きらしい点、訪問したはずの阿南人事局長の動静に触れていない点など、松井大将の心境に何があったのであろうか。

④　内地帰還に際して、軍中央が内外への影響を配慮して、凱旋の形式を避け、内輪に迎えたことを慨嘆している。帰還後の扱いにも不満だったようである。

この扱いを、事件への問責と、とる向きもあるが、当局の姿勢は、未解決の「事変」中の人事異動、として地味に処理し、いたずらな国際的刺激を避けようとしたのであろう。

昭和十二年

◇十一月四日　小雨

〈本文四十七行、欄外十五行略〉

親補方面軍司令官（欄外）

此日、十月三十日附、予カ新ニ

被補、中支那方面軍司令官兼上海派遣軍司令官

ノ辞令ヲ拝受ス。

又此日ヲ以テ方面軍司令部ノ編成ヲ完結シ、幕僚其他ニ命課ヲ与フ。

〈本文十行、欄外十行略〉

◇十一月八日　小雨

一、派遣軍方面情況大ナル変化ナシ

二、第十軍ノ上陸は相当因難ニシテ、両師団ノ野砲ハ未タ上陸ヲ完ラス第百十四師団ノ上陸ハ勿論未タ開始スルヲ得ス。殊ニ陸兵交通困難ニシテ泥濘ト共ニ僅ニ輜重車輛ヲ通スル道路一アルノミ。水運モ携帯舟艇ノ陸揚困難ニシテ未タ実施スルヲ得ス。両師団ノ携行セル折畳ミ軽渡舟材料ヲ以テ多少共明日ヨリ水運ヲ行ヒ得ル情態ナリ。

自然第十軍部隊ハ殆ド現地ノ物資ニ依リ此処数日ヲ給養セサル可ラサル苦境ニ在リ。

是レ参謀本部カ不完全ナル智識ト偵察ニヨリ此計画ヲ定メタル結果ニシテ、幸ニシテ派遣軍ノ蘇州河岸ノ攻撃ノ為ノ松江附近ノ敵兵ノ大部上海南方地区ニ移動シ松江附近ノ敵ハ微弱ナリシ為メ、軍ハ能ク予期ノ目的ヲ達成シタル次第ナリ。

第十軍作戦指導方針ノ変更（欄外）

仍テ予ハ第十軍ノ立場ヲ顧念シ、方面軍ノ従来ノ企図ヲ変更シ、其一部（少クモ一師団）ヲ以テ青浦方ニ作戦シテ直接派遣軍ニ協力セシメ、主力（二師団）ヲ以テ嘉興方面ニ作戦スヘク区署ヲ改メ、之ヲ第十軍司令官ニ命令ス。蓋シ柳川司令官以下ノ面目ヲ保チ、将来両軍ノ精神的団結ヲ鞏カラシメントスル予ノ意中也。

◇十一月十四日　晴

派遣軍ハ敵ヲ追撃シテ崑山、太倉ヲ占領ヲ占領ス。

重藤支隊ハ漸次敵ヲ圧迫シテ梅李鎮ノ西北地区ニ進出シ、一部ヲ以テ支塘鎮ニ近ク進出ス。

第十六師団ノ33*ｉハ夕刻迄ニ支塘鎮ニ進出セルモ尓余ノ上陸渉々シカラス、夕刻迄ニ漸ク第二兵団ノ歩兵一大隊ヲ上陸セシメタルニ過キス。滸浦鎮ハ尚夕刻迄敵兵之ヲ固守シアリ。

第十軍第六師団ノ歩兵一大隊ハ水路ニヨリ松江ヨリ西進シ此日、平望ヲ占領セリ。尚第十八、第百十四ハ逐次兵力ヲ集結シテ嘉興ノ攻撃ヲ準備中ナリ。

第十軍ノ輜重其他ノ兵站部隊ハ金山衛附近ノ揚陸ヲ断念シ、尽ク上海ニ其揚陸点ヲ変更スル事ニ決シ、漸次輸送船ヲ上海ニ廻送シ浦東地区及南市附近ニ漸次根拠地ヲ確立セシムル事トセリ。

方面軍ハ第三、第百一師団ヲシテ其進出地附近ニ集結セシメ、方面軍ノ直轄タラシムル準備ニアラシム。

◇十一月十五日　曇

此朝予ハ白茆江口ニアリテ、第十六師団ヲシテ江岸ニ沿フ地区ヲ福山ニ向ヒ攻撃セシムル様命令ヲ与ヘタリシモ、留守中軍司令部ニテ同師団ヲ左翼方面ニ作戦セシムル様命令セシヲ以テ、己ムナク之ヲ承、事後承認シテ下記ノ如ク部署シタルモ心中遺憾ナリ。（欄外）

33ｉは歩兵第33聯隊
以下ｉは歩兵聯隊

派遣軍ハ敵ヲ追撃シ第六師団ハ一部ヲ以テ蘇州方面ニ敵ヲ追撃中。

第十一、第十三師団ハ太倉—常熟道其東方地区ヲ追撃シ、今朝支塘鎮及其東方塚地区ニ進出セリ。仍テ軍ハ左翼ヨリ第十六、重藤支隊、第十三師団ヲ並列シテ常熟、福山ノ陣地ヲ突破セシメ、無錫ニ向ヒ敵ヲ追撃スヘキヲ命シ、第十一師団ハ支塘鎮附近ニ其兵力ヲ集結セシム。

第十六師団ノ33ｉハ常熟ニ向ヒ前進中ナルモ、第二兵団ハ滸浦鎮ニ向ヒ敵ヲ攻撃シ西方ニ進出中ニテ、尓余ノ兵団ハ今日以后一聯隊位ノ揚陸効程ニ過キス。

第九師団ハ第六師団ノ右翼ニ進出シ共ニ崑山西方ノ残留セル敵ヲ攻撃ス。

第十軍ハ依然嘉興攻撃準備中ナルモ、重砲兵ノ到着ヲ俟テ攻撃ヲ実行スル予定ニテ、早クモ両三日ノ後トナラン。

予ハ此日、上海方面軍司令部ニ帰還シ、右ノ区処ヲナスト共ニ東京ヨリ来レル影*佐大佐、柴*山大佐ニ軍今後ノ方針、南京攻略ノ必要ヲ説キ更ニ方面軍特務機関ノ拡張ニ関スル意見ヲ陳ス。大体其諒解ヲ得タリ。

◇十一月十八日　曇又小雨

此日久振ニ派遣軍司令部ニ至リ、諸般ノ報告ヲ聞ク、即

一、常熟附近ノ敵陣地攻撃ハ思フ様ニ進捗セス、今後共此陣地ノ正面力攻ハ相当困難アルヘキヲ聞ク。

二、仍テ昨日既ニ第十一師団ニ命シ、成シ得レハ民船ヲ利用シテ有力ナル一部隊ヲ以テ崑城湖ヲ渡リ、常熟南方地区ニ上陸シテ敵ノ背後ヲ攻撃セシムヘク研究セシメ置キシカ、常ニ師団ハ其所有渡河材料ト一部支那民船ヲ利用シ、花谷大佐ノ指揮スル歩兵二大、砲一中隊ヲ以テ明日夕ヨリ水路ニ依リ常熟南方約二里莫城鎮附近ニ進出スヘキ旨ノ報告アリ。此実行果シテ可能ナレバ常熟附近ノ攻略ヲ大ニ容易ナラシムヘシト欣フ。

三、軍ノ追撃ニ伴ヒ補給ハ蘇州河、劉河及白茆河又ハ滸浦河ヲ利用シ、主トシテ水運ニ依リ一

影佐禎昭（かげさ さだあき）26期　参謀本部謀略課長
柴山兼四郎24期　陸軍省軍務局軍務課長
花谷　正26期　歩兵第四十三聯隊長

部ノ陸路輸送ト相俟テ概ネ其目的ヲ達成スヘキ見込ナルヲ知ル。最モ米ハ太倉其他所在ノ地ニ相当多量現存セルヲ以テ一時糧食ノ補給ヲ欠クモ糧秣ハ心配スルヲ要セス。

四、第九師団ハ此日、楊家巷、唯亭鎮附近ノ敵ノ小抵抗ヲ突破シ、陸涇橋附近ノ敵陣ニ近ク進出スルヲ得タリ。

第十軍ノ情勢大ナル変化ナシ。第六師団ハ本朝、崑山附近ヲ出発シ青浦ニ向ヒ、後水路ニヨリ松江ヨリ平望ニ向ヒ進出スル筈ナリ。

◇十一月二十二日　晴

〈十八行略〉

両軍ノ補給ハ連日ノ追撃前進ニ伴ハス已ムナク飛行機ヲ以テ空中ヨリ糧食、弾薬ヲ投下シ、其急ヲ救フノ状ナリシカ今日ノ晴天トカ御蔭シ今後逐日其状勢ヲ恢復スル事ヲ得ン。

軍司令官ノ意見具申。（欄外）

此日、軍今後ノ作戦ニ関スル予ノ意*見ヲ参謀総長ニ具申ス。其要領既ニ先日参謀本部、陸軍省ノ派遣員ニ述ヘタル所ノモノニ同シ。要ハ速ニ軍容ヲ整ヘ、十二月中旬以降南京ニ向フ攻撃ヲ開始セントスルニ在リテ、遅クモ二ケ月以内ニ其目的ヲ達成シ得ルノ見込ナルコトヲ附言セリ。

◇十一月二十五日　晴

無錫占領（欄外）

一、派遣軍ハ此朝第九、第十一師団ノ一部ヲ以テ無錫ヲ占領シ、第十六師団ノ部隊モ之ニ伴ヒ市内ヲ清掃中ナリトノ報アリ、之ニ因テ江陰要塞ノ背面ハ遂ニ我有ニ帰シ、爾後南京方面ニ対スル作戦ヲ容易ナラシムルヲ得タリ。

二、第十軍ハ昨日湖州ヲ占領シタル後第百十四師団及国崎支隊ヲ以テ西方ニ敵ヲ追撃シ、湖州

中方参電第一六七号

中支那方面今後ノ作戦ニ関スル意見具申

判決

「中支那方面軍ハ事変解決ヲ速カナラシムル為現在ノ敵ノ頽勢ニ乗シ南京ヲ攻略スルヲ要ス」

西方約二キロノ高地ニ在ル敵ヲ続テ攻撃中、其兵力多カラス。

此日蕪湖方面ヨリ広徳ニ向ヒ敵軍約一万鉄道ニ依リ東進シ来ルヲ知リ我陸海飛行機ヲ以テ之ヲ爆撃ス。

参謀本部決定ノ不明瞭（欄外）

此日参謀総長ヨリ伝宣電アリ。予テ方面軍ノ作戦区域ヲ蘇州—嘉興ノ線ニ制限セラレタルヲ解除ストノ意ナリ。尚次*長ヨリ参*謀長宛電ニ依レハ、軍ハ依然蘇州—嘉興附近ノ線ニ在リテ一部ヲ以テ無錫（或ハ其西方若干地域）湖州ノ線ヲ占領スルモ、爾後更ニ西方ニ作戦ヲ拡大セシメサル中央部ノ意嚮ナルヲ告ケ、又十二月上旬迄ニ重藤支隊及第十一或ハ第十八師団ヲ他ニ転用スルノ予定ナル旨通シ来ル。其*意明瞭ナラサルモ、中央部ハ尚南京ニ向フ作戦ヲ決意シアラサル事ハ明瞭ニシテ、其因循姑息誠ニ不可思議ナリ。而カモ予テ申入レアル軍特務機関ノ拡大ニ付キテハ、何等指示スル処ナシ。其真意何レニ在ルヤ了解シ能ハサル処ナリ。仍テ更ニ此旨参謀長ヨリ次長宛督促セシムル事トス。

〈二十三行略〉

派遣軍司令部ハ此日戦闘司令処ヲ常熟ニ前進セシムルモ、予ハ今後ノ方針ヲ委曲参謀長ニ示シ、可然善処スルヲ命シ、方面軍司令部ニ止ル。蓋シ目下上海ノ善後措置等国際関係諸問題等ヲ処理スル為メ、上海ヲ離レ難ケレハナリ。

◇十一月二十七日　曇

〈欄外略〉

派遣軍方面

第十六師団ノ一部ハ常州東方約四里ノ線ニ、第十三師団ハ江陰南方約四粁ノ線ニ進出ス。

第十一師団、重藤支隊及第九師団ノ主力ハ無錫附近ニ於イテ集結中。

第九師団渡湖部隊ノ状況不審。

参謀次長　陸軍中将　多田駿（はやお）15期

中支那方面軍参謀長　陸軍少将　塚田攻（おさむ）19期

「其意明瞭ナラサルモ」について＝とくに戦争指導班の発議により新たに第五軍を編成し、南支に作戦し、早期に戦局を収拾しようとしたが、パネー号事件等が起こったため、急に取り止めとなった。

一、第十軍方面

第百十四師団ハ主力ヲ以テ長興附近ニ、一部ヲ以テ宜興ニ向ヒ敵ヲ追撃シ、

第十八師団ノ一部ハ国崎支隊ニ会シ、広徳ニ向ヒ敵ヲ追撃中。

第六師団ハ逐次湖州ニ向ヒ集結ス。

両軍ノ後方補給ハ軍ノ追撃ニ伴ハス、一時困難ノ状勢ニアリシカ、天候ノ恢復ト地方舟楫ノ整備ニヨリ漸次ニ補給力ヲ増加シツヽアリ、此処旬日ノ間ニハ概ネ両軍共ニ補給ノ整正ヲ得ルニ至ルヘシ。殊ニ鉄*道聯隊（二大隊）昨日其先頭ヲ以テ到着シ、差当リ蘇州、嘉興、平望ヲ目途トシ鉄路ノ補修、材料ノ蒐集ニ勉メ、尚内地ニ*輸送スヘキ運転材料（機関車約二十輛、貨車二百輛）ヲ以テ輸送ヲ開始スル見込ニテ遅クモ是亦来十二月上旬中ニハ其運輸ヲ開始スヘキ見込ナリ。

〈二行略〉

◇十一月二十八日　晴

〈二十二行略〉

参謀本部ヨリ南京攻略決定ノ報アリ（欄外）

参謀本部ヨリ南京攻略ニ決定セル旨次長電アリ、是レニテ過日来予ノ熱烈ナル意見具申モ奏功シ欣懐此上ナシ。其後両軍ノ後方連絡線ノ整斎漸ク順調ニ向ヒツヽアレハ、命令一下遅クモ来十二月五日頃ヨリ全軍ノ進撃ヲ命スルヲ得ン。

〈一行略〉

◇十一月二十九日　晴

一、派遣軍ノ情況

此日正午第十六師団ハ完全ニ常州ヲ占領シ、市内ヲ掃蕩ス。

鉄道第一聯隊長・工兵大佐　佐藤質（22期）

内地から貨物用九六〇〇型機関車二十五台をはじめ貨客車六百台、技術者八十名を急派した。（華中鉄道沿革史による）日記中「内地ニ」は誤記と思われる。

又第十三師団モ江陰要塞ヲ占領ストノ報アルモ実況不審。

二、第十軍ノ状況変化ナシ。

此日原*田少将ヲ招致シ、上海善後措置及今後ノ謀略ニ付キ予ノ希望ヲ告ケ、督励ス。

又同盟通信ノ松*本ヲ招致シ西洋人、支那人ニ対スル側面的工作ヲ指示ス。

諸情報ニ依レハ常州、宜興ノ線ニ在リシ敵ハ西（後）方ニ退却シ、又一部ハ広徳、寧徳（ママ）附近ヨリ杭州方面ニ退却中ナリ。即敵軍ハ大体ニ南京東方山地線ニ防禦線ヲ退ケ、又浙江方面ニ於テモ浙江杭州西方山地線ニ防禦線ヲ退ケタルカ如ク、鎮江、江陰附近ニハ多数ノ民船蒐集シアリテ、適時江北地方ニ退却ヲ準備スルモノヽ如シ。

〈十二行略〉

◇十一月三十日　晴

〈十一行略〉

此日方面軍幕僚ヲ集メ南京攻略ニ関スル軍ノ作戦方針ヲ議シ、従来ノ計画ヲ補修シ、大体十二月上旬ヨリ（五日頃）全軍ノ攻撃前進ヲ開始スル事ニ定ム。

此日倫敦タイムスノ「フレザア」及紐育タイムスノ「アベンド」ヲ召致シ、予ノ上海占領及其後ニ於ケル態度ヲ説明シ、就中、上海ニ於ケル列国ノ権益ヲ保護スル為メ予ノ執リタル苦心ノ程ヲ説明セリ。彼等能ク予ノ意ヲ諒シ、且ツ我軍ノ公正ナル態度ニ付尊敬感謝ノ意ヲ表シ、各本国ニ向ヒ委曲通信スヘキヲ約ス。

又在日本各国武官ハ戦線視察終了ニ付此夜原田少将ヲシテ之ヲ晩餐ニ招カシメ、予モ出席シテ一言ノ挨拶ヲナス。一同感激ノ情顕著ナリ。

◇十二月一日

一、派遣軍ノ状況

原田熊吉（22期）　駐支武官　13・2・18中支那派遣軍特務部長

松本重治（しげはる）　当時、同盟通信社中南支総局長。「西安事件」をスクープした中国通として著名であった。

第十三師団ハ江陰市街ヲ確実ニ占領シ同砲台ノ占領ヲ準備ス。
第十六師団ハ常州ヲ占領シ、一部ヲ以テ西方ニ敵ヲ追撃ス。
第九師団ノ部隊ハ常州—金壇道ヲ追撃ス。

二、第十軍ノ状況

第百十四師団ノ一部ハ溧陽ニ向ヒ敵ヲ追撃ス。
国崎支隊ハ広徳ヲ占領ス。更ニ西方ニ敵ヲ追撃ス。
第十八師団ハ長興南方地区ニ、第六師団主力ハ湖州附近ニ兵力ヲ集結ス。

方面軍ノ新戦闘序列ヲ令セラル（欄外）

南京攻略ノ大命降下（欄外）

此日参謀次長着、南京攻撃ノ伝宣命令ヲ携ヘ来ル。又此日新ニ中支那方面軍ノ戦闘序列ヲ令セラル。

又広東方面ニ作戦スル為メ、第十一師団（一旅欠）及重藤支隊ヲ十二月中旬以降同方面ニ転用セラルル筈ナル事ノ内命ヲ受ク。

次長ノ語ル処ニ依レハ、中央部ハ未タ十分軍目下ノ謀略及宣撫ノ重要性ヲ認識セス、特務部ノ組織ノ拡大及人員ノ整備ニ付決定ヲ与ヘサルハ甚タ遺憾ニ耐ヘス。仍テ更ニ方面軍ヨリ具体的意見ヲ上申シ、決定ヲ急クノ要アルヲ認ム。

◇十二月二日　晴

一、派遣軍ノ状況

第十三師団ハ完全ニ江陰要塞ヲ占領シ、残敵ヲ掃蕩中。
第十六、第九師団ノ一部ハ丹陽及金壇ニ迫リ、敵ヲ圧迫中。
第三師団ハ数日前ヨリ蘇州、以北ノ地区ニ前進シ、但片山支隊ハ此日第百一師団ノ部隊ト交代シ師団主力ニ追及ス。

第十一、重藤支隊ハ無錫附近ニ集結。

二、第十軍ノ情況

第百十四師ノ一部ハ溧陽ヲ占領ス。
寧国方面ノ情況明カナラス。
諸情報ニ依レハ、敵ハ新ニ二集団軍ヲ編成シ、鎮江、句容、広徳、蘭谿（浙江）ノ線ヲ守備シ、別ニ南京城守備軍ヲ編成シ、最後迄抵抗スベキ命令ヲ与ヘ（十一月二十五日頃）タルモ、其前線ハ既ニ陥落シ、全軍ノ志気崩壊シタレハ、爾後ノ抗戦ハ大ナル成果ナキモノト認メラル。

南京攻略命令ヲ下ス。（欄外）

仍テ今朝新ニ全軍ニ対シ、南京攻略命令ヲ与ヘ、又方面軍司令官ノ訓示ヲ与ヘ、第十軍ハ十二月三日頃ヨリ、派遣軍ハ五日頃ヨリ前進ヲ開始スヘク命令ス。尚海軍ニ督促シ速ニ江陰付近ニ於ケル封塞ヲ開放シテ揚子江ノ水路ヲ開キ、軍ノ攻撃前進ニ伴ヒ派遣軍ノ一部（約一師団）ヲ江北ニ上陸セシメ、江北運河及津浦鉄道ヲ遮断スルノ準備ヲナサシム。

〈二十五行略（特務部の編成）〉

尚今後謀略ノ目標ハ、先ツ国民政府ヲ駆逐シテ、江蘇、浙江、成シ得レハ安徽ヲ併スル独立政権ヲ樹立セシムルニ在リテ、万已ムヲ得サル時ハ、南京附近ニ残留スル国民政府要員ヲ以テ国民政府ヲ改造シテ、漢口政府ト分離スル国民政府ヲ建設スルヲ目的トシ、今後南京ノ攻略ニ伴ヒ其工作ヲ進ムル事トス。

◇十二月三日　晴

一、派遣軍ノ状況

第十六、第九師団ハ敵ヲ追撃シテ既ニ其先登部隊ヲ以テ磨盤山頂ノ線ニ達ス。
又第十一師団ノ部隊ハ鎮江ニ向ヒ進撃中。
鎮江ハ火災起リ、敵軍既ニ退却ニ就キツヽアルヲ知ル。

第十一師団ノ部隊は天谷支隊（歩一二、歩二二基幹）

二、第十軍ノ状況
第百十四師団ノ部隊モ溧水ニ近ク進出ス。
尚第十八師団ノ部隊ハ寧国ニ近ク進出セリ。
〈二十一行略（上海共同租界示威行進）〉

◇十二月四日　晴

一、派遣軍ノ状況
第十六、第九師団ハ句容及其南方ノ線ニ達ス。
二、第十軍
第百十四師団ハ溧水ニ達ス。
南京外郭攻撃命令下付。（欄外）
仍テ軍ハ両軍ヲシテ更ニ南方城外郭ノ線ニ向ヒ攻撃ヲ命シ爾後ノ南京城攻略ヲ準備セシム。
蓋シ南京城ノ占領ハ両軍部隊ノ随意攻撃ニ放任セス、方面軍ニ於テ之ヲ統制シ、秩序アル占領ヲ遂ケントノ意ナリ。又入城前蔣介石又ハ守城者ニ対シ投降勧告ヲ与ヘ、可成南京城ヲ破壊セス住民ノ損害ヲ避ケテ之ヲ占領セン予ノ意ナリ。
朝香宮殿下派遣軍司令官親補（欄外）
此夜東京ヨリ電報アリ、予ノ派遣軍司令官兼任ヲ解キ、新ニ朝香宮殿下同司令官ニ親補セラルヽヲ知ル。寔ニ恐懼感激ノ至ナリ。依テ直ニ之ヲ全軍ニ通報スルト共ニ、殿下ノ御在任中ノ警備等御居住ノ安全ニ付、出来得ル限ノ措置ヲ可講夫々研究ヲ命ス。

◇十二月五日　晴

此朝多田参謀次長前線ヨリ帰来ス。依テ軍今後ノ作戦方針及南京占領後ニ於ケル軍ノ企図ニ付予ノ希望ヲ語リ、更ニ軍特務機関ノ拡大、今後ノ謀略方針ニ付委細説明シ、中央ノ方針確定

朝香宮鳩彦王（やすひこ）20期

ヲ促ス。其要如次。
一、軍今後南京攻略後ノ謀略ハ宋派、政学派、段派及在中支財界中親日者ヲ糾合シテ、独立政権ヲ江蘇、浙江、安徽ヲ併セテ設立セシメ漸次北支政権ト連絡セシム。
二、能ハサレハ現国民政府ノ不良分子ヲ排除シテ政府ヲ改造セシム尚此際、欧米ニ依存スル浙江財閥ハ必ス之ヲ排斥スルヲ要ス。
三、右ノ為メ特務機関ヲ拡大シ〈以下九行略〉

◇十二月六日　晴　（欄外略）

此日大使館ニ海軍長官、大使館員等ト会シ、今後ノ軍事、政経政策ニ関シ、予ノ意見ヲ開陳シ、其同意ヲ得タリ。即
一、軍ハ南京攻略後、南京、蕪湖、寧国、杭州以東ノ地区ヲ占領シ、更ニ江北ノ揚州、滁県、浦口附近ヲ占領ス。
爾後ノ行動ハ東京ノ企図ニ俟ツ。
二、此ニテ専ラ、先ツ上海附近ノ平和運動ヲ促進シ、漸次ニ占領地ニ宣撫工作ヲ進メテ自治機関ヲ作為セシメ、機ヲ見テ江蘇、浙江、安徽ヲ基礎トスル政権ノ樹立ニ努ム。
三、上海租界ニ対スル方針ハ
〈十六行略〉
朝香宮殿下、新ニ予ニ代リテ上海派遣軍司令官ニ補セラレ本日着滬（こ）セラル。仍テ予ハ之ヲ埠頭ニ迎ヘ、又午後其申告ヲ受ケ、委細申継ヲ行フ。恐懼ノ至リナリ。殿下ハ明日自動車ニテ在無錫軍司令部ニ赴カル、筈。（欄外）

◇十二月七日　晴

此日始テ蘇州、上海間鉄道開通スルニ依リ、予ハ之ニ乗シテ方面軍司令部ヲ蘇州ニ前進ス。

滬＝上海の別称

沿道漸次平和気分ヲ見ル。避難農民逐次帰村シツヽアルヲ見ル。可欣。
蘇州ニハ既ニ自治委員設立セラレ、我副領事モ昨日来当地ニ来リ、治安工作、宣撫ニ着手シアリ。
両軍ノ第一線部隊ハ漸次南京城外廓陣地ニ接近ス。又第十三師団ノ一聯隊ハ江陰ヨリ靖江ニ渡リ、海軍ト協力シテ全ク江陰水路ノ阻絶ヲ除去スルヲ得タリ。

◇十二月八日、九日　晴

両軍ノ第一線部隊ハ紫金山ヲ占領シ、又雨花台附近ヲ占領シ、漸次城廓ニ迫ル。
此日飛行機ニヨリ予ノ署名スル投降勧告文ヲ城内外ニ散布シ、明十日正午ニ回答ヲ促ス。
第十八師団ハ蕪湖ヲ占領シ、国崎支隊ハ太平ヲ占領ス。

◇十二月十日　晴

此日正午ニ至ルモ支那軍ノ回答ナシ、依テ午後ヨリ両軍ニ対シ南京城ノ攻撃ヲ命ス。敵軍ノ頑迷真ニ可惜。已ムナキ事ナリ。然レトモ最早所謂最後ノ気持丈ノ抵抗ニ過キス。其実功ナキハ勿論ナリ。聞ク、蔣介石ハ昨日既ニ南昌ニ去リ、唐生智守城セル如シ。
此日国崎支隊ハ長江対岸ニ渡河ヲ準備シ、第十三師団モ鎮江附近ニ進出シ渡河ヲ準備ス。
第百一師団ハ杭州攻撃、前進。（欄外）
第百一師団（三大隊欠）ヲ第十軍司令官ノ指揮ニ属シ、本日出発、松江ヲ経テ杭州ニ向ヒ前進シ、第十軍後備隊ト協力シテ之ヲ攻略セシム。
第九師団光華門占領（欄外）
第九師団ハ敵ヲ追撃シテ此日光華門ヲ占領ス。

◇十二月十一日、十二日、十三日　晴

軍ハ右ヨリ第十六、第九、第百十四、第六師団ヲ以テ今朝ヨリ南京城ノ攻撃ヲ開始ス。城兵ノ抵抗相当強靱ニシテ、我砲兵ノ推進未及ノ為メ、此攻撃ニ二、三日ヲ要スル見込ナリシカ、第九師団ハ既ニ敵ヲ追撃シテ光華門ヲ占領ス。屢々敵ノ逆襲ニ遭ヒツヽ、同門ノ占領ヲ保持ス。
国崎支隊ハ烏江附近ニ上陸シ、浦口ニ向ヒ、南京ノ退路ヲ遮断スル如ク行動シツヽアリ。
十三日、南京城占領（欄外）
十三日朝、第百十四、第六ノ両師団ハ中華門及水西門ヲ占領入城シ、同日夕迄ニ第十六師団ハ太平門、共和門ヲ占領。第三師団ノ一部ハ通済門ヲ占領シ、此ニ全ク南京城ヲ攻略ス。
英艦船損害事件（欄外）
去ル五日、我*航空隊ハ蕪湖附近ニ於ケル敗敵ヲ爆撃中同地ニアリシ英国船ニ損害ヲ与ヘタル事件アリ、又十日朝橋*本大佐ノ率ユル重*砲兵隊カ江ヲ渡リテ退却中ナル敵ヲ砲撃スル際、附近ニアリシ英国商船及英国砲艦乗員ニ小損害ヲ与ヘタル事件アリ。是レ居留民避難保護ニ任シタルモノニテ、中ニ英独領事館員、武官等モアリ、将来多少ノ問題ヲ惹起スヘキモ、此ハ危険区域ニ残存スル第三国民ト其艦船カ多少ノ側杖ヲ蒙ルハ已ムナキ事ナリ。況ヤ我方ハ既ニ此方面ニ於ル戦場ノ危険ヲ列国ニ予告シ置キタルオヤ。

◇十二月十四日、十五日　晴

十四日予ハ湯水鎮ニ前進ノ筈ナリシカ、準備未完了ノ為メ、十五日ニ延期シ、午後一・〇〇発、蘇州飛行場ヨリ飛行機ニテ句容飛行場ニ飛翔シ、夫レヨリ自動車ニテ午後三・〇〇湯水鎮軍司令部ニ安着ス。
南京城入城ノ両軍師団ハ、城内外ノ残敵ヲ清掃ス。敗残兵ノ各所ニ彷徨スルモノ数万ニ達ストノ事ナルモ未詳。

パネー号事件、十二日の誤記。英国船ではなく米艦である。
レディバード号事件、十二日の誤記。陸軍砲兵大佐　橋本欣五郎23期の指揮下の野戦重砲兵第十三聯隊長

第十一師団天谷支隊ハ、十四日夕揚州ヲ占領ス。（鎮江ヨリ十三日渡江）
又第十三師団ノ主力ハ十四日鎮江ヨリ渡江、十五日揚州ニ入リ、続テ儀徴ニ向ヒ前進中ナリ。
国崎支隊ハ十四日浦口ヲ占領ス。
南京占領御語下賜。（欄外）
十四日、*大元帥陛下ヨリ参謀総長ヲ経テ、軍将兵南京攻略ニ関シ御語ヲ賜フ。一同感泣、直ニ全軍ニ令達スルト共ニ奉答ノ辞ヲ電奏ス。
十五日、蘇州自治委員会長陳某ヲ召致シ、皇軍ノ本領及予ノ大亜細亜主義精神ニ付説明シ、公明ナル自治ノ発展ヲ希望ス。此男一昨年天津ニテ予ノ亜細亜運動ニ付知ル処アリ、能ク予ノ意ヲ諒ス。但シ人民尚日本軍ヲ恐怖スルト、地方ノ荒廃ノ為、急遽ナル自治ノ実行困難ナル旨ヲ語ル。聞ク、近時毎日四五千ノ避難民帰宅シアルモ、尚多クハ貧民ニシテ、財アルモノハ未タ帰ラスト。

◇十二月十六日　晴

蕪湖英艦事件
去十二日、蕪湖ニ於ケル英国軍艦、商船被害事件ニ関シ、我政府ハ実相ヲ極メス、英国ノ抗議ニ対シ直ニ陳謝ノ措置ヲ取リタル由、聊カ周章気味ナレト、既ニ実行シタル上ハ詮ナシ、予ハ事実ヲ調査シタル結果、決シテ責任者ヲ処分ナトスル必要ナキ意見ヲ東京ニ電報セシム。（欄外）
湯水鎮ニ在リ。此地ハ蔣介石別荘ノアリシ有名ナル温泉場ナリ、同別荘ハ焼失シテ跡ナキモ倶楽部ノ建物残存シ、一同久振ニ入湯シテ気分ヲ能クス。
南京城内外掃蕩未了。殊ニ城外、紫金山附近ニアルモノ相当ノ数ラシク、捕虜ノ数既ニ万ヲ超ユ。此クテ明日予定ノ入城式ハ尚時日過早ノ感ナキニアラサルモ、余リ入城ヲ遷延スルモ面白

十二月十四日陸海軍幕僚長ニ賜ハリタル大元帥陛下御言葉
「中支那方面ノ陸海軍諸部隊カ上海附近ノ作戦ニ引続キ勇猛果敢ナル追撃ヲ行ヒ首都南京ヲ陥レタルコトハ深ク満足ニ思フ此旨将兵ニ申伝ヘヨ」

カラサレハ、断然明日入城式ヲ挙行スル事ニ決ス。
第十三師団ノ一部ハ、鎮江ヨリ幕府山附近ヲ経テ南京城外ニ来着ス。
南京攻略後ノ軍ノ態勢ニ関スル命令下達（欄外）
此日南京攻略後ノ全軍ノ態勢并ニ爾後ノ作戦準備ニ関スル命令ヲ下ス。是レ蓋シ直後ノ配置ト整理ニシテ、将来ノ情勢ニ応シテハ、更ニ浙江省ハ勿論、江北地方ニ軍ノ占領地域ヲ拡大スル事、諸般ノ関係上必要ナリト認ムルモ、曩ニ伝宣命令ニヨリ、兎ニ角長江右岸、杭州、蕪湖、南京以東ノ地区ニ集結ヲ命セラレアルニ依リ、不取敢前記ノ如ク処置シタル次第ナリ。今後情勢ニ応シ更ニ意見ヲ具申シ、所要ノ配置ニ就ク考ナリ。

◇十二月十七日　晴朗

南京入城式（欄外）
此日南京入城式。
午後〇・三〇自動車ニテ出発、一・二五中山門外ニ着。両軍司令官以下幕僚ノ出迎ヲ受ケ一・三〇乗馬ニテ入城式ヲ施行ス。
中山門ヨリ国民政府ニ至ル間両側ニハ両軍代表部隊、各師団長ノ指揮ノ下ニ堵列。予ハ之ヲ閲兵シツ、馬ヲ進メ、両軍司令官以下随行ス。未曽有ノ盛事、感慨無量ナリ。午後二・〇〇過キ国民政府ニ着。下関ヨリ入城先着セル長谷川海軍長官ト会シ、祝詞ヲ交換シタル後、一同前庭ニ集合、国旗掲揚式ニ続テ、東方ニ対シ遥拝式ヲ行ヒ、予ノ発声ニテ大元帥陛下ノ万歳ヲ三唱ス。感慨愈々迫リ、遂ニ第二声ヲ発スルヲ得ス。更ニ勇気ヲ鼓舞シテ明朗大声ニ第三声ヲ揚ケ、一同之ニ和シ、以テ歴史的祝典ヲ終了ス。
右終テ師団長以上撮影ノ後、参列各隊長以上一室ニ会堂シ御賜ノ清酒ノ杯ヲ挙ケ、海軍長官ノ発声ニテ再ビ大元帥陛下ノ万歳ヲ三唱シ、本日ノ式ヲ終ル。
此日第十三師団ハ六合ヲ占領シ、更ニ滁県ニ向ヒ前進中。十二圩ニ於テ塩三十万俵ヲ押入

ス。（欄外）

朝香軍司令官殿下最モ御健祥ニ、御機嫌亦極メテ麗ハシク、殊ニ予ノ部下トシテ軍司令官ノ職ニ励ミ玉フ聖旨ノ程感激ニ堪ヘス。

終テ首都飯店ノ宿舎ニ入ル。沿道市中未タ各戸閉門シ、居住民ハ未タ城ノ西北部避難地区ニ集合シアリテ路上支那人極メテ稀ナルモ、幸ニ市中公私ノ建物ハ殆ト全ク兵火ニ罹リアラス、旧体ヲ維持シアルハ万幸ナリ。

◇十二月十八日　曇

忠霊祭（欄外）

今暁降雪少許アリ、天気陰欝ニシテ恰モ本日ノ忠霊祭ニ適スル天気ニテ、天モ亦吾等ト共ニ泣ケルモノト思ハル。

此朝各軍、師団参謀長ヲ会シ軍参謀長ヨリ詳細ナル指示及打合ヲ行ハシメ、予ハ特ニ一同ニ対シ

一、軍紀、風紀ノ振粛

二、支那人軽侮思想ノ排除

三、国際関係ノ要領ニ付

訓示ヲ与ヘタリ。（欄外）

午後一・〇〇宿舎ヲ発シ、城内飛行場ニ準備セル忠霊祭ニ参列シ、祭典前参集セル両軍司令官、師団長ニ対シ訓*示ヲ与ヘ、終テ祭典ニ列ス。

予ハ祭主トシテ陣没霊前ニ進ミ、祭文ヲ朗読シ、万感胸ニ迫リタルモ、往事ノ如ク声詰リ、涕泣禁シ能ハサル如キ事ナク、何タカ一層ノ勇気ト発奮心起リ、朗々祭文ヲ読ミ、忠霊ニ告クルヲ得タリ、蓋英霊此ク予ヲ激励スルモノカ感亦無量ナリ。

参列両軍及ヒ海軍将兵万ヲ超ヘ、式ハ簡単ナルモ甚荘厳々粛以テ聊カ英霊ヲ慰ムルヲ得ン。

この訓示は飯沼守支那派遣軍参謀長日記によれば「近ク行ハル、師団長会同ノ際頒ツコトヽス」とあり、印刷されたと思われるが、十二月二十四日十時から行われた「兵団長会同」の項には、特記事項はなく、いわゆる松井大将「涙の訓示」があったとは信じがたい。恐らくその内容は松井日記に記されている参謀長会同時の訓示と同一のものではなかったろうか。

予ハ此朝大帛ニ左ノ二詩ヲ謹書シ霊前ニ餞ケタリ。曰ク

南京城攻略感（欄外）

奉祝南京攻略

燦矣旭旗紫淦城
江南風色愈清々
貔貅百万旌旆粛
仰見皇威耀八紘

方面軍司令官　松井石根

又南京入城式有感

紫金陵在否幽魂
来去妖氛野色昏
径会沙場感慨切
低徊駐馬中山門

松井大将

之レニテ上陸戦斗以来ノ一段落ヲ終ヘ、此夜ハ早クヨリ安眠ス。万感交々到ル。

又此夜*軍報導部長ヲ招キ、南京攻略後ノ軍ノ態度ニ関スル予ノ所感ヲ述ヘ、司令官談トシテ発表セシムル事トセリ。（欄外）

◇十二月十九日　晴

休息第一日ナリ。尚今後諸般ノ対策ニ関シ万感禁セサルモ先ツ暫時心神ヲ休メ、徐ロニ爾後ノ方策ヲ練ルヲ可トス。

此日午後幕僚数名ヲ従ヘ、清涼山及北極閣ニ登リ、南京城内外ノ形勢ヲ看望ス。城内数ヶ所ニ尚兵燹ノ揚レルヲ見ルハ遺憾ナレト、左シタル大火ニハアラス、概シテ城内ハ殆ト兵火ヲ免

特務部長　原田熊吉22期少将
報道班長　深堀遊亀28期中佐

レ市民亦安堵ノ色深シ。
各処ヨリ祝電来ル。夫々重要ノ人ニハ返電ヲ出ス事トスルモ一々答フルニ遑アラス。
近衛首相以下各閣僚ノ祝電ニ対シ返電ヲ出ス。

◇十二月二十日　晴

此日大使館ニ到リ新着ノ領事館員等ト会見シ状況ヲ聞ク。曰ク、去七月大使館引上当時支那側ニ委托シタル我公使建物ハ、一部ノ小奪掠ノ外、概シテ相当ニ保護セラレ、殊ニ大使館建物ハ内容共完ク完全ニ保存セラレアルハ、支那側ノ措置トシテハ寧ロ感服ニ値アリ。
又避難区ニ収容セラレアル支那人ハ概シテ細民層ニ属スルモノナルモ、其数十二万余ニ達シ独、米人宣教師ノ団体ト紅卍字会等ノ人共ト協力シテ保護ニ任シアリ。聞ク、江蘇省政府ハ其引上ニ際シ、独*人シーメンスノモノニ銀十萬元ト南京現在ノ糧米ヲ托シテ保護ヲ依頼シタルモノナリト云フ事。真否明カナラサレト現ニ城内ニ現蓄セラレアル糧米ハ一万担ニ達シ、外ニモ尚隠匿セラレアルモノアリ、当分ノ間居民ノ糧食ニ事欠ク事ナシト云フ。
支那要人等著名ノモノニ残留セルモノ見当ラサルモ漸次相当資産階級ノモノモ顔ヲ出シ来ル模様ニ付、其内矢張治安維持地方自治ノ支那人団体ヲ形成スルヲ得ヘキ見込ナリ。此南京ノ宣撫ハ最初軍特ム部ヲシテ之ニ当ラシムル積ナリシモ、人不足ノ為メ矢張、上海派遣軍ヲシテ適当ノ人（隊長）ヲ選ミ、特ム機関、領事館ノモノオモ併セ指揮シテ宣撫ニ当ラシムル事トセリ。
尚聞ク所、城内残留内外人ハ一時不少恐怖ノ情ナリシカ、我軍ノ漸次落付クト共ニ漸ク安堵シ来レリ、一時我将兵ニヨリ少数ノ奪掠行為（主トシテ家具等ナリ）強姦等モアリシ如ク、多少ハ已ムナキ実情ナリ。

◇十二月二十日、二十一日　晴

朝一〇・〇〇発、挹江門附近下関ヲ視察ス。此附近尚、狼藉ノ跡ノママニテ死体ナド其儘ニ

南京安全区国際委員会・委員長・ジョン・H・D・ラーベ（ジーメンス洋行）

遺棄セラレ、今後ノ整理ヲ要スルモ、一般ニ家屋等ノ被害ハ不多、人民モ既ニ多少宛帰来セルヲ見ル。
*躉船、桟橋等大分焼棄セラレアルモ多少ノ修繕ヲ施セハ六七個ノ桟橋ヲ使用シ得ル見込。現ニ第十三師団ノ渡辺部隊、国崎支隊ノ阪南部隊ノ渡河ハ続々実施セラレアリ。但浦口ノ桟橋ハ一個ヲ残ス外尽ク焼棄セラレ、停車場ノ如キモ全ク焼失シテ用ヲ為サスト云フ。今後津浦鉄道ノ北向利用ハ相当ノ困難アルモノト認メラル。
午前一〇・三〇水雷艇「鴻」ニ便乗下江ス。途中烏竜山、及鎮江附近砲台ノ残存セルモノ、江陰要塞ノ現状、封鎖ノ有様ナド視察シツヽ、夕刻白茆口附近ニ仮泊ス。
鎮江ハ損害少ク電灯ナド既ニ点シアル由、現ニ少許ノ火災アルモ大ナル事ナシ。埠頭モ殆ト現存スル由ニテ、揚州ニ在ル第十一師団部隊ノ補給連絡等支障ナク実施セラレアリ。
江陰要塞モ大破ナク、就中独乙製十*五珊高射砲ノ新式ノモノ十数門ハ価値アルモノナリ。
〈注・このあたり日付けの乱れあり、前行までが二十日の分、次行からが二十一日分（日付け記載なし）と推定される。〉

上海帰着（欄外）

朝九・〇〇出港、午後一〇・〇〇上海市政府埠頭ニ安着ス。上海出発以来恰度二週間ニシテ南京入城ノ大壮挙ヲ完成シ、帰来スル気持ハ格別ナリ。之レヨリ謀略其他ノ善後措置ニ全力ヲ傾注セサルヘカラス。

◇十二月二十六日、二十七日　晴
二十八日　曇

東京ト諸般ノ連絡ト意見具申ノ為メ塚田参謀長ヲ派遣ス。
上海兵站病院ヲ視察ス。設備モ漸次整ヒ現在傷病者約五千名ニ過キス。赤十字看護班ノ協力ニ依リ大体好成績ニ衛生諸設備行ハレアリ安心ス。尚慰惜ノ手段ニ欠クル所アリ、研究ヲ促シ

「躉船」とはハシケのこと。

十五珊は口径十五糎

李擇一　日本慶応大卒、河北政務委員会最高顧問。松井大将の命により中支那方面軍嘱託岡田尚と同行、香港で宋子文と会談。（極東軍事裁判資料）

陣中孚　一八八二年生　日本法政大卒。青島市長、広東国民政府が成立すると、その政務委員にあげられた。呉佩孚と好し。（『最新支那要人伝』朝日新聞社昭16）

置ケリ。

パネー号事件解決（欄外）

二十六日パネー事件解決ノ報アリ。十分ノ出来ニハアラサレト之レニテ一段落トナレハ支那ノ各方面ニ対スル影響相当大ナルヘク、今後上海附近ノ謀略工作ナトニモ一層ノ進展ヲ期シ得ヘシ。

南京、杭州附近又奪掠、強姦ノ声ヲ聞ク。幕僚ヲ特派シテ厳ニ取締ヲ要求スルト共ニ責任者ノ処罰ナト真ニ悪空気一掃ヲ要スルモノト認メ、厳重各軍ニ要求セシム。

二十七日、中支那軍済南ヲ占領ストノ報アリ。今後中支那軍ハ更ニ南方ヘ作戦シ山東ヲ全然孤立セシムルノ要アリ。之レカ為メ我軍ニ於テ江北地方ノ作戦ヲ徐州附近迄進ムル事、更ニ有効ナリト信シ、前述塚田少将ニ対シ右意見ヲ東京ニ具申セシム。浙江方面ニ対スル作戦ハ右作戦ノ関係モアリ、暫ク時機ヲ待ツ事有利ナリト考ヘアリ。

〈欄外十行略〉

◇十二月二十九日　晴

〈六行略〉

南京ニ於テ各国大使館ノ自動車其他ヲ我軍兵卒奪掠セシ事件アリ。軍隊ノ無知乱暴驚クニ耐ヘタリ。折角皇軍ノ声価ヲ此ル事ニテ破壊スルハ残念至極、中*山参謀ヲ南京ニ派遣シテ急遽善後策ヲ講スルト共ニ、当事者ノ処罰ハ勿論責任者ヲ処分スヘク命令ス。殊ニ上海派遣軍ハ殿下ノ統率セラルヽモノ其御徳ニ関スル儀ニモアリ、厳重ニ処分方取計フ積ナリ。

〈七行略〉

第十軍ノ第十八師団ハ杭州西方富陽方面ニ敵ヲ追撃シ、多少ノ損傷アリタルモ概シテ此方面ノ敵軍ハ最早戦意ナク逐次退却シツヽアルモ尚銭塘江右岸地区ニ更ニ全般的追撃ヲ実行スル要アリト認ム。

中支那方面軍参謀・航空兵少佐　中山寧人（なやと）33期

萱野長知（かやのながとも）　一八七三～一九四七　高知の人。少年時代上海に渡り中国革命を支持、のち中国革命党顧問。孫文の臨時に呼ばれた唯一の日本人。満州事変後、犬養首相の密使として和平交渉。一九四五、貴族院議員。（現代人名情報事典・平凡社）

居正　一八七六～一九五一　法政大学留学。国民政府司法院長など要職を歴任。（コンサイス人名辞典）

唐紹儀　一八六一～一九三八　広東省の人。コロンビア大・ニューヨーク大に学び、帰国後は外交官として活躍。辛亥革命で、北方代表として革命派と講和。民国最初の国協総理に就任し、袁世凱と対立して辞職。袁の帝制問題で第三革命に参加、外交専使として北方と交渉。以後、広東政府財政総長・国民政府委員・西南軍事委員など歴任。上海で暗殺された。（コンサイス人名辞典）

◇十二月三十日、三十一日

此日李*擇一、陳*中孚、萱*野等ト会シ今後ノ謀略ニ付指示ヲ与ヘ、其意見ヲモ聞ク、上海ニ於ケル平和運動ハ漸ク熟シ来リ、近々其声ヲ揚ケ得ヘシトノ事ナリ。

李ハ近ク香港ニ行キ宋子文等ト連絡シ、国民政府其後ノ動静ヲ偵察スヘシト云フニ付、宋子文ハ之ヲ利用スルハ可ナルモ新政権ニハ参与セシメム可ラサル意ヲ伝フ。

陳ノ言ニヨレハ在漢口居*正ノ妻来滬、我方ノ意嚮ヲ知リ度トノ事ニ付大体差当リ防共、亜細亜主義ノ外、特ニ注文ナキ旨ヲ告ケ置キタリ。尚居正其他国民政府ノ一部ニハ蔣ノ下野ヲ前提トシテ日本トノ平和交渉ニ入リ度希望アル由ニ付、彼等ニ蔣下野後現国民政府ヲ解体シ新政権ヲ組織スルヲ先決要件トスル旨オモ伝ヘタリ

三十一日（欄外）

温*宋堯、唐*紹儀ノ代理トシテ来訪、飽迄蔣ノ下野外遊ヲ必要トスル事ヲ述ヘ、尚両広ヲ独立セシメテ英国トノ関係ヲ遮断スルノ必要ヲ述フルニヨリ、同意ヲ与ヘタリ。尚温ハ来春匆々唐ノ意ヲ承ケテ広東ニ至ルヘキ旨ヲ語レルニヨリ、当方モ和知大佐ヲ派遣シテ協力セシムル様談シ置ケリ。尚我軍ハ広東ヲ攻撃スルノ態度ヲ取ル事、両広工作上必要ナリト語レリ。此儀ハ研究ノ価値アリト認ム。

温宗堯　Wēn Tsung-yao(1875～?)　政治家（民国）、広東の人、字は欽甫・香港香仁学院卒・米国留学一九〇三年帰国後外交部長補佐、一二年革命起こるや、革命側に奔って**岑春煊**の国民公党の副会長として袁世凱の陣営と対抗、その帝制運動に激しく反対した、のち**広東政府**の外交部長となり、ついで同政府総裁となって活躍、**陳炯明**の広東占拠後上海に退去、三八年維新政府法制院長、四〇年新国民政府立法院長に就任。（東京堂人名辞典）

昭和十三年（二五九八年）

◇一月元旦

陣中元旦、感無量。況ヤ予本年還暦寅年ニ会ス、此節年ヲ以テ宿志ヲ遂行セサル可ラス。

朝屠蘇ヲ祝ヒ一一・〇〇方面軍司令部ニ至リ、一同ノ祝賀ヲ受ケタル後、東方ニ向ヒ遥拝式ヲ行ヒ、了テ正午司令部員一同ト祝宴ヲ張リ、両陛下ノ万歳ヲ三唱ス。

帰邸ノ後、各官ノ祝賀ヲ受ケ、良元日ヲ祝福ス。

昭和戊寅年頭所感

北馬南船幾十秋
興亜宿念顧多羞
更年軍旅人還暦
壮志無成死不休

◇一月二日

朝来長谷川長官、川越大使等ノ来訪ヲ受ケ、諸般ノ問題ヲ語ル。

塚田参謀長東京ヨリ帰来ス。

其報告ニ依レハ

一、軍ノ作戦ニ関シ参謀本部ハ極メテ消極ニシテ、今後作戦範囲ヲ拡大スルヲ欲セス。

二、今後ノ善後措置ニ関シテハ、政府ハ未タ何等ノ決意ナク、或ハ国民政府トノ妥協モ意ヲ嘱シ、又ハ新政権ノ設立ヲ希望スルナト其腹ノ定ラサル事予想ノ外ナリ。

支那方面艦隊司令長官海軍中将
長谷川　清海兵31期
特命全権大使　川越　茂

三、而カモ軍今後ノ謀略ニ就テ深キ熱意ヲ有セス、自然予ノ希望シ置キタル人間ノ派遣ニ同意セス、殊ニ予カ直接大臣ニ書信ヲ与ヘタルニ係ハラス、之ニ返答スル事ナク、次官トノ交渉スヘキヲ塚田少将ニ答ヘタルナト、其優柔不断驚クニ耐ヘタリ。

要之政府ヲシテ此際国民政府ニ見切ヲ附ケシムル事カ今後ノ作戦ト謀略ヲ実行スルノ要ヲ認メシムルノ先決要件ナルヲ感セシム。依テ大使館側及海軍トノ間ニ先ツ当地ノ意見ヲ纏ムル事必要ナリト考ヘ、之レカ交渉方ヲ命ス。

〈二行略〉

◇一月三日　曇、寒シ

第十軍ニ命シ第百一師団ヲ上海附近ニ復帰セシムヘク命令ス。

又曩ニ軍ノ直轄トスル国崎支隊ヲ奉勅命令ニ依リ北支那軍ニ復帰セシムヘク命令ス。本支隊ハ南京及上海ニテ乗船シ、十二日乃至十六日出発ノ予定ナリ。

午後海軍長官ヲ答訪シ、上記政府ノ態度ニ付通報スルト共ニ、軍ノ作戦ハ今後小範囲ノ必要ナルモノニ限リ其拡大ヲ行フ事能ハサル旨ヲ告ケ、セメテ桃中山(銅陵)、鉄砿位ノ占領ヲ行ヒ度意嚮ナルヲ告ケ、該地附近ノ情況ノ偵察ヲ依頼ス。

〈十二行略〉

◇一月四日　晴

河相外務書記官来訪。東京ノ情勢ヲ聞ク。尚今夜大使始外務省側一同ト会食ノ予定ナレハ其上重ネテ意見ヲ交換スル筈ナルモ、彼カ意嚮ハ大体大亜細亜主義ノ実行ニ賛成シアルハ頼モシ。

此夜川越大使以下大使館員ト河相局長ヲ合セ時局善後談ヲ試ミ、先ツ

一、政府ヲシテ国民政府ヲ否認スル旨何分ノ形式ニ於テ声明セシムル事。

外務省情報部長　河相達夫（敗戦時の外務次官）

二、上海税関及租税収入ハ其幾分ヲ英米銀行ニ委管セシメ、残部ヲ正金銀行ニ保管セシメ、将来南京政権ノ財源ニ使用セシムル事。
三、上海共同租界ノ行政、及警察ニ日本ノ有力者採用ヲ強要スル事。
四、虹口租界ニ支那人ヲ自由ニシ其繁栄ヲ謀ル事。
五、軍ノ占領セル虹口―呉淞間ノ地区ニ速ニ水道、電気、電話ノ施設ヲ完成スル事。
六、上海以外軍占領区域ニ逐次ニ外国人ノ居住往来ヲ自由ニスル事。
等ヲ協議シ、孰レモ意見ノ一致ヲ見タルニ依リ、更ニ海軍トノ間ニ意見ヲ取纒メ、一面之ヲ東京ニ上申スルト共ニ現地ニ於テ実行スヘキモノヲ着々励行スル事ニ打合セタリ。

◇一月五日　晴

陸海軍幕僚特務部ノ者共ヲ会合セシメ、昨日大使ト協議セル今後国策々定ニ関スル意見中、国民政府否認ノ声明ヲ発表スルノ可否ニ付協議セシム。大体海軍モ予ノ意見ニ同意ニ付此ニ陸海、外務三方面ヨリ右意見ヲ夫々東京ニ具申スル事ニ談ヲ纒ム。
此日船*津辰一郎ヲ召致シ、時局ニ関スル意見ヲ聞ク。大体是亦予ノ意見ニ同意ナリ。

◇一月六日　晴

温宗堯来訪。両広独立運動ニ関シ打合ヲナス。温ハ八日、上海出発香港ニ向ヒ、同地ニテ同志ト協議ノ筈ニ付、当方ヨリモ和*知大佐ヲ、能ハサレハ中*井中佐ヲ香港ニ派遣シ、連絡ノ上協力セシムル事ニ約ス。
両軍参謀長ヲ召致シ、情勢ヲ聞キ今後ノ諸件ニ付指示ヲ与フ。両軍ノ軍紀風紀モ漸次取締ラレ緊粛ニ勉メツヽアルニヨリ今後最早大ナル憂慮ナキモノト認ム。尚今後軍作戦拡張ノ件ニ付テハ、東京トノ諒解ヲ得次第江北及浙江ヲ両方面ニ向ヒ一部ノ作戦ヲ実行シ度予ノ意嚮ヲ告ケ、夫々準備ニ怠リナキ様要求ス。

船津辰一郎　総領事として上海・奉天在勤→駐ドイツ大使館参事官、当時在華日本紡績同業会総務理事、のち上海特別市政府顧問となる。
歩兵第四十四聯隊長（高知）歩兵大佐　和知鷹二26期
歩兵中佐　中井増太郎29期と思われる（昭14・9・12支那派遣軍附）

〈十六行略〉

◇一月七日　晴

*島田俊雄、岡田忠彦、大国、原口等ノ政友議員団慰問ニ来訪スル。
阿南人事局長各地ノ視察ヲ了リ、帰来ス。其報告ニ依レハ各軍共軍紀風紀其他ノ諸問題漸次振粛シ、作戦準備モ亦怠リナシトノ事、安心ス。
先日来大使館、海軍トノ連絡ノ結果、此際我政府ヲシテ国民政府否認ヲ決定シ、何等カノ形式ニヨリ之ヲ内外ニ声明スルハ今後ノ作戦及謀略上重要ナリトノ意見ニ一致シ、之レカ意見具申ヲ大臣、総長ニ呈出スルト共ニ、海軍及大使館ヲシテ先ニ夫々上申セシムルニ取計フ。尚之ニ関シ人*事局長ニ托シ、近衛首相、広田外相、杉山陸相ノ連名ニテ私信ヲ認メ、右大方針ニ伴フ爾後ノ作戦及政策ニ関スル意見、及之レガ実行機関トシテ上海ニ予ノ統轄ノ下ニ特ム機関ヲ設立シ、海、外、大蔵及商工省等ノ人員モ網羅シ、今後ノ軍事、政治、経済諸問題ヲ研究立案セシムルノ要アルヲ申シ遣ス。
尚之カ特務機関要員トシテ佐*々木到一、和知大佐ノ両人ハ是非必要ニ付速ニ之ヲ軍司令部付ニ任命スル事、及成シ得レハ塚田少将ヲ第一部長ニ任命シ、其後任トシテ佐々木少将ヲ充当スルモ可ナルヘク、能ハサレハ佐々木ハ特ム要員ニ、参謀長ハ天津ニ在ル川（ママ）辺少将ヲ充用スルモ可ナリ（ママ）旨申遣ス。又之レト共ニ今後軍ノ作戦及兵力減少ノ時機ニ関シ、三月迄現情維持ノ必要ナル旨ヲ次長ニ伝言ス。
第十師団ト連絡シ徐州附近隴海鉄道ヲ占領シ、塩ノ運輸ヲ断ツト共ニ、浙江ニ於ケル今後政権ノ範囲ヲ拡張スル為メ、今後或ハ江北、浙江ニ対シ小規模ノ作戦ヲ行フノ必要ナル事オモ言付タリ。（欄外）

島田俊雄　衆議院議員立憲政友会代行委員、敗戦時の衆議院議長。「議会の白鬼」と言われ、その弁舌は反対党をふるえあがらせた（平凡社日本人名大辞典）
人事局長　陸軍少将　阿南惟幾（これちか）18期
歩兵第三十旅団長陸軍少将　佐々木到一18期
北支方面軍参謀副長陸軍少将　河辺正三（まさかず）19期

◇一月八日　晴

賀陽宮殿下大学教官ノ御資格ニテ戦場視察ノ為メ御来着、軍司令部ニ於テ一応主任者ヨリ戦況経過其他ノ所感ニ付御説明ス。殿下頗ル御元気ニ且ツ熱心ニ御研究ノ状恐懼ノ至ナリ。

◇一月九日　晴

此夜島田俊雄一行ヲ晩餐ニ招キ、種々時局問題ニ付予ノ意見ヲ開陳ス。

〈13行略〉

◇一月十日　晴

内地新聞ノ報ニ依レハ、昨日来東京ニ於テ閣議、内閣ト大本営トノ打合、策儀トノ談合等行ハレ今後ノ対支政策ニ付一層具体的決定ヲ見タルヤノ模様。内容不明ナレト、マア此ノ如キ漸次我政府ノ旗色明朗トナル事ハ、軍ノ作戦、謀略ノ上ニモ明快トナルノミナラス、支那側ニ与フル感興モ不浅ト信ス。今後其結果ヲ知ルニ及ヒテ夫々積極的ニ行動スルヲ得ヘシト楽ム。

◇一月十一日　曇

此日南市初度視察ヲ行ヒ、第十軍兵站部砲工兵廠等ヲ視察シ、警備状況ヲ見、兵站病院ヲ慰問ス。

南市ノ破壊ハ予想外ニシテ大部分火災ノ為メ荒レ果テアリ。此模様ニテハ居留民ノ復帰モ渉々シク行カサルハ勿論ニ付、兵站司令官及警備隊長ニ旨ヲ授ケ、可成早ク多数ノ支那人ヲ復帰セシメ、我軍ニ懐カシムル様十分ノ考慮ト工作ヲ行フ様申付タリ。殊ニ警備隊ノ態度ハ、矢張支那人ヲ寄付ケサル方便宜ニテ面倒ナシト云気持ラシク、之レテハ到底南市ノ復活モ何時ニナルヤモ不計ニ付、是亦十分ノ注意ヲ与ヘタリ。

兎ニ角軍隊ハ矢張飽迄軍隊ニテ、其気持到底吾等ノ思フ様ニ行カサルハ当然ナルモ、其所謂

陸軍大学校教官騎兵中佐　賀陽宮恒憲王（つねのり）32期

支那膺懲、支那人蔑視ノ思想カ今後共善後措置ニ寧ロ障碍ヲ与フヘキ事想像セラル。何トカ方法ヲ考ヘサル可ラス。

〈八行略〉

此夜、谷元第六師長（ママ）ヲ晩餐ニ招キ色々ノ実戦談ヲ聞ク。

◇一月十二日　晴

原田少将ヨリ政権樹立ト、政治、経済工策ト既往研究ノ実況ヲ聞ク。大体最近順調ニ向ヒツヽアルハ可ナレドモ尚肝緊ノ中心人物ニ唐紹儀カ乗出スヤ否（ハ）不明ニ付、是等ニツキ更ニ外務、海軍ト密接ニ連絡シツツ工作ヲ進ムル様注意ヲ与フ。尚是等工作ハ聊カ不安ノ点アルヲ以テ南京ヨリ佐々木少将ヲ招致シ、協同研究セシム。

広西代表トノ連絡出来、不日王紹子香港ニ来ルトノ事ニ付、之ガ連絡ノ為何（ママ）文運ヲ香港ニ派遣シ、当方ノ意嚮ヲ伝ヘシメ、両広ノ懐柔ニ努メシム。

◇一月十三日　曇

軍占領地ニ於ケル各部隊カ地方物資ヲ占領保管シ、地方自治ノ復活上障碍トナリツヽアル旨大西派遣軍参謀実視ノ報告ヲ受ク。依テ予テ各軍ニ訓示セル既徴発物資ノ処分等ニ付、軍ノ意図ヲ各部隊ニ徹底セシムルノ要ヲ感シ、参謀長ニ命シ、各軍経理部長ヲ召集シ、状況ヲ確ムルト共ニ、所要ノ指示ヲ与フルノ要ヲ述ヘ研究ヲ促ス。

〈七行略〉

◇一月十四日　晴

賀陽宮殿下ノ戦跡御視察ニ同行シ、蘇州河ニ於ケル第九師団渡河戦闘ノ跡ヲ見、Ⅲ／36長清水少佐ノ戦歴談ヲ聞ク。見レハ戦場ハ左シタルモノニ非ス。当時敵ノ兵力ニ鑑ミ其渡河ノ差シ

陸軍中将　谷　寿夫15期（前第六師団長、12・12・28中部防衛司令官となる）

夏（何は誤記）「文運君は広島高師京大卒、夫人は日本人、香港、両広で反蔣工作に奔走した和知（鷹二）武官を助け、その黒幕的役割を演じた。その著書『黄塵万丈』は彼の行動の跡をつまびらかに述べている。幸い非運に遭うことなく、戦後来日して新宿で中華料理店を経営と聞き、深く安堵した」（宇都宮直賢32期回想録『黄河・揚子江・珠江』65ページ）

第二課参謀歩兵大尉　大西　一（はじめ）36期

長　Ⅲ／36長は歩兵第36聯隊第3大隊

タルモノニ非ルヲ知ルト共ニ、当時ニ於ケル我軍ノ志気ノ程度モ回想スルニ足ル。殊ニ其攻撃ニ昼間ヲ擇ヒタルハ我砲兵威力ノ発揮ヲ欲シタルモノナルヘク、兎角ニ当時我軍ニ夜襲的企図心ノ萎靡シアリシヲ察スルニ足ル。

沿道、蘇州河両岸、殊ニ右岸地区ニハ大分支那人帰来シ、大道政府ノ巡査ナトモ配置セラレ漸次明瞭気分トナリタルヲ悦フ。

◇一月十五日　曇

伊*藤公使来訪、政府ノ態度、殊ニ独乙大使仲介運動今尚不熄、政府之ニ捉ハレテ逡巡シアルノ情報ヲ伝ヘ、政府ノ処決ヲ促スヘク策動ノ要アルヲ述フ。吃驚ス。依テ原田少将ヲ招キ、再度目下ノ情勢ニ応スル軍ノ意見具申ヲ行フト共ニ、原田少将ヲ一応帰京セシメ、当局ヲ鞭撻スルノ要アリトシ、之レカ熟議ヲ重ヌルト共ニ、再度ノ意見具申ノ起案ヲ命ス。

◇一月十六日　晴

此日政府ハ国民政府ヲ今後対手トセサル旨ノ声明ヲ発シタリ。其真意審カナラサルモ一歩吾等ノ主張ニ近ツキタルハ疑フノ余地ナシ。只何タカ未タ政府ノ決意ニ不安アルヲ以テ、矢張此際当地各方面ノ意見ヲ政府ニ進言シ、今後ノ覚悟ヲ鞏固ナラシムルト共ニ、今後之ニ応スル謀略ハ勿論、作戦ニモ一段ノ進境ニ進ムノ必要ヲ具申スルノ必要ナルヲ感知シ、伊藤公使、塚田、原田両少将ト熟議ノ上、右様決定シ、之ニ応スル当地ノ諸方針ヲ至急取纒ムルヘク命ス。

◇一月二十一日～二十三日

〈杭州方面第十軍視察〉

伊藤述史　元ポーランド公使のち三国同盟問題でドイツに派遣される。

◇一月二十四日　曇

参謀次長ヨリ第百十四師団ヲ二月十七日ヨリ輸送スヘク、第十一師団ノ天谷支隊ハ南京附近ニ集結シテ速ニ海路出発ノ用意アルヘキ旨内報アリ。

恰モ浙江方面作戦ノ必要ヲ痛感シアル際、百十四師ノ帰還ハ大ナル故障ヲ生シ、其実行殆ト不可能ニ陥ルヲ以テ之レカ善後策ニ就キ幕僚ノ研究ヲ促ス。思フニ参謀本部カ数度ニ亘ル我意見具申ヲ無視シ、当地方政略関係ヲ顧ミス、徒ラニ軍隊ノ転用ヲ計画スルノ妄ヲ歎セサルヲ得ス。

曩ニ香港ニ差遣セル岡*田尚帰来ス。其報告ニ依レハ、宋子文ハ蔣介石ト離レテ当方面ノ政権ニ合流スルノ意多少動キツヽアルモノヽ如ク、日本ニシテ真ニ支那ヲ救済スルノ意ヲ以テ動クナレハ、彼ニモ浙江財閥ヲ掌握シテ、国民政府ト分離スルモ避ケス、進テ我方ト此間ノ接衝ヲ試ムルノ意アリトノ事、右ハ宋美齢、宋子文等トモ協議ノ結果ナリト云ヘリ、ト。此間ノ真意ニ多少ノ疑ナキニアラサレハ篤ト研究ヲ重ネタル上何分ノ措置ヲ講スルヲ要スト認ム。

又福建陳*毅ハ目下国民党部ノ軟禁ニ遭ヒ、進退自由ナラサレハ、何トカシテ福州ノ現状ヲ覆シ、或ハ福州ヲ離脱シテ後図ヲ図ラントスルノ意アリト云フ。是亦遽ニ信ヲ措キ難ク、更ニ調査ノ要アリ。

第十六師団長北支ニ転進ノ為メ着滬ス。其云フ所、言動例ニ依リ面白カラス、殊ニ奪掠、等ノ事ニ関シ甚タ平気ノ言アルハ、遺憾トスル所、由テ厳ニ命シテ転送荷物ヲ再検査セシメ鹵獲、奪掠品ノ輸送ヲ禁スル事ニ取計フ。（欄外）

◇一月二十五日　晴

此日羅店鎮、嘉定、南翔附近ノ戦跡ヲ視察シ、地方ノ状勢ヲ観察スルニ、兎ニ角各所人家ノ大部破壊セラレ、人民帰ルニ家ナキ様ニテ、嘉定県内ニ従来二十余万ノ人口アリシモノ今帰来

岡田尚（たかし）　中支那方面軍嘱託　松井大将の命を承け李擇一と香港に潜行、宋子文と接触。（極東軍事裁判資料）

陳毅　一九〇一～一九七二　一九三一年中華ソヴェト臨時政府中央執行委員、長征の際、残留して華南で遊撃、一九三七年新四軍第一支隊司令。（のち中華人民共和国政府外交部長。人民解放軍元帥の称号をうけた）〈コンサイス人名辞典〉

セルモノ約二万ニ過キス、大部ハ春期ニ入ラサレハ復帰覚束ナキ状勢ナリ。
但シ嘉定県城ニハ毎日尚百余名ノ帰来者アリ。地方治安ノ恢復ト共ニ、漸次一部ノ復興ヲ見ツヽアリ。測家鎮ハ尚帰来者三百余名ニ過キス、最モ不成績ナリ。軍ノ宣撫工作ハ漸次其功果ヲ挙ケツヽアルハ事実ナルモ、尚々研究ノ要アリ。

◇一月二十六日　晴、寒シ

〈十三行略〉

派遣軍ヨリ鳳陽攻撃ノ意見具申アリ。依而攻撃後現配置ニ復帰スル条件ノ下ニ之ヲ認可ス。蓋シ津浦線ニ於ケル我軍ノ積極〈以下欄外〉行動ハ、目下ノ情勢上緊急ナリト認ムルモ、何分参謀本部之ヲ認メス、既ニ兵力ノ転用ヲ内命シ来リアル現状ニ於テ、妄リニ派遣軍ノ稟申ヲ認容シ難ク、殊ニ浙江方面ニ対スル今後ノ作戦モ考慮スル時ハ、此際軍ハ全般的ニ今後ノ作戦ノ方針ヲ定ムルノ要アルヲ以テ、一時右ノ如ク措置スルノ外ナキナリ。

◇一月二十七日　晴

原田少将帰任ス。其報告ニ依レハ、東京政府ハ大体ニ於テ、当方此後ノ政治、経済方策ニ異存ナキモ、陸軍省ハ将来飽迄北京臨時政府ヲシテ支那ヲ統一セシメントノ意ナル由ニハ一驚セリ。外ム、海軍ハ然ラスト〔ノ〕事ナレト、陸軍側ハ主トシテ北京方面軍ノ意見ニ動カサレアルモノヽ如ク、参謀本部ハ必スシモ然ラストノ事。此ル思想カ従来当方面ニ於ケル謀略、作戦ヲ制肘シ来タレル事今ヤ殆ト明瞭ナリ。此妄ヲ啓クニ非レハ、将来ニ於ケル中支方面ノ策動ハ凡テノ困難ニ遭遇スヘク、深憂ヲ禁セス。既ニ先般来当地方面ハ、一方日本側ノ消極ニ反シテ漢口政府ノ軍事、政治両方面ニ於ケル積極的工作及宣伝ト相俟チテ漸次ニ形勢悪化シツヽアル際。此際当方トシテハ之ニ対抗スヘキ積極的態度ヲ要スヘキハ勿論ナリ。
而カモ東京陸軍側ノ態度如此ニテハ到底謀略、作戦共ニ予ノ欲スル底ノ工作ヲ実行スル能ハ

中華民国臨時政府（十二月十四日成立式挙行）大総統は空席とし、府政委員長・王克敏。

ス、何トカシテ此難境ヲ突破セサレハ、予ハ一万有余ノ忠霊ニ対シ、地下ニ見ユル事能ハス、篤ト思案ヲ要スヘシト覚悟セルモ、尚明日来着ノ筈ノ本間少将ノ意見ヲモ聴取シタル上決心スヘク、不取敢明日帰朝ノ途ニ就ク川越大使ニ対シ、充分此間ノ事情ト予ノ意中ヲ説明シ、帰京後一段ノ尽力ヲ頼ム事トセリ。

〈十九行略〉

◇一月二十八日

川越大使今朝出発帰朝ニ付、大使館ニ訣別シ、目下ノ状勢ニ関スル所見ヲ伝ヘ、中央当局ノ鞭撻ヲ托ス。
軍今後ノ謀略并ニ作戦ニ関シ中央部ト意見ノ阻隔、之ニ対スル感想。（欄外）
本間少将来着ス。其言ニ依レハ江南方面ニ対スル中央政府及軍部ノ態度尚明確ヲ欠クモノ多キヲ感ス。政治工作、作戦方針共ニ然リ。殊ニ政策ト作戦トノ連繋ニ関スル参謀本部ノ態度充分ノ一致ヲ見サルヤノ観アルハ遺憾ナリ。蓋シ参謀本部ハ将来各方面ニ対スル責任感上、兎角ニ尚支那方面ノ作戦ヲ努メテ短期内ニ終局セシメントノ希望已マス、自然北支、中支共ニ作戦ノ不徹底ヲ免レサルニ至レルカ如シ。殊ニ陸軍省側カ北支軍ノ意見ニ誘惑セラレテ全支那ノ将来政局ニ関スル判断ヲ誤ラントスルノ感アルハ憂慮スヘキモノナリ。統率部ノ不断ハ出先軍ニ自然独断的措置ヲ必要トスル事アルヘク、政策部ノ誤認ハ適宜ノ独断ト指導ニ依リ事実的ニ其妄ヲ覚ラシメサル可カラス。何レニシテモ今後予ノ責任ハ重大ナリト痛感シ、要スレハ一身ヲ犠牲ニスルノ覚悟ヲ要スル事アルヘキト覚悟セサルヲ得ス。一身ノ安ニ就クハ安シ。身ヲ捨テヽ国難ニ殉スル固トヨリ覚悟セル処ナレトモ、全軍統率ノ責任ナト考フレハ、唯々一身ノ腹切ル丈ニテハ全軍統率ノ責務ヲ完フスルノ所以ニモアラス、篤ト熟慮ヲ要スヘキノ秋ナリト自戒ス。

参謀本部第二部長陸軍少将　本間雅晴19期

◇一月二十九日、三十日

参謀次長ヨリノ来*電ニ依レハ、大本営ハ予ノ前後数回ニ亘ル公私意見ヲ採用セス、江北及西浙地方ニ対スル軍ノ作戦行動ヲ行ハサル事ニ決定セリトノ事、憤懣限リナシ。要之我陸軍ノ大勢ニ通セサル作戦部ノ腹ナキニ因スルモノナレト、此クテハ到底当地ノ政権成立ニ大ナル支障アルハ勿論ナリ。殊ニ昨今支那側ノ宣伝ト各方面ニ於ケル積極的作戦行動ニ対シ、トウシテモソノ出鼻ヲ挫ク事緊要ナルニ係ハラス、軍カ折角容易ニ此目的ヲ達成スルニ足ル兵力ヲ徒ラニ擁シツヽ、無理ニ消極的態度ヲ固守スル事ハ、自然将来江南地方ニ対スル我軍部ノ熱意ヲ表明スル事能ハス、折角動キツヽアル反蔣政客ノ決心ヲ鈍ラス事明ナレハナリ。

〈十一行略〉

◇一月三十一日　旧暦元旦

〈四行略〉結局予ノ現任中此地ニ完全ナル政権ヲ樹立スル事難ク、尚此様ノ政府、殊ニ陸軍ノ態度ニテハ今後仮令当地ニ政権ヲ設立スルモ其指導其他ニ許多ノ困難ヲ生スヘキニ付、予ハ此際強テ此地ニ政権樹立迄ハ行カス、地方自治会程度ニ止メテ、寧ロ一応内地ニ引上ケ、政府ヲ韃撻シテ爾後ノ諸政策ヲ立直ス事ニ尽力スル方良カルヘシトノ意見ニ一同同意ス。

〈十七行略〉

◇二月一日

今朝塚田参謀長ヲ召致シ、大体上述ノ如キ予ノ意ヲ述ヘタルニ、彼等幕僚ノ欲スル処又如此。勿論之ニ同意ヲ表シタルニ依リ、更ニ帰邸後、臼*田、長*ノ両人ヲ召致シ意見ヲ叩キタルニ、彼等ハ飽ク迄之ニ同意セス、予ノ在任中如何ニモシテ政権樹立ニ漕キツケントノ決意硬ク、又其後支那人トノ折衝ノ模様相当目的達成ノ見込アリトノ事ニテ、李擇一等モ今後専ラ此運動ニ専

「戦面不拡大方針」。北支那方面軍には二月三日電報している。

航空兵大佐　臼田寛三25期　上海派遣軍特務部員として維新政府の樹立工作に当たった。（宇都宮直賢回想録）

中支那方面軍参謀歩兵中佐　長勇28期

念尽力スル事トナレル等申シ、予ノ決意ヲ促ス事頻リナリ。

〈十九行略〉

◇二月二日

曩ニ帰朝ノ途ニ上リ昨日帰来セル伊藤述史公使来訪、東京各方面ノ情況ヲ聞ク。大体従来各方面ヨリ聞知セル所ニ異ナラス。要ハ政府、殊ニ外務、陸海軍ノ決意甚タ未タ心細ク、今後大ニ鞭撻ヲ加フルノ要アルトノ判断ニテ、唯近衛首相丈カ相当ノ決意アルノミニテ、末次内相、風見書記官長等カ唯一ノ後援者タル有様ナリトノ事ニテ、伊藤自身モ多分近ク帰朝ヲ命セラルヘク、今後寧ロ東京ニ於ケル画策ニ重要性アリトノ談ニ付、尚奮励尽力ヲ勧告ス。

〈十八行略〉

第十三師団ハ昨日鳳陽、臨淮関、定遠ヲ占領セリ。敵ノ抵抗ハ予想ノ如ク頑強ナラス、自然当方ノ犠牲モ少シ。マア之レニテ徐州方面ニ於ケル支那ノ宣伝的作戦ニ一蹴ヲ与ヘ得タルハ幸ナルモ、尚モ当方面ニ一層ノ強圧ヲ加フルノ要アルヘシト考フ、（欄外）

◇二月三日

特務部、謀略関係ノモノヲ集メ、政権樹立、地方自治工作ニ関スル状勢ヲ聞ク。其ノ大要ニ曰ク。

一、政権樹立運動ハ昨今漸ク本筋ニ入リ来ルヤノ感アリ。李*思浩ハ一時香港ニ遁レタルモ、近ク帰滬スベク、既ニ同人ノ各地ニ連絡セルモノ北支ヨリ二名来着セルアリ、温宗堯、梁*鴻志、陳*群、張*簫林等ヲ中心トシテ、二月中旬南京ニ華中政府籌備委員会ヲ組織シ、月内ニ政権樹立迄到達スルノ覚悟ヲ以テ画策ヲ進メツヽアリ、其見込可ナリト。

二、地方自治機関ハ、蘇州、湖州等ハ既ニ相当ノ成績ヲ挙ケツヽアリ。最近周鳳岐自ラ杭州ニ到リ、同地ニ自治委員会ヲ設立スル筈ナレバ、是等ノ諸機関ト前記政権ト連絡シテ、地方自

李思浩　一八七九年浙江省生　安福派要人、財政総長、中国銀行総裁を歴任。（『支那問題辞典』中央公論社、昭17）

当初、新政権に参加の意思を示していたが、香港に逃れたため、新政権樹立工作は頓挫した。（「日華事変をめぐる軍事・外交戦略の分裂と錯誤」高橋久志論文）

梁鴻志　一八八二～一九四六　安福派の領袖として段祺瑞政権下で活躍。一九三八以降、日本の傀儡〔汪〕政権の行政院長などをつとめる。一九四六銃殺。（コンサイス人名辞典）

陳群　福建の人、胡漢民直系の反蔣派。維新政府内政部長。（宇都宮直賢32期回想録による）

張簫林　青幇（チンパン）の巨頭・阿片商人。一九四〇年八月、汪精衛の和平陣営に加担したというので重慶側のテロ団に暗殺された。（みすず書房・現代史資料『阿片問題』解説による）

治ノ実績ヲ挙ケル事ニ努ムヘク、上海ニ政権樹立後ニハ、伝筱庵立チテ市政会、大道政府ヲ合同シテ上海市機関ヲ設立スルノ準備ニアリ

トノ事ニテ、大体是等ノ運動カ具体化シアルハ可歓。殊ニ李擇一モ奮起シテ是等首脳者ノ連絡ニ当ル事トナレリト云フハ是亦相当ノ仕事ヲナシ得ヘシト考ヘラル。

仍テ更ニ是等運動ノ妨害タル上海テロ団ノ清掃、新聞ノ取締等ニ一層ノ努力ヲ払ヒ、安シテ彼等ノ運動ヲ行ヒ得ル様、一般ノ情勢ヲ作為スルノ要ヲ述ヘ、其注意ヲ促セリ。

◇二月四日

〈十四行略〉

本間少将南京、杭州ヲ視察シ、帰来セルニ依リ、其後謀略ノ情況ヲ説明スルト共ニ一般支那人ハ少クモ徐州占領カ政権ノ発達ニ必要ナリトスル感想多キ旨ヲ説キ、参謀本部カ少トモ此際徐州攻撃ヲ決行スルノ決心ヲ定ムルノ要ヲ説キ、百十四師団ヲ江北ナル運河ヲ経テ陸路北支ニ転用スルノ利ナル事ヲ説明シ、参謀本部ノ研究ヲ促シタリ。尚将来軍カ浙江、安徽方面ニ対シテモ其占領地域ヲ拡大スルヲ要スルトノ予ノ従来ノ意見ヲ図示シテ与ヘ、研究ヲ依頼ス。

又軍編制ノ改変ニ就テハ敢テ異見ナキモ、軍司令官、参謀長ノ人選ニ付希望ヲ述ヘ、要スレハ予自ラ残留スル事オモ避ケサル事ヲ申含メタリ。

◇二月六日

朝八時出発汽車ニテ南京行。

沿道ノ状況凡テ著ク鎮静ニ赴キ、各地避難民モ漸次帰来シ、各地自治組織ノ成立シツ、アルハ可欣モ、未タ一般ノ状勢中々容易ナラス。支那人民ノ我軍ニ対スル恐怖心去ラス、寒気ト家ナキ為メ帰来ノ遅ル、事固トヨリ其主因ナルモ、我軍ニ対スル反抗ト云フヨリモ恐怖・不安ノ念ノ去ラサル事其重要ナル原因ナルヘシト察セラル。即各地守備隊ニ付其心持ヲ聞クニ、到底

予ノ精神ハ軍隊ニ徹底シアラサルハ勿論、本事件ノ根本ノ理解ト覚悟ナキニ因ルモノ多ク、一面軍紀風紀ノ弛緩カ完全ニ恢復セス、各幹部亦兎角ニ情実ニ流レ又ハ姑息ニ陥リ、軍自ラヲシテ地方宣撫ニ当ラシムルコトノ寧ロ有害無益ナルヲ感シ浩歎ノ至ナリ。

六時南京着、直ニ大使館ニ投シ、夜朝香殿下ノ御招宴ニ列ス。殿下ハ切ニ江北方面ニ於ケル作戦ノ必要ヲ述ヘラレ、又現兵力ヲ以テ裕ニ宿県辺迄ハ守備スルニ足ル事ヲ以テセラル。御同感ノ次第ニテ此以上積極的行動ハ、中央ノ考ノ変ル迄ハ可慎モ現状ヲ保持スル丈ハ異存ナキ旨申入レタリ。尚軍紀風紀問題ニ就而ハ、矢張第十六師団長以下ノ言動宜シカラサルニ起因スルモノ多キ旨語ラレ、全ク従来予ノ観察ト同様ナリ。

◇二月七日

朝軍司令部ニ至リ、軍司令官及参謀長ノ報告ヲ受ケ、尚幕僚ト懇談ス。各課長ノ意見モ矢張江北作戦ノ必需性ト容易性ヲ説キ、多少後方守備ノ兵力ヲ増加セハ、現第十三師団ノ兵力ヲ以テ廣ク宿県ヨリ芦州（合肥）ノ線ヲ占領スルニ適スヘク、後方補給モ亦現機関ヲ以テ実行シ得ル見込充分ナル旨ヲ聞ク。

午後慰霊祭ニ参列ス。予ハ去年南京入城翌日最初ノ慰霊祭ヲ自ラ祭主トシテ営ミ、今日亦五十日祭トモ云フヘキ此祭事ニ遭フモノナレト、曩ノモノハ戦勝ノ誇ト気分ニテ寧ロ忠霊ニ対シ悲哀ノ情少カリシモ、今日ハ只々悲哀其物ニ捉ハレ、責任感ノ太ク胸中ニ迫ルヲ覚エタリ。蓋シ南京占領後ノ軍ノ諸不始末ト其ノ後地方自治、政権工作等ノ進捗セサルニ起因スルモノナリ。仍テ式後参集各隊長ヲ集メ、予ノコノ所感ヲ披露シテ一般ノ戒飭ヲ促セリ。

忠霊（病死共）一八、〇〇〇余

斃馬一二、〇〇〇頭　（欄外）

終テ宣撫委員ヲ集メ其後ノ状況ヲ聞クニ、目下南京城内居住三十万ノ人民中十万余ハ城内ノ旧居ニ復帰シテ概ネ我軍ニ親ミツ、アルモ、尚半ハ不安ト外人側ノ庇護トニ因リ復帰セサルハ

遺憾ナルモ漸次著敷好況ニ進ミアリ、只自治委員ノ顔振レ如何ニモ貧弱ナルハ、財源ナキ為メ其施設ノ見ルヘキモノナキモ其一因ナリ。将来交通ノ恢復ト物資ノ出入ノ便ヲ講スルコト目下ノ急務ナリトノ意見ナリ。尤モノ事ナリト思惟シ、夫々機関ニ其旨ヲ伝ヘ今後ノ活動ヲ要求ス。

支那側ノ自治委員ノ各員ト会見ス。彼等ヨリ頌徳ノ意ヲ表スルニヨリ予モ其奮励、協力ヲ希望シ置ケリ。（欄外）

◇二月八日

朝兵站病院ヲ慰問ス。目下ノ患者数六百ニ過キス、其過半ハ平病ナリ。近ク窒*扶斯多少増加ノ状ニアルモ、只主トシテ第十六師団ノモノニ属シ、其後病源地方モ明瞭トナリタレハ、今後蔓延ノ患ナシトノ事ナリ。只病院ノ施設ハ未タ充分ナラス、数日前赤十字救護班（約五十名）ノ来着ニヨリ大ニ病院気分ヲ更メタルモ、尚設備其他ニ改良ヲ加ヘルノ要アリト認メ、右要求シタリ。

午大使館員等ト会食ス。宣撫工作ニ就キ、予ノ意図ヲ伝ヘ、一同満足セリ。尚外国関係ハ其後各方面ノ尽力ニ依リ、感情融和シ、此以上面倒起ラサル見込ナル旨承知シ、安心セリ。

昨夜軍司令官ノ会食アリ、各隊長等五十余名来会、盛会ナリ。予ハ宣撫ニ付希望ヲ述ヘ、兎ニ角支那人ヲ懐カシメ、之ヲ可愛カリ、憐ム丈ニテ足ルヲ以テ、各隊将兵ニ此気持ヲ持タシムル様希望セリ。（欄外）

午後二・〇〇飛行機ニテ出発、揚州、江陰上ヲ過キ五・〇〇上海帰着ス。

機上ヨリ見タル処ニテハ、各農村ハ格別ノ被害ナキモノ、如ク、揚州附近モ極メテ安寧ナリ。但地方ノ船舶ハ極メテ少ク、恰モ北方ニ牽致セラレタルモノ、如ク、今後江北運河、湖水等ノ作戦利用ニハ船舶ノ徴用殆ド不能ナリト認メラル。

鎮江ハ一般秩序ノ恢復比較的可良ナルモ、常州、丹陽、常熟等ハ最モ不良ニテ、無錫之ニ次キ、蘇州ハ最モ好成績ナリ。戦闘ノ被害程度ト地方自治機関ノ作用ニ依リ異ルモノ、如ク、丹

チフス

陽附近ハ最モ人気悪シキトノ事ナリ。其原因不明ナリ。

◇二月十日

〈五行略〉

東京ヨリ使者来着、新中支那派遣軍司令部編成要領ト人事ノ書類ヲ持チ来ル。畑*大将新司令官ニ、川*辺少将参謀長ニ予定セラレ、其他ハ現在方面軍及両軍ノモノヲ適宜充当セルモノナリ。予ノ離任ハ、実際自負ニ非ルモ時機尚早ナル事ハ、万人ノ認ムル所ナルヘキモ、中央陸軍部ノ妄、如此テハ、予カ徒ラニ留任スルモ其効果少ク、寧ロ帰朝シテ各方面ト接衝シテ今後ノ対支那政治ト軍事政策ヲ根本的ニ立直ス事緊要ナリト考ヘ、寧ロ喜テ離任ノ覚悟ヲ定メタリ。

〈十二行略〉

◇二月十一日

今日ハ紀元節日、朝来日本晴ナリ。

〈十九行略〉

原田少将、臼田大佐ヲ召致シ、其後政権工作ノ推移ヲ聞クニ、李擇一等ノ尽力ニ依リ梁鴻志、温宗堯、陳群トノ聯絡モ略成リタレバ、之レニ既ニ杭州ニテ活動中ノ周鳳岐ト、蘇州ノ陳則民等ヲ中心トシ、更ニ王*坏恵等ノ集メアル青年組ヲ合シ、二十日頃迄ニ「聯合自治委員会」様ノモノヲ設立スルノ運ニアルト云。マア此程度ニテ新政権ノ基礎トシ、徐々ニ各地人材ヲ集合シ、今後ノ形勢ニ応シ、国民大会、南北政権合流等ノ工作ヲ経テ、対国民政府反政権ヲ南京又ハ北京ニ設立スルノ計画ニテ進ム事ニ決意セリ。尚之カ為メニハ、此等ニ財源ヲ与フル為メ税関、塩税等ノ処理ト対租界問題ニ一進展ヲ劃スルノ必要アリ、研究ヲ促ス。

畑　俊六12期
河辺　正三19期

王士恵　早稲田大学卒、福建の人。岡田酉次（主計少将）回想録『日中戦争裏方記』によれば、軍司令部部員・臼井寛中佐の知遇を得ていたという。維新政府実業部長となる。

◇二月十四日

〈三十一行略〉

正午、軍艦「出雲」ニ於ケル長谷川長官ノ招宴ニ列ス。訣別ノ意味ナリ。即上陸以来ノ海軍ノ協力ヲ謝シ、尚今後ノ奮闘ヲ希望スルト共ニ、海南島占領ノ意見ヲ洩シタルモ、海軍側一同ハ、陸軍ノ協力ナケレバ独力到底其占領ニ当リ難キ意見ナルニハ失望セリ。仍テ予ハ目下上海、青島等ニアル陸戦隊約一万ヲ率ヒ之ニ当ツレバ、海南島岸要地ノ占領ハ困難ナラスト激励シ置ケリ。尚海軍ノ意見トシテハ、将来漢口ニ対スル航空作戦ノ為メ、是非安慶飛行場ヲ入手シ度、陸軍ノ安慶占領ヲ希望シオレリ。尤ニテ将来漢口攻撃ノ必要アル際ニハ、陸軍部隊ヲ此線迄少クモ進ムル事必要ニシテ、其兵力ハ一師団位ニテ足ルヘシト考ヘラル。

終テ上海東西本願寺ニ祭レル戦病死者ノ英霊ニ参拝シ、告別ヲナス。西本願寺ニ収容セル遺骨ハ、派遣軍最初ヨリノ総計約二万一千ニシテ、既ニ四千余ヲ還送シ、近々更ニ六千ヲ還送スヘキ予定ナリ。東本願寺ノ分ハ、第十軍ノモノニテ収容セル総計二千余、既ニ六百余ヲ還送シ、近ク更ニ三百ヲ還送スル予定ニテ、両寺ノ分共ニ遅クモ四月中ニハ全部ノ還送ヲ終ル計画ナリト云フ。打チ並フ多数ノ英霊ニ対シ、乍今更恐懼感激セサルヲ得ス。

実ニ両軍戦病死者ノ総数ハ二万四千ニ達シ、如此巨大ナル犠牲ニ対スル予ノ責任ノ重大ナルヲ思フ時、今頃凱旋ナト実ニ思ヒモ寄ラサル事ナレト、大命又如何トモスルナシ。痛恨ノ至ナリ。

◇二月十五日

予ハ此日幕僚ノ一部ヲ率ヒ方面軍司令官トシテ帰還スベキ正式命令ニ接ス。今更乍ラ感慨無量ナリ。新司令官ハ十七日着ノ予定ナレバ、申継其他最後ノ要務ヲ弁シ、二十日頃出発ノ事ニ定ム。

〈欄外四行略。本文五十八行略〉

◇二月十六日

軍司令部ノ訣別（欄外）

朝軍司令部ニ到リ方面軍幕僚其他部付将校一同ニ対シ訣別シ、左ノ要旨ノ訓示ヲナス。

一、今後内外ノ情勢ヲ察スルニ、今後軍ノ作戦ハ少クモ北、徐州ヲ陥落セシメ、銭塘江対岸ノ残敵ヲ掃蕩スルヲ必要ナリト認ムル事。

二、支那人ノ宣撫及軍将兵今後ノ言動ノ時局解決上極メテ重要性アル事ヲ説キ、軍紀、風紀ノ振粛等亦緊要ナルモ、更ニ軍ニシテ支那人ニ対スル宣撫宜シキヲ得サレバ、北支那駐屯軍多年ノ努力ノ如ク却テ日支ノ提携ニ悪影響ヲ与フル虞アル事。

三、軍ハ今後ノ情勢ニ応シテハ或ハ大本営ノ意図ヲ超越シテ行動セサルヘカラサル場合ナキヲ保セス、此場合ニ於テハ幕僚以下一団トナリ、能ク司令官ヲ補佐シテ一意其司令官ノ意図達成ニ努力スルノ覚悟アルヘキ事。

尚南京占領後二カ月間ニ於ケル大本営及政府ト予ノ意見ニ相違アリテ、遂ニ予ノ欲スル所ヲ実行シ得サリシ苦衷ヲ述ベ、今頃万事ヲ中途ノ儘ニ帰還スル予ノ胸中ノ苦悶ト感慨トヲ述ヘタリ。右ハ方面軍幕僚以下カ真ニ予ト一心同体トナリ、作戦ニ謀略ニ努力スルノ誠意十分ナラサリシト認ムル予ノ意中ノ一端ヲ諷示シタル意ナルカ、一同果シテ之ヲ如何ニ解セシヤハ不明ナリ。

正午、岡本*総領事ノ催ニヨル日本倶楽部ニ於ケル送別会ニ列ス。岡本総領事ヨリ一同ヲ代表シ感謝的挨拶アリタルニ対シ、予ハ出征間、予ノ強硬ナル言動ニ対シ相当ニ大使館側カ努力シクレタル事ヲ感謝スルト共ニ、予個人ハ其責任ト従来ノ抱負トニ鑑ミ、誓ツテ再来シテ時局ニ尽力シ度ク、今後共協力ヲ希望セリ。

岡本季正（すえまさ）（のちスウェーデン公使、オランダ大使）

◇二月十七日

臼田、長両人ヲ召致シ、其後政*権運動ノ経緯ヲ聞キ、努メテ梁、陳等ノ意見ヲ採リ、温宗堯ノ理想的考案ヲ避ケ、漸進主義ニ指導スヘキ事ヲ諭ス。

唐紹儀ニ返書ヲ認メ、時局柄是非発奮、万難ヲ排シテ東亜百年ノ為メニ尽力セン事ヲ依嘱ス。

此日蚌埠ニ来襲セル敵機数機アリ、我陸軍機之ヲ迎撃シテ其二機ヲ撃墜ス。蓋シ事変以来我陸機ノ最初ノ成功ナリ。敵機ノ操縦者、機ノ種類等未タ明カナラサルモ、多分蘇国人ノ蘇機ヲ使用セルモノト察セラル。

◇二月十九日

畑司令官着、申継。（欄外）

畑司令官昨日来着ニ付今朝軍司令部ニ於テ詳細申継ヲナス。其要領別紙ノ如ク、要ハ江北及銭塘江右岸ニ対スル作戦ノ必要ト、軍紀、風紀ノ維持ノ為メ軍隊ヲ可成集団屯在セシメテ、直接人民トノ接触ヲ減スルノ要アルヲ述ヘ、尚宣撫工作、政権其他ノ政治工作ニ就キ、軍隊直接ノ言動ハ却テ有害ナルヘキヲ述フ。

〈二十行略〉

◇二月二十日

終日在邸出発準備ヲ整フ。

先日来東京帰着并上奏ノ事杯参謀本部ト交渉中ノ処、結局陸軍当局ハ予等各司令部ノ帰還カ内外ニ影響アル事ヲ虞レ、秘密ニ之ヲ行ヒ凱旋ノ形式ヲ避ケ、東京ニテノ出迎ヘ、上奏ノ手順等従来ノ先例ヲ破リテ凡テ内輪ニ実施セントシ、各司令部モ日本ニ帰着ノ上可成地方ニ宿泊セス、直路東京ニ帰着ノ事ニ取計ハントシ、輸送等ニ付何乎ト干渉ヲ試ミ来ル。当局ノ意嚮笑フニ耐フヘク、何ノ意ナルヤヲ測リ難シ。如此姑息的当局ノ態度カ決シテ国民ヲ挙ケテ時局ニ奮迅セシムルノ所以ニアラサルハ論ナク、慨歎ノ至ナリ。

〈十四行略〉

◇二月二十一日

上海出発、凱旋ノ途ニ就ク。（欄外）

朝来出発ノ準備ヲ整ヘ午後一・〇〇塚田少将、中山、白木両参謀、角*副官ヲ随ヘ、尚小*川法務部長、河野軍医中佐ヲ同行シ瑞穂丸ニ乗船ス。〈二十八行略〉

〈以下行動ノミ〉

◇二十三日　朝一〇・〇〇門司入港。

◇二十五日　午後三・三〇東京駅着。参謀本部ニテ総長殿下ニ拝謁。

◇二十六日　朝香殿下、柳川中将、塚田参謀長等ト葉山御用邸ニ伺候。上奏、復命。優渥ナル勅語ヲ賜ル。

◇二十八日　参謀本部ニ至リ大臣、次官立会ノ下、総長殿下ニ出征以来ノ情況、目下ノ情勢、之ニ関スル意見等ヲ報告。大宮御所伺候。明治神宮、靖国神社参拝。各皇族、総理（病気）、海軍大臣、軍令部長、外務大臣等ニ挨拶。三長官歓迎宴。

政権樹立工作の模様について上海駐在の田尻（愛義）一等書記官は上村（伸一）東亜一課長に「政治工作の裏面には臼田、長の活動あり。ことに臼田は熱情漢にて松井将軍を送る際、将軍在滬中に政府をでかさざりしは自分の不徳なりとて涙をボロボロ出しておるほどなれば、将軍参内の日までに一切の準備を整え発表すべしといきまき〔おり〕」と報告している。（三月一日付）（『太平洋戦争への道』による）

歩兵少佐　角　良晴 32期
方面軍司令部附法務官　小川関次郎（前第十軍法務部長）

松井大将「支那事変日誌抜粋」

一、大命拝受

昭和十二年八月富士山中静養中、同月十四日陸軍大臣ノ召電ヲ受ク、上京、翌十五日宮中ニ於テ上海派遣軍司令官親補ノ勅ヲ拝ス。翌十六日、参謀総長ヨリ派遣軍ニ関スル奉勅命令幷参謀総長ノ指示ヲ受ク。

即派遣軍ノ任務ハ

上海附近ノ敵軍ヲ掃蕩シ、其西方要地ヲ占領シテ上海居留民ノ生命ヲ保護スルニアリ。

蓋シ当時ニ於ケル我政府ノ政策ハ、中支ハ勿論北支ニ於テモ努メテ時局ヲ局地的ニ解決シ、事件ノ不拡大ヲ根本主義トセルヲ以テ、上海附近ニ於テモ可成昭和七年列国ノ間ニ協定セル（一九三二年）停戦協定ノ精神幷其取極ニ遵ヒ、時局ノ一時的解決ヲ企図セシモノナリ。従テ派遣軍ノ任務ハ上記ノ如ク極メテ消極的ニ上海附近ノ防衛ト我居留民ノ消極的保護ヲ其目的トシ、派遣軍ノ兵力モ第三、第十一師団（二聯隊欠）ノ二個師団弱ノ微弱ナルモノナリシナリ。

二、詔勅拝受並奉答

八月十七日午前一〇・〇〇、予ハ宮中ニ於テ謁ヲ賜ヒ、左ノ勅語ヲ拝ス。

朕卿ニ委スルニ上海派遣軍ノ統率ヲ以テス。宜シク宇内ノ大勢ニ鑑ミ速ニ敵軍ヲ戡定シ、皇軍ノ威武ヲ中外ニ顕揚シ以テ予ノ倚信ニ応ヘヨ。

臣石根

仍テ左ノ如ク奉答ス。

上海派遣軍司令官ノ大命ヲ拝シ優渥ナル勅語ヲ賜ヒ恐懼感激ノ至ニ堪ヘス、畏ミテ聖旨ヲ奉戴シ、惟レ仁惟レ威克ク皇軍ノ本領ヲ発揮宣揚シ、以テ宸襟ヲ安シ奉ラムコトヲ期ス。

次テ陛下ヨリ、今後派遣軍ノ任務ヲ達成スル為メノ方針如何、ト御下問アリタルニ依リ予ハ直ニ

派遣軍ハ其任務上密接ニ我海軍ト協同シ、所在我官憲特ニ列国外交団幷列国軍トノ連絡ヲ密ニシ協力以テ速ニ上海附近ノ治安ヲ恢復センコトヲ期ス。

ト奉答セルニ、陛下ハ御満足気ニ之ヲ嘉納セラレタリ。

三、上海附近ノ戦斗ノ経緯

以上ノ我政府及統率部ノ方針ニ遵ヒ、予ハ上海附近ノ戦斗ニ際シ特ニ左記方針ヲ採リ、部下各隊ニ対シテモ常時此方針ノ徹底ニ努力セリ。即

一、上海附近ノ戦斗ハ専ラ我ニ挑戦スル敵軍ノ戡定ヲ旨トシ、所在支那官民ニ対シテハ努メテ之ヲ宣撫愛護ス可キコト。

二、上海附近ノ戦斗ニ依リ、列国居留民及其軍隊ニ累ヲ及ホサヽルコトニ専念シ、特ニ列国官憲及其軍隊ト連絡ヲ密接ニシ彼我ノ誤解ナキヲ期スルコト。

然ルニ上海附近ノ支那官民ハ蔣介石多年ノ抗日侮日ノ精神相当ニ徹底セルニヤ、到ル処我軍ニ対シ強キ敵愾心ヲ抱キ、直接間接居留民カ敵軍ノ為メニ我軍ニ不利ナル諸般ノ行動ニ出テタルノミナラス、婦女子スラモ自ラ義勇軍員トナリ又ハ密偵的任務ニ当レルモノアリ、自然作戦地域ハ極メテ一般ニ不安ナル状勢ニ陥リ、我作戦ノ進捗ヲ阻害セシコト尠カラス。殊ニ蔣介石ハ漸次支那各地ヨリ其軍隊ヲ江南地方ニ集結シ、我軍ノ作戦初期ニ於テ之ヲ撃攘スルノ計画ヲ有セシ如ク、所在支那軍ハ屢々夜襲其他ノ方法ヲ以テ我軍ニ向ヒ攻勢ヲ採ルニ努メタリ。

「因ニ九月十七日頃ニ於ケル支那軍ノ江南地方ニ集中セル兵力ハ既ニ四十三師ニ及ヒ尚西支那各地ヨリ約二十師ヲ集結シツヽアリタリ。」（欄外）

斯クテ上海附近ノ我居留民ヲ保護セントスル当初ノ消極的方針ハ容易ニ之ヲ達成スルコト難ク、速ニ我陸海兵力ヲ増強シテ江南附近一帯ヲ掃蕩スルニ非レハ、我軍派遣ノ目的ヲ達成スルコト能ハサルニ至リ、自然作戦ハ漸次ニ其局面ヲ展開シ、遂ニ第十軍ノ派遣トナリ、更ニ上海方面軍ノ編組トナリ、進テ敵ヲ江南以西ニ駆逐スルノ必要ヲ認メ、遂ニ南京攻略ニ進展スルニ至レリ。

而カモ最モ遺憾ナリシコトハ本作戦ニ対スル列国軍ノ態度ナリ。蓋シ支那ニ権益ヲ有スル列国カ本作戦ニ尠カラサル寒心ヲ有スルハ勿論ナリト雖彼等ハ一九三二年（欄外）「昭和七年協定」ニ於ケル列国ノ停戦協定ヲ協力支持シテ事件ノ発展ヲ阻支スルノ方針ニ出テスシテ、支那政府及其軍隊ニ対シ同情ヲ有スルノ余リ直接間接ニ支那軍ノ作戦ニ便宜ヲ与ヘ、時ニハ之ヲ援助スルノ行動モ尠カラス。殊ニ英、仏軍隊ノ行動ハ我軍ノ作戦ニ許多ノ不便ヲ与ヘタリ。而カモ我軍ハ隠忍只々列国官憲及其軍隊トノ諒解ヲ得ルニ努メ、我作戦ヲシテ列国官民ニ被害ナカラシメン為メ、有ラユル不便ヲ忍ヒテ事態ノ国際的紛糾ヲ招クニ至ラサルコトヲ期シタリ。

四、南京攻略ニ至ル作戦

我軍ノ上海附近作戦ハ派遣軍兵力ノ増派ニヨリ頑強ナル敵ノ抵抗ヲ排除シツヽ、多大ノ困難ト犠牲ヲ冒シテ十月二十五日漸ク大場鎮附近ノ敵ヲ駆逐シテ上海市及其東南方地域ヲ占領シ、上海在住我居留民及海軍ヲ救フヲ得タリ。然レトモ上海西南地域ニハ尚相当ノ敵軍抵抗ヲ持続スルノミナラス、浙江省方面ヨリ新ニ其兵力ヲ上海方面ノ派遣増強シツヽアリ、又蘇州、常熟附近ニハ予テ準備セル陣地アリ、南京トノ間ニ三重ノ陣地ヲ構築シテ江南地方ノ防備ヲ急キ、更ニ其兵力ヲ増強シツヽアルノ模様ナルヲ以テ、我統率部ハ江南地方ヲ確守シテ同地方ノ治安ヲ保持スルノ必要ナルヲ認メ、遂ニ十一月下旬ニ至リ上海方面軍ヲシテ南京攻略ヲ決行スルニ決ス。

曩ニ浙江東北岸ニ上陸中ナリシ第十軍（柳川中将ノ率ユル三師団）及元上海派遣軍（朝香宮中将ノ率ユル五個師団）ヲ上海方面軍司令官タル予ノ統率ニ属シ、十一月上旬ヨリ江南及東浙地方ニ現在セル敵軍ヲ駆逐シテ南京ヲ攻略スルコトトナレリ。

於此予ハ直ニ部下両軍ニ命令シ、各々当面ノ敵ヲ駆逐シテ南京東方紫金山ノ線ニ進出スルニ決シテ夫々追撃ヲ電署セリ。然レトモ本作戦ハ固ヨリ我政府本来ノ政策ヲ脱逸スルノミナラス、上海附近作戦ノ経緯ニ鑑ミ今後江南地方ニ於ケル大規模ナル作戦ノ実行カ、今後ニ於ケル日支両国ノ関係ニ大ナル影響ヲ及ホスヘキヲ憂慮シ、右追撃命令ニ対シ充分ナル考慮ヲ払ヒ、特ニ我軍ノ軍紀風紀ヲ厳粛ナラシメン為メ懇切ナル訓示ヲ与ヘタリ。本訓示中特ニ予自ラ加筆セル末文左ノ如シ。

敵軍ト雖既ニ抗戦意志ヲ失ヒタルモノニ対シテハ最モ寛容慈悲ノ態度ヲ採リ、尚一般官民ニ対シテハ常ニ之ヲ宣撫愛護スルニ努

メ、皇軍一過所在官民ヲシテ皇軍ノ威徳ヲ仰キ、欣テ我ニ帰服セシムルノ概アルヲ要ス。

加之南京攻撃戦ハ自然同地官民ニ許多ノ犠牲ヲ来スヘク、尚孫中山陵、明ノ高陵其他南京城内外ノ文化的史跡等ノ損害ヲ招クコトアルヘキヲ慮リ、各軍ニ令シテ先ツ南京城外ニ於テ其隊伍ヲ整ヘ正々堂々秩序アル入城ヲ行ハシメント欲シ、夫々懇切ナル諭示ヲ与フルト共ニ、南京敵軍ニ対シ懇切ナル勧降文ヲ散布シ、努メテ平和的手段ニ依リ南京攻略ノ目的ヲ達センコトヲ欲シタルモ敵軍ノ態度之ニ適ハス、飽迄南京城ノ防衛ヲ行ヒタルヲ以テ、遂ニ南京城内外ニ於テ相当熾烈ナル戦斗ヲ惹起シ、自然戦禍ノ及フ処甚大ナルニ至リシハ遺憾ノ至ナリ。尚敗走セル支那兵カ其武装ヲ棄テ、所謂「便衣隊」トナリ、執拗ナル抵抗ヲ試ムルモノ尠カラサリシ為メ、我軍ノ之ニ対スル軍民ノ別ヲ明カニスルコト難ク、自然其一般良民ニ累ヲ及ホスモノ尠カラサリシヲ認ム。

五、我軍ノ暴行、奪掠事件

上海附近作戦ノ経過ニ鑑ミ南京攻略戦開始ニ当リ、我軍ノ軍紀風紀ヲ厳粛ナラシメン為メ各部隊ニ対シ再三ノ留意ヲ促セシコト前記ノ如シ。図ラサリキ、我軍ノ南京入城ニ当リ幾多我軍ノ暴行奪掠事件ヲ惹起シ、皇軍ノ威徳ヲ傷クルコト尠少ナラサルニ至レルヤ。

是レ思フニ

一、上海上陸以来ノ悪戦苦闘カ著ク我将兵ノ敵愾心ヲ強烈ナラシメタルコト。

二、急劇迅速ナル追撃戦ニ当リ、我軍ノ給養其他ニ於ケル補給ノ不完全ナリシコト。

等ニ起因スルモ亦予始メ各部隊長ノ監督到ラサリシ責ヲ免ル能ハス。因テ予ハ南京入城翌日（十二月十七日）特ニ部下将校ヲ集メテ厳ニ之ヲ叱責シテ善後ノ措置ヲ要求シ、犯罪者ニ対シテハ厳格ナル処断ノ法ヲ執ルヘキ旨ヲ厳命セリ。然レトモ戦闘ノ混雑中惹起セル是等ノ不祥事件ヲ尽ク充分ニ処断シ能ハサリシ実情ハ已ムナキコトナリ。

因ニ本件ニ関シ各部隊将兵中軍法会議ノ処断ヲ受ケタルモノ将校以下数十名ニ達セリ。又上海上陸以来南京占領迄ニ於ケル我軍ノ戦死者ハ実ニ二万千三百余名ニ及ヒ、傷病者ノ総数ハ約五万人ヲ超ヘタリ。（欄外）

因ニ我軍南京攻略ニ関シテハ予ハ最初先ツ軍ヲ蘇州、湖州ノ線ニ停止セシメ、隊伍ノ整頓ト補給ノ進捗ヲ図リ、徐ロニ正々堂々ノ攻撃再挙ヲ行ハン事ヲ欲シタリシカ、我大本営全般ノ作戦計画上上海方面軍ノ一部ヲ他方面ニ転用スルノ計画ナリシト、敗退セル敵軍ノ江南地方ニ其隊伍ノ整理スル遑ヲ与ヘサルヲ有利トスル関係上遂ニ急劇快速ノ進撃ヲ決行スルニ決セリ。

尚本作戦間江陰附近ニ於ケル我海軍飛行機ノ米国軍艦パネー号爆撃及南京上流ニ於ケル我陸軍部隊（橋本砲兵聯隊）ノ英国軍艦及商船砲撃事件等ヲ惹起セルハ遺憾ナリシモ、コハ敗退スル敵軍ハ多ク英米等ノ艦船ヲ利用セルモノ尠カラサリシ事実ト追撃戦斗間避ク可カラサル我部隊ノ興奮トニ因リ其過誤ヲ招来スルニ至リタル次第ニテ、予ハ本件ニ対シテモ各部隊ニ対シ厳重ナル警告ヲ与ヘタリ。

又我軍ノ南京入城直後ニ於ケル奪掠行為ニ対シテハ特ニ厳重ナル調査ヲ行ヒ、努メテ之ヲ賠償返還セシムルノ方ヲ講シタリ。特ニ英米仏其他列国官民ニ対スル賠償ニ関シテハ我外交官憲ヲ介シテ努メ

テ友誼的ニ本件ノ善処ヲ図レルモ、戦場内ニアル列国人ノ財産生命カ自然戦禍ノ累ヲ受ケタルコトハ已ムナキ次第ト云ハサルヲ得ス。

六、本作戦ノ前後列国軍民トノ交渉ノ大要

上海上陸以来ノ作戦間我軍ハ常時爾後ノ作戦ニ伴ヒ一般居留民ニ予告ヲ与ヘ、戦禍ヲ避クヘキコトヲ警告スルト共ニ、我外交官憲ヲシテ屢次在上海列国軍官憲ニ懇切ナル予告ト警告ヲ与ヘ、更ニ協力的治安ノ維持ニ努メタリ。殊ニ英国艦隊司令長官リットル大将及同陸軍司令官スモーレット少将トノ間ニハ、予自ラ十一月十日及十七日ノ両日ニ亘リ親ク会見シテ彼我ノ意志疎通ヲ図リ、作戦間英軍及其官民ニ与ヘタル不幸ノ出来事ニ就キ遺憾ノ意ヲ表セルノ外、十一月二十四日及十二月二十五日ノ両回仏国大使及仏国海軍司令長官ト会見シ仏国租界及南市ニ関スル諸問題ニ付意見ヲ交換シテ彼我ノ諒解ヲ遂ケタルノミナラス、曩ニ南市ニ於ケル居留民保護ニ尽力セル牧師「ジャキノウ」氏ノ行動ニ対シ厚ク感謝ノ意ヲ表シ金若干ヲ寄附シテ其運動ヲ協助セリ。

米国海軍司令長官ヤーネル提督ニ対シテハ十二月二十四日全二十五日ノ両回ニ亘リ親ク会見シテ「パネー」事件ニ関シ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ、本作戦ニ関スル予ノ苦衷ヲ左ノ如ク開陳セリ。曰ク

予ハ固トヨリ上海附近ニ於ケル日本居留民ノ生命財産保護ノ任ヲ享ケ渡来シ、悪戦苦闘ノ上我軍ノ将兵二万有余ヲ失ヘル外、上海附近ニ在ル邦人ノ諸工場等ノ多クハ少カラス被害ヲ免ル能ハサリシカ、英米其他列国ノモノニ対シテハ個人的零細ナル被害ヲ別トシ、大工場、大建築等ハ全ク其戦禍ヨリ免レシムルヲ得タリ。是レ作戦ノ終始予カ部下諸部隊ニ厳命シ、我作戦上ノ不利ヲ忍ヒテ列国ニ戦禍ヲ及ホサル様取計ヒタル結果ニシテ今更乍ラ予ハ邦人ノ保護ヲ外ニシテ、列国ノ利権ノ擁護ニ全力ヲ致シタルノ結果ニ陥リ、我朝野ニ対シ深ク相済マサル義ナリト苦悶シツヽアリ。

云々

右ニ対シ「ヤーネル」提督ハ能ク予ノ意中ヲ解シタル如ク、又前ニ英国リットル提督ニモ同様ノ義ヲ申述ヘタルモ彼ハ充分之ヲ理解シ英国政府ニ対シ予ノ苦衷ヲ伝達スヘシト約シタリ。

斯クシテ予ハ上記屢次ノ英米両国海軍長官トノ間ニ十分ニ意志ノ疎通ヲ遂ケタルノミナラス、今後両国政府ノ態度如何ナルヘキモ吾等軍事当事者ハ、上海地方ハ勿論汎ク太平洋ノ平和ニ関シ協力的態度ヲ執ルヘキ旨ヲ誓ヒタル次第ナリ。

右ノ外予ハ機会ヲ捉ヘテ在上海列国新聞通信員トノ連絡ヲ図リツヽアリシカ、十月十日倫敦タイムス通信員「フレザー」氏及紐育タイムス通信員「アベンド」ヲ軍司令部ニ招キ懇談ノ機会ヲ与ヘ、先ツ予自ラ左ノ要旨ノ談話ヲナセリ。曰ク

予ハ三十余年来日支提携ノ事ニ微力ヲ尽シ来リタルモノニテ、其多年ノ信念ニ鑑ミ、今ニ於テモ支那ヲ膺懲スルト云フヨリモ如何ニシテ四億民衆ヲ救済スヘキカト云フ考ニ充タサレアリ。支那ハ今共産主義勢力ヨリ之ヲ救脱スルコト緊急ニシテ、是レ支那自身ノ為ノミナラス東亜全般ノ為真ニ喫急ノ事項ナリ。

於此予ハ日本固有ノ国民精神ト東洋伝来ノ道徳ノ根基ニ立チ、日本人得意ノ犠牲的行動ヲ発揮シ東亜百年ノ平和ニ貢献センコトヲ冀ヒツヽアリ。

願クハ欧米諸国ノ官民カ我等ノ此信念ヲ信倚シ暫ク日本ノ為ス所ヲ静観センコトヲ望ム。

尚両氏ノ質問ニ答ヘテ曰ク

上海地方ニ於ケル此種ノ事件ハ最早再ヒ之ヲ繰返サヽル様此度コソ完全ニ善処スルコト必要ナリト考ヘ、殊ニ上海ノ特殊地位ニ鑑ミ予ハ出発前ヨリ列国ノ協力ニヨリ之ヲ遂行センコトヲ期シアリシカ、其後内外一般ノ状勢及現地ノ状況ヲ体験シ、聊カ従来ノ希望ヲ失ヒタルノ感アリ、即列国カ一九三二年ノ停戦協定ヲ支那ニ遵守セシムルノ義務ヲ執ラサリシノミナラス其後本事件ニ関スル態度カ列国ノ協力ノ上ニ自信ヲ失ハシメタルヲ遺憾トス。云々

之ニ対シ「フレザー」氏ハ敢テ之ヲ論弁セス、如何ニセハ其協力ヲ遂ケ得ヘシヤ、反問セルニヨリ予ハ

右ハ列国カ日本ノ行動ヲ侵略的カ救済的ナルカノ根本観察ヲ改ムルコト先決要件ナリ。

ト答ヘタルニ彼ハ答ヘス。更ニ又「アベンド」氏ハ、右ハ米国ニ於テモ同様ナリヤ、ト問ヘルニヨリ予ハ

上海地方米国官民ノ態度ハ特ニ今日迄指摘スヘキホドノモノナキモ、最近米国ニ於ケル大統領ノ演説ノ内容ニ就テハ不満足ノモノナリ。

ト答ヘタリ。

尚十一月三十日再ヒ右両通信員ト会見シ、上海占領後ニ於ケル我軍ノ態度方針ヲ説明シ上海附近ニ於ケル列国ノ権益ヲ保護スル為メ予ノ執リタル苦心ノ程ヲ開陳セルニ、彼等ハ我軍ノ公正ナル態度ニ就キ感謝ノ意ヲ表セリ。

右ノ外十一月十日在上海AP、UP、ルーター、ハヴハス、其他各国ノ主要ナル通信員ト会見シ、上記同様軍ノ方針ト将来ニ於ケル企図等ニ就キ説明ヲ与ヘ、特ニ左ノ要旨ヲ述ヘタリ。

此次上海事件ノ発端ハ支那軍ノ江南方面ニ於ケル排日行動ニ対シ、列国カ日本ト協同シテ一九三二年ノ停戦協定ノ維持ニ尽サヽリシコトニ原因セリ。然カモ列国カ事変勃発後支那側ニ同情スルノ余リ日支ノ抗争ニ対シ中正ナル態度ヲ保持セス、中立的義務ヲ実行セサリシコトハ甚タ遺憾トスル所ニシテ、其結果戦禍ノ及フ所遂ニ列国官民モ之ヲ免レ能ハサリシハ已ムヲ得サル所ナリ。云々

之ニ対シテハ各通信員ハ何人モ敢テ之ニ対シ反駁的態度ニ出ツルモナク、之ヲ肯認セルノ風アリシヲ認メタリ。

附記

是等ノ消息ハ当時通訳ノ任ニ当レル岡崎外務書記官ノ詳知スル所ナリ。

了

上海派遣軍司令官拝命当時ノ所感

（日記ヨリ抽出）

予ハ陸軍出伺以来先輩ノ志ヲ継キ、在職間終始日支両国ノ提携ニ因ル亜細亜ノ復興ニ微力ヲ致セリ。其支那ノ南北ニ駐在スルコト十有余年、常時支那ノ官民トノ間ニ親睦ヲ図リ、相互民族ノ融和提携ヲ祈念セリ。満州事件起ルヤ予ハ自ラ感スル所アリ、我朝野同志ヲ糾合シテ「大亜細亜協会」ヲ組織シ、我同胞ニ対シ反省ヲ促シ亜細亜ノ大局ニ善処スヘキ国民運動ノ勃興ヲ図ルト共ニ、一面支那有識者ニ対シ孫文ノ所謂「大亜細亜主義」ノ精神ニ覚醒シ、真摯ナル日支提携ノ実ヲ挙ケンコトヲ勧誘セントシ、昭和九、十年ノ間両度支那南北ヲ歴遊シテ其朝野ノ知友ニ檄スルナト一日未タ三十年来ノ信念ヲ革ムルコトナカリシカ、今ヤ不幸ニシテ両国ノ関係ハ如此破滅ノ運命ヲ辿リツヽ予自ラ支那軍膺懲ノ師ヲ率ヒテ支那ニ向フニ至レルハ真ニ皮肉ノ因縁ト云フ可ク、顧ミテ今昔ノ感ニ禁セサル次第ナルカ事態ハ如何トモ致シ難ク、須ク大命ヲ奉シ聖旨ノ存スル所ヲ体シ、惟レ仁、惟レ威、所謂破邪顕正ノ剣ヲ揮ッテ馬稷ヲ斬ルノ慨深カラシメタリ。

〈巻末メモ〉

十月十日、倫敦タイムズ・フレザァ、紐育タイムス・アベンド会見。

十月十五日、死傷数。十月十六日、割腹機會。

十月二十八日、死傷数。十一月四日、中支那方面軍司令官、兼上海派遣軍司令官。十一月二十日、第一期会戦完成。

十一月二十三日、訓示。十一月二十八日、参本南京攻略決定。

十二月一日、参謀次長、南京攻撃ノ伝宣命令携来。

十二月二十二日、上海帰還。十二月二十六日、南京強姦ヲ戒ム。十二月二十九日、中山参謀。

十二月三十日、李擇一ヲ香港宋子文ニ遣ス。一月十六日、国民政府ヲ相手ニセス。一月二十四日、十六師ノ掠奪品ヲ検査セシム。岡田尚返ル。二月六日、南京ニ行ク。

二月七日、戒飭。八日上海帰還、遺骨二万ト。

「支那事変日誌抜粋」について

これは松井大将が昭和二十年十月十九日A級戦犯容疑者に指名され、翌年三月五日巣鴨に入所する前（病気のため入獄延期）に記したもので、いわば極東軍事裁判における訴追に対する対策としての覚え書きである。従って歴史的資料としての価値は低いが、最大の訴因と松井大将が予想した「南京事件」についての認識や、弁明の方向づけなどを探るには貴重な資料である。

文中にはまず上海出兵、南京攻略戦の止むを得なかった事情が記されている。事変は「中国に対する愛情ゆえの、膺懲というよりも四億民衆の救済として行なったもので、東亜百年の平和に貢献せんとしたもの」と主張されている。

「南京事件」は「外国権益の侵害、中国人民に対する暴行掠奪事件」と捉えられ、のちに問題とされたいわゆる「虐殺」についての認識は全く無い。

最大の問題は「外国権益侵害」であり、そして、各国軍司令官や記者とのやりとりに十分スペースを割いている。

次いで一般人民に対する暴行などに対してとった措置で、前記「涙の訓示」もその一つとして強調されている。ただしこの「抜粋」では、訓示は十二月十七日とされている。松井大将の記憶違いか、理由は不明である。

いずれにしてもこの「抜粋」から推定すれば、執筆時の松井大将の念頭に「虐殺」の認識は全くなく、法廷での「数十万の大虐殺」告発は寝耳に水の驚きであったことと思われる。

陸軍大将
畑俊六日誌 〈要約〉

昭和十三年二月十四日中支那派遣軍司令官

一月二十九日　本日より二月六日まで第七師団、第八師団留守隊の教育状況視察の為北海道、弘前地方に出張。

支那派遣軍も作戦一段落と共に軍紀風紀漸く頽廃、掠奪、強姦類の誠に忌はしき行為も少からざる様なれば、此際召集予后備役者を内地に帰らしめ現役兵と交代せしめ、又上海方面にある松井大将も現役者を以て代らしめ、又軍司令官、師団長等の召集者も逐次現役者を以て交代せしむるの必要あり。此意見を大臣に進言致しをきたるが、出張前大臣に面会、西尾(寿造)、梅津両中将を南北軍司令官たらしむるを可とする意見を申述べ出張したる処、意外にも二月五日夕青森に到着したる処本部長より特使あり書状携帯、それによれば次官、軍務局長は余を松井の后任に推薦し、余の后任は西尾を可とする意見なりとの内報に接し聊か面喰ひたる次第なるが、とにかく帰京の上とし六日朝上野に帰着したる処、大臣より面会したしとのことにその足にて官邸に至り大臣に面会したるに、大臣より上述の如き申出あり。上海は方面軍と二軍司令部との折合兎角面白からず、此際現役者を以て交代せしむるを適当とすべく。〈以下略〉

二月七日　〔教育〕総監は如何に伴食なればとて二、二六事件以来半年毎に交代し更迭頻繁なるの嫌あり。事自己に関することなればあまり我儘も云へず仕方なければ受くべしと決心し本日午前十一時大臣を訪問、外に人なき様なれば御請すべしと答へ置きたり。

二月八日　本日午前十時大臣より来てくれとのことに往訪、大臣は今北方が近く作戦するに南方が整理するは適当ならずと思考するも、中支方面の三司令部は各異なるイデオロギーにて勝手なることを云ひをり、松井は初めは此の如き大軍はいらぬと云ひ居たるに、近来は元来余は作戦よりは戦后の経営の為に出されたるものなりとの処見を述べ、中支にも北支よりも更に大なる政権を樹立し寧ろ南主北従の如き考へを有し、柳川司令部は政権など思ひもよらず此方面の兵力を三師団位とし其他は北方に備ふべしとの意見を吐き、殿下の司令部は尚作戦を継続すべしとの意見にて各思ひ〳〵の意見を吐き其間の統制面白からず、兵力は次として司令部は一日も早く取換ふるを可とする参謀本部の意見なれば速に出発せられたしとのことなり。余は其件了承したるも少尉か中尉ではあるまじ、そんなに急ぐに当らずと申述べ〈以下略〉

二月十四日　本日午前十一時より昭和十二年度教育上奏をなす。引続き十一時五十分親補式を行はせられ中支那派遣軍司令官に補せらる（陛下は中支那と詔せられたり）。

二月十六日　午前十一時参内、拝謁仰付けられ優渥なる勅語を賜ふ。恐懼に堪へず。之に対し、

優渥なる勅語を賜はり誠に恐懼に堪ませぬ。微力を尽して以て聖

旨に副ひ奉らむことを期します。

と奉答す。次でどうするつもりかとの御下問に、

軍は新たに受けましたる任務を努めて無理をせぬ様に、特に第三国とは極力摩擦を避けて達成致したいと存じます。又隷下団隊に対しては軍紀の確立、次期作戦準備の訓練を二つの指導方針と致したいと存じます。

と申上げたる処大にうなづかれ、更に「中支の政権はどうするか」と御下問ありたるを以て、努めて無理を致しませぬ様指導致しますと奉答し、「第二の満洲国とする様なことはあるまいな」との御下問に、御座りませぬと奉答したるに、御声高らかに「宜ろしい」と仰せられ之を以て拝謁を終り〈以下略〉

二月十八日　本日午前六時半頃上海より出迎への為上京せる池谷少佐、参謀名越(透)少佐を帯同、安藤(利吉)中将以下総監部の幹部、陸軍省今村(均)、木村(兵太郎)両少将等に見送られて飛行機にて出発赴任す。昨日の雨霽れて天気は晴朗なるも西風頗強く飛行機は大分動揺して聊か閉口したるも、一時間余り后に福岡に約十五分許り休憩の后、后二時半少し前呉松飛行場に到着、自動車にて仮の宿舎アスターハウスに入る。沿道劇戦の迹傷(ママ)ありて全然廃墟なり。唯見るものは軍人と租界内に少許りの内地人を見るのみ。復興は頗前途遼遠なるべし。

二月十九日　午前九時軍司令部に登庁、伺候を受けそれより殿下に拝謁す。昨日南京より后六時着滬せられたるに余が出迎に出ざりしとて御機嫌ならず。上海派遣軍の戦場にあり、今派遣軍が之を継承することなれば出迎を予期したるに誰も出ざるは何故かと参謀副長武藤(章)大佐に尋ねられたるを以て、副長は昨日四時半頃到着せられまだ申告も受けず司令部にも入られざるを以て出迎られざるなりと弁明したるにより了解せられたりとのことなり（実は司令部々員は出迎たりとのことなり）。この如きことありたることなれば殿下に拝謁、親補の挨拶をなし御戦功を御祝申上げ、昨日は四時半頃到着、今日初めて登庁したることなれば昨日御出迎をなさざりしは申訳なし、御勘弁を乞ふと御詫申上げたり。

十一時半より松井前軍司令官より申送を受く。大分今更未練がある様なり。大臣にも兵力を整理し現役を以て軍司令官を更迭するが可なりと手紙にて申送り、次長にも視察の際申居たる由なるがその后未練が出たるものと見ゆ。

二月二十一日　本日午后二時松井大将、参謀長塚田(攻)少将其他二、三旧幕僚瑞穂丸にて出帆凱旋、見送る。

二月二十二日　本日は柳川第十軍司令官午后三時東京丸にて出帆凱旋、見送る。

二月二十三日　本日は朝香宮殿下午后三時吉野丸にて御出帆凱旋遊され見送る。身体を大切にといふ有難き御言葉なり。本日より松井大将の住居せし官邸に入る。新任者を一時ホテル住ひにし、自分が現在の処におるといふのは一寸変なるも、松井大将も未練も出で、又殿下ももう少しといふ御気持らしく、余が着任したる時はあまりよい顔をせられざりしことだけは事実なり。

みすず書房『続現代史資料4』による

杉山書簡

杉山陸軍大臣から
松井大将宛書簡

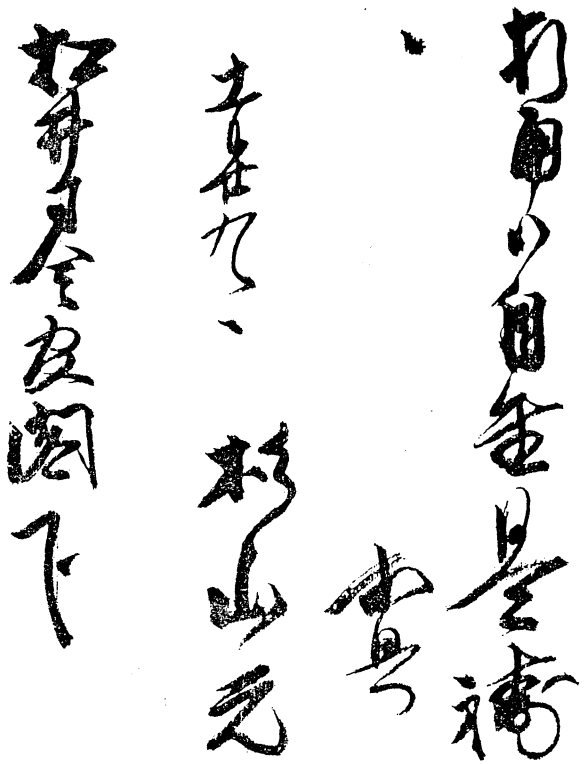
松井　石根 9期
杉山　元 12期

謹啓　屢々御懇信を辱うし
有難く深謝仕候
愈々御健勝連続
快速の戦捷に接し誠に
欣賀の至りに有之日
夜御辛労の程感謝
に堪へす候

御来旨の宣戦布告は種々　研
究候も利するよりも害多く
萬已むを得ざる迄は之を避くべく
大本営設置は已に御承
知の如く相進み南京
攻略の件も決定致し委
曲は多田次長出張の節

御承知下され候事と存じ候
従って目下御兼任相成り
居候派遣軍司令官も別に
専任せらるる筈に有之候
南京攻略後の工作
に就いては目下研究致し居り
其の節は一層現陣
様を整へ完璧に戦果

の獲得に遺憾なきを期
し度折角急速に御準
備くだされたく多田次長にも貴
意の存する処宜敷
お伝おき被下度
右取敢えず貴答旁
此くの如くに御座候



折角御自重是祷
候

敬具

十一月二十九日　杉山　元

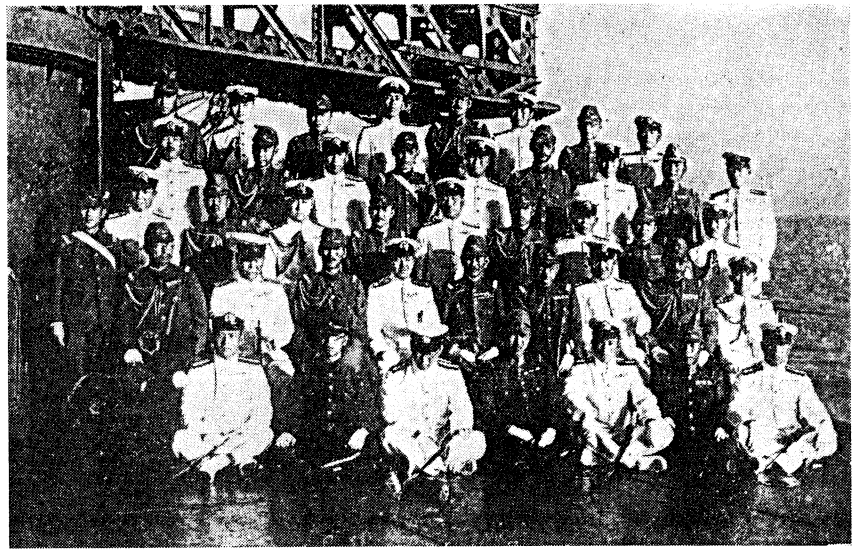
松井司令官閣下

【注】この初めて公表される松井大将にあてた杉山元陸軍大臣の達筆の書簡は、「南京攻略決定の次長電」が発せられた十一月二十八日の明くる日、認められている。多田次長が伝宣の大命を携えて上海に到着したのはその翌々十二月一日のことである。
松井日記には一切記載がないが、松井大将が「宣戦布告」について陸軍大臣に積極的な意見を述べたとも思われる書簡を送っているのが注目される（飯沼守日記八月十五日、十七日、十八日の項を参照されたい）。
またその宣戦布告を陸軍中央が「万已むを得さる迄は之を避くべく」と、「利害」によって判断しているのは、当時の国情をよく物語っている。
（資料提供・鷹尾　敦53期氏）

昭和十二年八月十五日～十三年三月十五日

飯沼　守日記

陸軍少将・上海派遣軍参謀長21期



昭和十二年九月五日「由良」艦上にて

田中機関特務中尉　松田中佐　二川大尉　上村大佐　金原少佐　友成大佐　山根特務中尉　中嶋主計中佐　飯沼少将　山本中尉　寺垣中佐　松井大将　島本機関中佐　南雲少将　杉田軍医大尉　森重少佐　川上中佐　西原大佐　関口大尉　山口中佐　中垣機関大佐　酒井大尉　芳村中佐　長中佐　上原中佐　角少佐

則武機関少佐　吉川少佐　西村少佐　佐久間機関大尉　大須賀少佐　福田少佐　大内少佐　須賀崎機関大尉　山下大尉　御厨少佐　玉井大尉　武市少佐　櫛田少佐　本郷少佐　石川大尉　岩尾少佐　佐々木大尉

飯沼日記について

これは上海派遣軍参謀長として、上海から南京に至る作戦指導の中心人物であった飯沼守少将の陣中日誌のうち、昭和十二年八月の出征から十二月までは全文、十三年一月より三月までは主に南京事件関係部分を抜粋したものである。

日記で見る飯沼少将は手堅い能吏型の軍人で、コマメに感情を極力排して、参謀職としての日常業務が詳細に記録されており、日記としての信頼度は非常に高い。外国権益に関するトラブル、松井司令官の訓示の内容なども忠実に記録されており、支那事変初期の軍内部の消息を探る戦史的資料としても、いわゆる南京事件解明の資料としても価値が高い。特に、松井日記の前半（出征から十月末まで）が行方不明である現在、上海戦についてはこの日記が最高の個人資料であり、初めて公開されたことは、戦史研究上極めて価値あるものと考える。

以下に松井日記と照合しつつ上海派遣軍の行動と飯沼参謀長の考え方を簡単に調べてみよう。

日記は派遣軍司令官松井大将の親任式のあった八月十五日から始まる。この際述べられた希望事項のトップが「海軍殊に航空隊との指揮関係」であったことは、興味深いものがある。最初のトラブルは、早くも九月初めの公大飛行場確保について、飯田支隊をめぐって起こっている【九・三、八】。

派遣軍としては、宣戦布告と南京攻略を主張し、正規三個師、新設二個師の五個師団を要求している【八・一七】。みどり（催涙性）瓦斯弾の使用も検討されているが、中央部では使用をためらい【八・三一、九・一六】発煙筒と共に若干の混用を黙認したが、後、陛下の御宸念あらせらるるにより、使用せぬことになった【一二・一】。

充分な準備なしに戦争に突入したため、たちまち弾薬が欠乏し、八月末にはもう海軍から、あるいは3Dと11D間での融通でやり繰りが始まっている。十月には野・山砲弾は一日一門十～五発という惨状を呈し、砲数あれども弾薬なしで、いたずらに歩兵の犠牲を多くしている【一二・一】。

陸軍は対ソ第一期作戦用兵力を全部使用し尽くし【九・四】、九月末、上海への増援は常備の第九師団以外は特設の第十三、百一師団であった。しかし特設師団の戦意・戦力は甚だ低く、頑強な中国軍の抵抗に遭うと、全く前進が止まり、戦線の弱点となった。百一聯隊長加納大佐の戦死はこのような状況下での〝憤死〟であった【一〇・一一】。

上海戦では松井司令官が自ら作戦を指導するケースが多く、次第に参謀、ことに作戦主任西原一策大佐との間に齟齬を生じ、命令二途に出る場合もあり、西原大佐がヤル気を無くしたことが記録されている【一〇・一六】。司令部と現地部隊との意志疎通を欠き、兵器の不良、弾薬不足、司令部の強行命令など、苦戦と相俟って部隊の不満が増大し、松井司令官もその苦衷を述べて兵団長を慰撫する苦心の訓示を行っている【一〇・八、九】。

大場鎮陥落後、蘇州河渡河戦においての最大の困難は外国権益の

問題で、作戦が如何に影響されたかが日記から察せられる。

十一月、現地軍の大勢は南京攻略に固まって、大本営の制止は事実上無視されており、問題は前線への食糧・弾薬の補給であった。日記では南京への進撃が当然のように各部隊に手配され、南京攻略の内命も特に感激なく記されている【一一・二九】。

十二月初め朝香宮司令官の着任、松井大将の方面軍司令官専任により飯沼少将の意気は昂り、権限も非常に強力になった。「仮令方面軍ヨリ何ト云ハル、トモ」やるだけはやるぞ！ の記述【一二・八】は、殿下のご意向にかりた飯沼少将の決意と見られるが、ここから生じた食違いは事態を悪化した。統帥の機構から棚上げされた【一二・一七】松井大将の指導力は形骸化し、南京占領に伴い予想される種々の面倒な状況に対する方面軍の事前措置は、戦闘部隊指揮の立場からいえば「平時的気分濃厚」ゆえ気に入らぬ【一二・九】ものと映った。逆に敗残兵掃蕩の困難と治安確立の時間不足を訴える現場の意見は、恐らく政略面重視からの入城式早期挙行の方面軍の意向の前に無視される。

南京占領後においてもこの食い違いは続き、国際関係重視の方面軍の意向は「上海気分ト南京気分ハ違フ」【一二・二九】と批評され、南京に於ける我が軍の非違非行に対する受け止め方も、後世の目から見ればまことに手ぬるい。これを戒める松井大将の訓示に対する批評も、「老婆心」【一二・一八】「凱旋気分」【二・七】などと冷淡である。

松井大将と意見が一致した点は、進攻作戦続行、占領地拡大で、これは当時の現地軍の主流をなした基本構想であろう。ところが参謀長としての立場上、皇族たる司令官にブレーキをかける役回り【一・二四】になる。

南京戦及び南京事件に関連して気付いた点若干を以下に記す。

① 敗残兵の湯水鎮司令部襲撃事件は、従来十二日とされていたが、十三日であった。堯化門、仙鶴門鎮の戦闘も含め、南京東郊ではこの数日、太平門から脱出した中国第六十六軍を主力とする中国兵との遭遇戦が各所で起き、第十六師団はこの掃蕩に忙殺されている。脱出に成功した中国兵の数はかなり多いはずである。

② 派遣軍、特に掃蕩実施にあたった第十六師団は十七日の入城式に不安を感じ、延期を上申したが方面軍に拒否された。

③ 第十三師団山田支隊の捕虜については、第十六師団に接収せしむ【一二・一五】。榊原 参謀が連絡に…【一二・二一】等からみて、飯沼参謀長自身は処分を命令していない。しかし、処分したとの噂に対しても無関心である。

④ 派遣軍司令部が湯水鎮から南京城内首都飯店に移ったのが十二月二十三日、占領十日目である。結果論だがこの間が、いわゆる「南京事件」にとって決定的な十日間であった。何ゆえ湯水鎮に止まっていたのであろうか。

⑤ 十二月二十四日の兵団長会同の報告は各部隊の正確な内情を記録した重要な記述である。

⑥ 十九日頃より日本軍の非違行為の報告が始まり、ついに十二月三十日、各隊副官を集め厳重注意を為すに至る。また、方面軍・中山参謀が不軍紀の注意と、総長大臣連名の電報（国際関係に関する件）を持参する【↓松井日記一二・二九】。

⑦ 正月早々からソ連大使館に怪火あり、参謀総長要望【一・一二】始め中央からの度々の注意、司令部の会報・訓示にも拘わらず

非違行為は収まらなかった。日記はその数々を率直に記し、朝香宮司令官もしきりに気にされている。

⑧ 本間少将は国際情勢を説いて現地軍の自重を促し、米領事館侵入事件を陳謝し、各国領事を招待して事態の鎮静に成功している。

⑨ 二月七日の慰霊祭後、松井大将の「軍紀風紀に対する訓示」夜の会食の際の「宣撫に対する希望」【↓松井 日記二・七、二・八】の真意はついに飯沼少将に理解されていない。なお、二月八日夜飯沼少将は「上海の新聞支局長」と会食しているが、これは松本重治氏であろう。

◇八月十五日

八月十五日ニハ参謀副長上*村大佐ト協議　松井軍司令官親任式後申告、其際希望事項トシテ述ヘラレタル所次ノ如シ

海軍殊ニ航空隊トノ指揮関係

現地外務省官吏ニ勝手ナコトヲ為サシメサル処置

軍司令部嘱託又ハ兼務者ヲ置クコト

此作戦ハ某時期ニ宣戦ヲ布告シ徹底的ニヤラサレハ依然禍根ヲ残ス　海岸封鎖モ有効ナ手段

各国軍隊等ト協調、リードスル為英語ニ達者ナ少将級ヲ部附トシ度

大使館附武官、特務機関ノ指揮関係ハ如何

◇八月十六日

更ニ宣伝謀略ノ為海軍ノ□□大佐ヲ兼務セシメ難キヤ或ハ佐*藤安之助少将ヲ嘱託トシテハ如何　安江ハ如何　トノ相談アリ

既ニ戦地ニ在ル幕僚ノ他本夜*芳村参謀桜*井第十四碇泊場司令官先行ス

軍司令部兼海軍参謀、11D兼海軍参謀ニ会フ（根本参謀ハ11D附ニ決定シテ達シテ置イタ）

みどり筒ニ関スル指示

3Dヲ11D大隊ニ併立上陸ノ件

下流ヨリ上流ヘ上陸点変更ノ件能否

先遣参謀集結ノ方法

企図秘匿偽騙ノ方法手段

陽動ノ件

催*涙筒使用ハ別ニ指示ストアリ之ニ関シ石原少将ニ意図ヲ確メタルニ結局第一線ニテ適宜発

歩兵大佐　上村利道（うえむら）22期

退役陸軍少将　佐藤安之助6期
スイス公使館附武官を経て昭和10年1月6日臨時軍事調査委員長、11年4月1日退役

歩兵中佐　芳村正義28期

歩兵大佐　桜井省三23期

催涙ガス筒　主剤は塩化アセトフェノン＝「みどり1号」と称せられた

煙筒ヲ混用スル程度ニ使用已ムヲ得サルヘシ

海軍ハ国際都市ニテ之カ使用ヲ嫌ヒアリ

尚敵ニハ瓦斯ノ準備アリヤノ情報アリ

我ガ催涙筒ヲ使用シタル為敵ニ瓦斯ヲ使用サレテハ少々困ル

◇八月十七日

午后海軍松田参謀ヨリ上海方面戦況説明（司令官以下）特*陸、四、五〇〇　本朝旅順ノ二大隊、佐世保二大隊ヲ急行セシム

海軍艦艇航空部隊ノ配備説明

五戦隊「足柄」三木少将

作戦主任代理川上少佐ヨリ作戦要領説明

軍司令官ノ意見

軍司令部ノ編制　少将ヲ長トスル宣伝部、陸海軍ヨリ各二名位　外ニ軍人以外ノ嘱託

海軍陸戦隊ノ指揮系統不明確ナリ

将来ノ状況ノ変化ハ爾後陸軍ヲ増派シ徹底的ノ戦果ヲ収メサルヘカラサルニ至ル公算大ナリ、北支ニ如何ニ兵力ヲ用フルモ根本的全面的ニ解決シ得ス　結局南京攻撃ヲ有利トスヘシ

之カ為山東ハ放棄シ中支ニ兵力ヲ増加シ南京攻略ハ兵力ヲ以テノミヤルニアラス経済的ニ封鎖スルヲ可トス故ニ宣戦布告ヲ必要トス

陸軍大臣、次官、海軍大臣ニハ意見ヲ述ヘ編組ヲモ大体ヲ話シ本*間少将ニモ述ヘアリ

教育総監次官ハ同意

明十七日午後、次*長第一第二部長総*ム部長列席ノ上意見ヲ述フ　正規三師新設二師ニテ可ナルヘシ航空ハ台湾ノモノ全部

十七日午後　部長会報ノ時

「特陸」は海軍特別陸戦隊

参謀本部第二部長　本間雅晴19期

参謀次長陸軍中将　多田　駿（はやお）15期

総務部長・陸軍少将　中島鉄蔵18期

経理部長ヨリ　糧秣120D分ヲ28／8～9／9マテニ三回ニ分ケテ揚陸
水ニ関スル器材ヲ九月上旬迄ニ揚陸セラルルモ其数ハ不足ヲ来スヘシト考ヘラル
防毒被服ハ実数ハ22／8搭載　甲二八〇〇〇、乙九〇〇〇覆面手袋、厚底足袋等
熱地用天幕6コ
建築ハ技師二名技手若干アリ現地ニテ雇傭、六万坪バラック用材内三、〇〇〇坪ハ第一次現地徴集ヲ実施シツツアリ（三井物産ニテ実施中）
冬営準備モ北支ト共ニ進行ス
建築輸卒隊モ7Dニテ編成セラルル筈
飛行場ニ輸卒隊使用ノ要アルヘシ
軍イ部長
防疫ニ就キ注意、予防接種赤痢、コレラ、チブス種痘ヲ行フ　上海ニハ天然痘、香港ニコレラ、ペスト発生シアリ　軍司令部モ漏レナク実施シタシ
給水ノ方法ヲ指導ス
各種ノ錠、携帯用酸素等新ラシキ物モ追送セラル，
持病ノアル方ノ為予メ準備シタシ
全般ノ情況、海軍、敵情ノ概況説明
司令部ノ出発予定（三回ニ分レル）
総ム部長注意
北支部隊ノ暗号使用悪シ即平文ノモノ例ヘハ新聞発表ト同文句ヲ暗号ニテ送ル等ノ例アリ

◇八月十八日

午前　勅語伝達　軍司令官ノ部員ニ対スル訓示
3D参謀長、11D高級参謀来部

一般状況説明
Ⅲ*／43ⅰ　BA一中藤本少佐　3Dノ上陸掩護部隊駆逐艦四ニ乗艦
5iB片山少将　6ⅰ倉永大佐、Ⅱ／68ⅰ　P二小　IA（二中）
D司令部「羽黒」　先遣隊ノ残リヲ戦艦ニテ追及セシムル案協定中
3Dハ小栗大尉残ル　11Dハ22ⅰ　43ⅰ長残ル
戦闘上ノ注意（別紙）ヲ師団参謀ニ達ス
三長官招宴ノ席上司令官ノ挨拶中軍ノ任務ニ不満ナル意味アリ　中島総ム部長カラ作戦命令モ勅語モ手続ハ同様ニテ勅語モ作戦命令ト同様、作戦命令モ勅語同様ノモノニテ之ヲ批判スルカ如キハ不謹慎ナレハ克ク言フテ置テクレトノコト補佐ノ足ラサリシカ原因吾等カ注意シ尚機ヲ見テ申述フヘシ
十八日午後三・〇〇
次長、総務、第一第二部長集合
司令官　全般的対支政策ニ就テモ報告シ度シト考ヘアルモ更ニ頭ヲ整理シ案ヲネリ上陸直後軍司令官ノ意見トシテ申述フヘキモ意思疎通ノ為今考ヘ居ルトコロヲ申上ク
局地解決不拡大案ハ放棄サレタルニ就キ作戦モ之ニ転移順応スヘキモノト考フ
国民政府存在スル限リ解決出来ス、従来通リノ姑息ニテハ不可トノ政府ノ声明ナリ　蔣下野国民政府没落セサルヘカラス　英米ソ国ノ関係アルモ対支目的ニ邁進スルヲ必要ト考フ
先ツ支那問題ヲ解決セサレハ対ソハ解決セス支那問題片付ケハ対ソモ衂ラスシテ或程度解決セラルヘシ　英モ支那問題ヲ断乎解決セハ随従スヘシ
日清戦役川上*総長ノ説ニモ支那ヲシテ日本ノ言フコトヲ聞カシメタル後初メテ対ソ戦ヲ起シ得トアリ　今尚同シ様ナ考ヲ持チ得
以上ニ応スル自分ノ考ヲ成ルヘク少数ノ兵力ニテ作戦スルヲ要スルハ勿論ナルモ某程度断乎トシテ必要ノ兵力ヲ用ヒ伝統的精神タル速戦即決、北支ニ主力ヲ用フルヨリモ南京ニ主力

Ⅲ／43ⅰは歩兵第43聯隊第3大隊
BAは山砲、ⅰBは歩兵旅団、
6ⅰは歩兵第6聯隊、Pは工兵
3Dは第3師団

川上操六　日清戦役には参謀本部次長兼大本営兵站総監として従軍、明31・1・20参謀総長

ヲ用フルヲ必要トス　之ニ就テハ結末ヲ何処ニスヘキヤノ議論アルモ大体南京ヲ目標トシ此際断乎トシテ敢行スヘシ　其方法ハ大体五、六師団トシ宣戦布告シ堂々トヤルヲ可トス　宣戦ヲ必要トスル主理由ハ対国内、次ニ対支上有利ナルニ在リ

今度ノ事件ノ起因モ支那人ハ日本人ハイイガ軍部ガ侵略主義ナリト宣伝シ信セシメアルコトニ存ス

次ニ武力ノミニテヤルハ不可、経済的ニ圧迫ス

英米ノ援助ヲ遮断スル為封鎖ス

斯ク短時日ニ南京ヲ攻略ス

之等ハ勿論諸君ノ既ニ研究セラレアルトコロナルモ此際白紙ニ立チ帰リ考究セラレタシ

首相外相モ敢テ反対セサリキ

自分ノ考ヘヲ参考マテニ

小サキ問題ナルモ

軍ハ或作戦目的ヲ達スル迄ハ作戦一方ニテ可ナルモ此作戦ヲ容易ナラシムル為宣伝謀略ヲ必要トシ軍ニ特別ノ機関ヲ設ケ海軍、外務一体トナリテモヤル様ニ上海占領直後ニ出来レハ最モ可

軍ニ直接関係ナキ事ハ外務関係ニテヤルトノ指示ニテ現在ハ適当ナルモ将来ハ軍司令官ノ一手ニテ握リ度シ、作戦ヲ容易ナラシムル為進ンテ渉外事項迄軍司令官ノ手ニ握ル

之ハ勿論作戦目的ノ変化ニ伴フテノコトナリ

次ニ海軍トノ関係、総長殿下ヨリ非常ニ御懇篤ナル御詞ヲ頂戴シ感激スルト共ニ之ナラハ大丈夫協同ハ良好ニ行クト認メアルモ陸上作戦ニ移リタル時海軍航空隊カ果シテ従来通リ積極的ニナリ得ルヤ疑念アリ　故ニ少クモ陸上ニ在ル海軍ハ指揮下ニ入レラレタシ

第二部長　宣伝ニ就テモ相当ノ人ヲ派シアリ原田少将モ軍司令部附兼トシ楠本モアリ大体動ク様ニ考ヘアリ

原田熊吉22期　昭4・4・12軍事課支那班長　6・8・1南京駐在武官7・2・26　上海駐在武官代理、陸軍きっての中国通　12・8・13駐支武官

歩兵大佐　楠本実隆24期　昭11・8・1参本附（上海駐在）12・9・4兼上海派遣軍附（特務部総務班長）

石原　今ノ作戦目的ヲ達セラレタル後南京ヲ幾何ノ兵力ヲ以テ幾何月ニテ攻略シ得ルカヲ研究サレタシ　本部ニテハ之等ノ資料少シ　今ノ処ニテハ昨年以来全然変化シ不可能ト考ヘアリ　情報モ手ニ入リ難キモノト思ヒアリ　個人トシテハ永ヒケハ全体ノ形勢カ危イモノト考ヘアリ

司令官　意見ノ相違ナルモ尚研究セン

次長　南京攻略ノ着想ハ誰レシモ同様ナルモ具体的ニ研究スレハ困難益々加ハル

蔣介石ハ如何ナル情況ニテ下野スルヤ

司令官　南京ヲ攻略セハ下野スヘシ

次長　出来ナイカラトテ努力セサルニアラサルモ予想ノ外レルコトモ考ヘサルヘカラス

司令官　山東ハ此際兵力ヲ用フル必要ナシ

特設師団ニテモ可

次長　特設師団ナラス野戦師団ノ素質モ予想以外ニ悪シ、マシテ特設師団ニ於テオヤ

司令官　今ハマダ移リ変リノ時機モ判ラス只参考迄ニ考ヲ述フ

石原　書類ハ墨守サルル必要ハ絶対ニナシ

確実第一主義

山東ニ出兵スルハ政策的ニテ約束ズミナリ

中島　本班長木村*モ派遣ス　宇都宮*モ帰サス留メアリ

午後　八月十五日午前一・一〇発表ノ政府声明*ヲ陸軍次官ヨリ通牒ヲ受ク

◇八月十九日

午後一・〇〇発　車中ニテ西原ヨリノ電報ヲ見ル　3D先遣隊ハ第三艦隊陸戦隊一大隊（600）ニ3Dノ一部ヲ加ヘタルモノヲ駆逐艦ヲ横付ケシテ上陸セシメ他ヲ其援護ノモトニ上陸セシム

砲台ノ北方河岸ハ上陸及爾後ノ作戦ニ適セス　11D方面ハ上陸シ得

歩兵中佐　木村松治郎27期　参本部員

上海武官輔佐官　歩兵少佐　宇都宮直賢32期

「支那軍の暴戻を膺懲し以て南京政府の反省を促す為今や断乎たる措置をとるの已むなきに至れり」。いわゆる「暴支膺懲」声明。異例の真夜中の発表である。八月十五日という日付も後に至って想えば、感慨深い。

参本ノ努力ニ依リ応急部隊中11D残リノ歩兵全部3D一旅ノ残リハ軍艦ニテ輸送先遣隊ニ引キ続キ上陸シ得ルコトトナレリ

六・三〇頃名古屋着八勝閣ニ一泊

◇八月二十日

午前七・〇〇宿舎発熱田神宮ニ参拝九・三〇　過桟橋発港外碇泊ノ足柄ニ乗ル　第二次先遣隊移送ノ主力艦第三戦隊司令有地中将来訪　一一・三〇分出帆二十二日朝二・〇〇頃馬鞍島着ノ予定テ二五節前後テ走ル

第二次先遣隊モ午後三・〇〇熱田出帆ノ電報ヲ受ク第11Dモ〇・三〇ト午後四・〇〇頃ニ出発シタ

「足柄」ニハⅡ／68ｉ（大隊長矢住政之）乗艦西原大佐カラ3Dハ桟橋ニ11Dハ劉河鎮ニ上陸二三日未明ト予定スル旨ノ電報アリ獅子林砲台南側ノ上陸可能ナリヤ否ヤヲ問ヒ合ス

参謀次長ヨリ海軍ニテハ近日中佐世保ヨリ陸戦隊一大隊ヲ崇明島ニ派遣シ飛行場占領ノ企図ヲ有ス同島ニハ保安隊三大隊アリ陸軍ニテ敵前上陸ノ要領ニテ一部ヲ出サレ度旨電報アリ

◇八月二十一日

波極メテ静カ乗艦部隊志気旺盛　午前一〇・〇〇カラ司令官兵室ヲ巡視　一一・〇〇海軍ト記念写真　現地海軍カラ三戦隊参謀ニ馬鞍群島ニテ駆逐艦ニ移乗スル準備ヲ依頼スル旨ノ電報アリ第3師団参謀長ヨリ野砲ノ移乗ニ就キ配慮アリタキ旨電報来ル

午後川上参謀ノ立案シタ作戦計画ニ就テ研究夜司令官ニ之ヲ説明若干ノ修正ヲ加ヘ大体ノ案ヲ決定ス　即殆ト全力ヲ以テ川沙河南側ニ揚陸、其根本理由ハ上陸部隊カ敵ノ側面ニ進出シ得ルコトト上陸容易ナル個所ヲ選ヘルトニ存ス、此上陸点以外ハ敵ノ防備厳重ニシテ上陸困難ト予想セラル　此審議ヲ終ツタノハ午后一一・〇〇

一二・一五頃予定泊地ニ投錨

松井軍司令官の訓示　茲ニ大命ヲ奉シテ上海派遣軍ヲ統率スルニ方リ洽ク隷下部隊ニ告ク　上海派遣軍ノ任務ハ速ニ上海付近ノ敵ヲ掃滅シ在留帝国臣民ヲ保護スルニ在リ

惟フニ支那国政府ノ不信ニシテ暴戻ナル神人共ニ許サザル所今ヤ上海ニ於テモ不法攻撃ヲ我ニ加ヘ勇敢ナル海軍之ニ応戦シテ激闘ヲ交フルコト旬余ニ及ヘリ

軍ハ速ニ上海付近ニ上陸シ其ノ急ニ応セサルヘカラス

各部隊宜シク万難ヲ排シ死力ヲ竭シ　嚮フ所ノ敵ヲ撃破シ上宸襟ヲ安シ奉リ下国民ノ待望ニ副ハンコトヲ期スヘシ

今次戦場ハ彼国内ニシテ加フルニ列国ノ権益近ク存在ス　軍ハ断乎敵軍ノ剿滅ヲ計ルト共ニ無辜ノ彼国民ニ対シテハ善ク仁慈ヲ施シ在留諸外国軍並ニ外国人民ニ対シテハ其ノ権益ヲ尊重シ言動ヲ慎ミ秋毫ノ隙アルヘカラス　是即チ皇軍ノ本領ニシテ武威ヲ字内ニ顕ハシ正ヲ中外ニ掲ケ以テ戦勝ヲ百世ニ完フスル所以ナリ

戦ニ臨ミ敵ヲ恐レサルト共ニ

（二十日夜軍司令官艦上ニ明月ヲ見テ二十一日武田艦長ノ為ニ揮毫

夜駕艨艟渡東海　満天明月思悠々

宣揚皇道是此秋　十万貔貅四百州

◇八月二十二日

午前五・三〇偵察ノ為先行セル西原大佐桜井大佐等帰艦　直ニ軍司令官ヘ報告

午前七・〇〇西原案ニ決定サレ細部ノ研究ニ移ル

西原案　3D及軍主力　呉淞鎮　11D　川沙鎮

九・三〇　11D長ニ命令ヲ渡サル

司令官注意　作戦上ノ目的達成ニ主眼ヲ置クハ勿論ナルモ海軍カ苦戦シアルヲ以テ之ト密接ニ協力スルト居留民ヲ救フ意ヲ体スヘシ

敵ノ兵力モ相当数アリ11D正面ニ於テ然リ司令官ハ11Dノ訓練ニ信頼シ此方面ニ使用ス。上陸地右側面ニハ相当ノ敵アリ之ニ対スル顧慮大ナリト考フ　部隊ノ行動ヲ慎重ニスヘシ微弱ト見レハ極メテ勇敢ナル敵ナリ

外国居留民、支那人ノ敵愾心強ク便衣隊モ多シ直接ノ警戒　殊ニ住民地内ノ将兵ノ警戒ヲ厳ニシ単独ニテ歩ク等ハ戒ムヘシ

水ニ困難スシロ水機ノ数モ少シ十分ノ注意ヲ望ム　北支那ニ於テハ水中ニ毒物ヲ投シ西瓜、瓜等ニ毒物ヲ注射シタル例アリ注意スヘシ

11*D長、御懇篤ナル御注意ニ基キ如何ナル困難ヲモ排除シ完全ニ任務ヲ達成センコトヲ期ス

参謀ヨリ説明

3*D師団長ハ何カノ行キ違ヒニテ来艦セラレサルヲ以テ白*銀参謀、二神軍参謀ニ作戦課長ヨリ伝ヘ司令官ノ注意トシテ大体11D同様ノコトヲ参謀長ヨリ伝フ（午前一〇・二〇）

後師団長モ来艦

之ヲ侮ルヘカラサルハ明治天皇夙ニ聖訓ニ諭ヘ給フ所特ニ細心ノ注意ヲ望ム　又今次戦闘ノ成果ハ殊ニ海軍ト密接ナル協同ニ係ルモノ多シ　各部隊宜シク陸海一心和衷協力ノ実ヲ挙ケ以テ目的ノ達成ニ務ムヘシ

之ヲ要スルニ軍ノ任務ハ重大ナルノミナラス今後状勢ノ推移ニ応シ其ノ責任更ニ重キヲ加ヘントシ軍紀戦ノ成否ハ皇国ノ興廃ニ関スル所真ニ大ナルモノアリ

隷下将兵夫レ克ク挙軍一体各々訓練ノ精華ヲ最高度ニ発揚シ本職ノ示ストコロニ邁進シ速ニ暴虐ナル敵軍ヲ戡定シ以テ　大元帥陛下ノ御倚託ニ副ヒ奉ランコトヲ期スヘシ

昭和十二年八月二十一日　於軍艦足柄

上海派遣軍司令官　松井石根

第十一師団長　山室宗武中将 14期

第三師団長　藤田　進中将 16期

3D参謀　歩兵中佐　白銀義方（しろがね） 27期

幕僚（表）　　略

◇八月二十三日

3Dハ予定ノ如ク三・一五陸戦隊、5／68iノ上陸掩護後上陸、四・三〇頃第二次部隊上陸ノ報告ヲ受ク　11Dハ発動艇ノ配備後レ五・〇〇ニ至リ第一次上陸部〔隊〕上陸ノ報告ヲ受ク　其後報告殆ト来ラサルモ海軍無線ニテ概要ヲ知ル、正午頃便船アリ艦隊司令長官ヲ訪問スヘク「真鶴」ニテ行ク途中桟橋ニ寄リ第二次死傷者（戦死22、負傷13、海軍負傷者15？）ヲ収容シ五・〇〇頃「出雲」ニ行キ打合セ、原田少将以下武官全員集ル　午后九・〇〇頃原田少将ト帰艦　支那兵一分隊（十数名）狭キ散兵壕ニ真ニ枕ヲ並ヘテ戦死セルヲ見、且第一回ニ上陸セル陸戦隊長竹下少佐カラ直接戦斗ノ様子ヲ聞キ支那兵ノ頑強ナル抵抗ヲ知リ稍判断ヲ誤リタルヲ感ス　海岸ニハ全員配備ニ就キアリタリ　3Dノ上陸時ノ戦死5、負傷47名、陸*戦隊508中戦死25負傷62。11D方面帰艦後聞キタルニ戦死将校3、下士2、兵1、負傷40余名。

長中佐ハ「出雲」ニ同行セルモ帰途海軍武官室陸戦隊3Dニ連絡ス　帰艦ハ明日ニナル筈

◇八月二十四日

3D参謀来艦

呉淞鎮ニハ掩蓋機関銃アリ之ニ対スル師団ノ攻撃計画ハ軍命令ニ基キ急キアル感アルヲ以テ更ニ師団長ノ考慮ヲ求ム

「由良」ハ午前九・三〇頃出帆11D正面ニ到ル　然ルニ第二次輸送部隊ハ尚全部駆逐艦上ニ在リテ上陸シアラス、司令官モ御機嫌悪ク護衛艦隊側ニテハ碇泊場ハ各艦カ潮時ヲ計ツテ入港シタルニ皆寝テ居テ作業ヲ開始セス遂ニ干潮時トナリアノ通リ艇ハ出発シアリ碇泊場ヲ戦隊司令官ノ指揮ニ入ラシメラルレハ半日テ揚陸スト極言スルニ至ル

午前一一・三〇頃潮上リ揚陸ヲ開始セルモ荷物全部ヲ揚ケ得ス午後四・〇〇稍前人員ヲ上陸

横須賀鎮守府第一特別陸戦隊

セシメ弾薬糧秣ヲ揚ケ比較的必要少キ物ハ艦上ニ残シ爾後機ヲ見テ揚陸スルコトトス

川上参謀其他11D長ニ連絡ノ為上陸シタルモ其位置不明ニテ漸ク発見四・〇〇頃漸ク帰還ス

11Dノ二日間ノ損害戦死15、負傷50余名

師団司令部ハ昼夜ニ亘リ火光信号ニ依ル爆撃ニ襲ハレ師団下*坂参謀戦死、主計其他相当ノ戦死傷者ヲ出ス

3D、11D正面共23日夜敵ハ相当ノ逆襲ヲ実施之ヲ撃退シタルモ3Dノ死傷60名トノコト

敵ノ夜襲ト云フ中ニハ逃ケ残リノ者ニ対スル射撃或ハ同士射チモアルラシ真ニ精強ナル軍隊ノ錬成ヲ必要トス

11Dノ上陸シタル正面ハヤハリ一連ノ敵陣地アリ其半部ハ大ナル抵抗ナカリシモ他ノ半部ハ相当ノ抵抗ヲ受ク　飛行機、艦船ヲ以テスル偵察モ十分見得サルヲ感スルト共ニ一連ノ陣地正面ニ対シテモ兎モ角発動艇ヲ以テスル上陸ノ可能ヲ立証ス、但第一回ノ部隊上陸後第二次第三次ト連続上陸セサル時機弾薬欠乏ノ時等ニ果敢ニ逆襲サルルハ極メテ危険ナリ

支那兵ハ抗日意識ニ燃ヘ逃ケ残リカ或ハ自ラ志願シテカ二十四日迄所在ノ稲ノ中等ニ伏シ隠レ現ニ軍参謀モ狙撃ヲ受ク　之等カ飛行機ニ連絡セルモノノ如シ

11Dノ上陸ハ高潮時タル二十三日午前二・〇〇ノ予定ノ処発動艇積載ノ輸送船ノ泊地到着〇・三〇頃ニナリ為ニ遅延三・五五上陸準備完了、海軍ハ照射ノ下ニ約二十分河岸ヲ砲撃四・一五上陸　之カ為第三回ノ頃ニハ浅瀬トナリ上陸困難トナレリ、然レトモ既ニ戦闘部隊ノ大部ハ上陸シタル後ナリシ為事無キヲ得タリ、時刻遅延ハ厳ニ戒ムヘシ

午後五・〇〇頃川沙河口11D正面ヲ去リ旧錨地附近ニ帰ル

3D

呉淞鎮ハ厳重ニ守備シ本朝ノ攻撃ハ余程無理ト思ハルルノデ師団参謀ニ軍司令官ノ考ヘハ無理シテモ早クト云フニアラサルヲ伝ヘ其結果カ上海方面ニ攻撃シ午後五・〇〇開*北水電公司迄

歩兵中佐　下坂正男33期

ザホク

進出セリ
11Dハ劉河鎮ヲ43*i（Ⅲ/一）、其他ヲ以テ羅店鎮ノ攻撃ヲ開始スル為前進（午前一一・〇〇頃下令）
昨日依頼シタル通訳及人夫150来シモ同行セシ大西参謀ノ誤リニテ人夫ヲ全部呉淞3D正面ニ残置シ通訳40人ノミ11D方面ニ来レリ、誤リハ意外ノ処ニ発生ス
夜「由良」ハ油補給ノ為河口附近ニ到ル其時末藤武官等来艦、3D配属ノ大西参謀、同連絡ノ長参謀ノ話ニ3Dハ本日ハ大体河岸ニ沿ヒ西方ニ前進シ軍所命ノ線ヲ稍超ヘタルカ如シ
呉淞鎮西方ノ敵砲兵ハ師団司令部聯隊本部等ヲ背後ヨリ射撃ス
敵ノ夜襲ニ対シ某部隊ハ十数米前進シ敵ノ手榴弾ヲ我カ後方ニ炸裂サセ直ニ銃剣ヲ以テ突撃シ敵ヲ潰乱セシメタルモノアリ
3Dハ戦闘要報ハ送リ来ルモ其他ノ連絡ハ十分ナラス
11Dハ電報モ来ラス報告モナシ
軍参謀ヲ各一名配属シアルモ戦闘中ノ故カ或ハ通信系不十分ノ為カ連絡不良

◇八日二十五日

「由良」ハ本朝油補給
海軍ノ側面ヨリ見タ3D戦況ノ概要ハ来ルカ陸軍カラハ来ラス　11Dノ一部羅店鎮正面ノモノ昨夜五、六百ノ敵ヨリ全ク包囲サレタル旨ノ電報アリ
飛行将校偵察ノ結果（軍参謀）上海東北附近ニハ陣地アルモ其他陣地ヲ見ス　羅店鎮嘉定等ニモ敵兵ヲ見ス　劉河鎮ニハ午前一一・〇〇頃ニハ敵兵アリ飛行機ノガソリンタンクニ弾丸ヲ受ケタルモ夕刻ニハ43i占領シタルモノノ如シトノ報告アリ
11Dニ準備ヲ命シタル嘉定攻撃ヲ命セラル
11D方面ノ第二次部隊（主力艦ニ依リシモノ）ノ揚陸遅延シ本朝尚400名艦ニ残リアリシヲ知

43i（Ⅲ/一）は歩兵第43聯隊（第3大隊欠）

ル
11Dヨリ午前一一・〇五次ノ電報々告ヲ受ク
八・三〇羅店鎮ノ敵ヲ撃退一部ヲ以テ追撃主力ヲ羅店鎮南側ニ集結爾後ノ前進ヲ準備、尚一部ヲ以テ劉河鎮方向ニ追撃
引キ続キ本郷参謀ヨリ11D報告トシテ聞キタル処ニテ上記ト異ルトコロ左ノ如シ
劉家鎮ハ昨夜43iノ主力之ヲ占領、海軍機ハ一〇・〇〇頃敵カ羅店鎮ヨリ南方ニ向テ退却中ナルヲ見ル、11Dノ一部ハリユウ家行（羅店鎮東南方6キロ）ニ向ヒ追撃、（上記御厨参謀ノ一部ヲ以テ劉家鎮ニ追撃ハ誤リナルヘシ）
今日ハ陸上機一江上ニ不時着機体沈没人員ハ救助サレ又「神威」ノ艦上機ハ風向ト潮ノ関係悪シク危ク沈没セントセリ
八戦隊司令南雲少将ノ話、海軍次官（次長？）ヨリノ電報ニ依レハ青島方面ハ手ヲ触レサルコトトシ海軍兵力ハ全部同方面ヨリ撤去セリト
艦隊兼任大西参謀ヨリ二十四日夜（午後五・〇〇頃）以来陸戦隊正面ノ敵退却シツツアリ3Dヲ以テ万難ヲ排シ大場鎮（？）方面ニ追撃セシムルヲ要ス、トノ電報アリ作戦課長ト協議ノ結果3Dノ残置人馬（昨夜入港ノ筈）揚陸サレアラハ江湾ニ追撃セシムル案ニテ軍司令官ニ報告シタルモ司令官ノ考ヘハ更ニ慎重ニヤルニ在リ、且此輸送船ハ呉淞ニ来ラス三隻共川沙口ニ到リタルカ如キヲ以テ大体現状維持トスルニ決ス
三隻ノ輸送船ノ搭載人馬モ予定ノ如キモノニアラスシテ一隻ニハ各　人百、馬百位ラシキ桜井大佐ノ答ヘナリ（桜井大佐ハ軍艦ニテ第二次ニ来リシモノノ中人員ハ本朝マテニ上陸セシメタルモ荷物ハマダ揚陸セシメ得ス（昨夜ノ高潮時ハ波高ク中止）発動艇ハ破損故障多ク荷役甚タ遅延スヘキニ依リ「ライター*」小蒸汽ノ徴発ヲ依頼ニ来レリ）
*ライター徴発ニ就テハ碇泊場白木工兵少佐昨日偵察日清汽船トハ話シ会ヒツキタルモ便衣隊ヨリ射撃サルル故、3Dノ兵ヲ借リテ連行セントスル考ヘナリシモ軍司令部ニテハ直ニ芳村参

ライター＝はしけ（p.118参照）

謀等ヲ第三艦隊ニ派シ交渉、好都合ニ行ケハ直ニ曳航スル考ニテ五・三〇出発

午後五・〇〇過川沙口泊地ニ爆弾二個落下

呉淞鎮ノ強攻ハ相当ノ死傷者ヲ覚悟セサルヘカラサルノミナラス先キニ下*元旅団失敗ノ前例アリ敵ハ確信ヲ以テ死守スヘク万々一再ヒ失敗シテハ皇軍ノ威武ニ関スルヲ以テ卒急ニ実施セス他方面ノ進展ニ依リ公大飛行場ヲ領有シ且11D、陸戦隊ト陸路交通線ヲ保持シ大体自然ニ呉淞地区ノ敵ヲ掃滅スルヲ得策ト考フルモ軍司令官ハ黄浦江口ノ交通脅威ヲ速ニ除ク意志固ク飽ク迄攻撃セシムル考ヘナリ、恐ラク3Dニテハ明未明実行スルナラン成功ヲ望ム

「ふみづき」ノ水兵呉淞鎮方面ヨリ射撃セラレ頭部負傷重態

11Dノ羅店鎮攻略ハ誤リニシテ周辺ノ敵ヲ撃退シタルモ村落ニ拠ル敵ハ頑強ニ抵抗シアルカ如ク夜半ニ至ルモ奪取ノ報ニ接セス

11D方面ニテハ上陸当日昼夜ニ亘リ三回ノ爆撃ヲ受ケ其第一回ニテ参謀以下数名ノ死傷ヲ生ス。本二十五日復々数回空襲其中一回ハ十数機ノ編隊攻撃高度五百位、幸ヒ損害ナカリシカ如シ

揚陸効程甚タ振ハス軍司令官モ碇泊場ノ活動ニ不満ヲ感セラル　昨夜入港ノ三隻ノ輸送船中一隻ハ3D方面ニ行クヘク電命シタルモ川沙口方面ニ行キ碇泊場司令官ハ其船ヲ呉淞ニ廻航セシムル処置ヲ為シアラス

陸戦隊正面ノ敵兵減少陸戦隊ハ其第一線ヲ推進シタルコト、閘北ヨリ大場鎮ニ至ル間ニハ相当堅固ラシキ既設陣地アル旨ノ情報アリ

3D方面夕刻ヨリ艦砲射撃ト相俟テ陸軍モ呉淞鎮ノ攻撃ヲ為シアル如キ銃声ヲ聞クモ何等ノ報告ナシ、其他第一回ノ軍命令ノ線ヲ占領シアル外変化ナキカ如シ　昨夜水電公司ノ線ヲ占領シタルコトモ誤報ナルカ如シ

二十三、二十四日両日ノ両師団死傷400ヲ超ユ。既ニ弾薬ノ欠乏ヲ来タシ本日午後海軍ヨリ小銃弾ヲ受領3Dニ補給ス

第一次上海戦当時、下元熊弥15期少将指揮下の歩兵第二十四旅団が苦戦したことを指す。

昨日ノ人夫ハ誤テ呉淞ニ揚ケタルヲ以テ本日改メテ人夫約百名ヲ徴集セリ、之モ便船ナキ為本日ハ鉄道桟橋ニ集結セシム　「トラック」十数台モ同地ニ揚陸待機セシム

本日軍司令部ニ現地傭入ノ通訳二十名許リ「由良」ニ乗艦セシメタルモ通訳トシテノ仕事ナシ

海軍ヘノ電報ニ依レハ青島ハ現地保護ノ方針ヲ改メ帝国民ヲ全部引キ揚ケ武力ヲ用ヒサルコトニ廟議決セリト

又独立野戦重砲Ⅱ*（3D管理）同Ⅲ*（12D）独立攻城重砲兵大隊（1D）ヲ動員シ隷下ニ入ラシメラル

◇八月二十六日

朝11Dハ昨日正午頃羅店鎮、劉河鎮ヲ占領セルコト確実ナル旨ノ報告ヲ聞ク

之ハヤハリ誤リラシク昨夕六・〇〇発信所受付ケノ11D電報ニ羅店鎮ヲ爆撃セラレ度旨アリ奪取シ得サリシモノト考ヘラル

1A司令官香月、2A司令官西尾、方面軍寺内大将

16D、101、108?、109、D動員、北支ニ増加セラル旨ノ通報アリ

本朝未明3Dノ呉淞攻撃カ如何ナル状況カヲ艦上ヨリ見ルモ成功ラシキ徴ヲ認メ得ス気懸リナリ

11Dヘ送ル人夫ハ二回共錯誤アリ水雷艇ヲ桟橋ニ付ケタルモ敵ノ射撃激シク遂ニ人夫輸送ヲ断念セリ、本朝駆逐ヲ八戦隊ヨリ増派シ其掩護ノ下ニ塔載速ニ送付スル如ク処置ス

3D呉淞鎮攻撃ハ準備ノ都合上一時延期ノ旨報告アリ、一方該地ノ奪取ハ愈々急ヲ要スルニ依リ作戦課ニテハ11Dノ一部ヲ月浦鎮方面ヨリ呉淞ノ側背ニ向ハシムルコトニ一決シ軍司令官ニ進言シタルトコロ司令官ハ両師団ニ課シタル任務ハ変更セス依然11Dハ嘉定攻撃、3Dハ呉淞攻略、但宝山方面ニ一部ヲ上陸セシムルヤ否ヤハ師団ニ委スコトニ決定セラル3Dノ此攻撃ニハ海軍（陸戦隊等）ノ協力ヲ司令官ニ依頼ス。両師団ニ配属シアル二神、小尾両参謀ヲ招致

Ⅱ・Ⅲは夫々第2、3大隊

スル電報ヲ出ス
正午前ノ11Dヨリノ電報ニ依レハ劉河鎮、羅店鎮共ニ未タ占領シアラス
11Dノ本日午前ノ死傷約200
内地ヨリ輸送船二　時日ヲ繰リ上ゲ出発セシメアルカ如ク本日午後復四隻到着　11Dノ残置人馬ナリ
原田少将連絡ノ為来艦、次長ヨリ軍ノ声明ハヤラサルヲ可トス、又必要アラハ武官室ヲシテ行ハシメ且予メ内地中央ノ承認ヲ受クルコトトノ電報アリ
揚陸作業進捗不良其原因ノ一ツハ永*山独立工兵聯隊ト桜井大佐（碇泊場司令官）トノ意思疎通ヲ欠クニ存スルカ如ク思惟サル　適当ノ機会ニ善処スル要アラン
3Dノ呉淞鎮攻略ハ師団ニ稍難色アルモ司令官ハ断乎トシテ実行セシムル意図ナルヲ以テ芳村参謀、海軍松田参謀ヲ3D及直接之ニ協力（陸戦隊ヲ出サレ度希望）スル「水*戦」トニ派遣シ協議指導セシム
3Dノ呉淞鎮攻略ハ同師団カ上陸戦闘ノ訓練ヲ為シアラサルヲ以テ種々差支ヘヲ生ス。之カ為作戦課長モ予モ11Dノ二大隊位ヲ羅店鎮ヨリ敵ノ側背ニ攻撃セシムルコトニ依リ呉淞鎮ヲ奪取セントスル案ヲ立テ司令官ニ上申シタルモ司令官ハ断乎トシテ拒絶、斯ノ如キハ軍ノ方針ヲ変更スルモノナルト、此攻略ハ3Dニ既ニ与ヘタル任務ナレハ依然3Dニ敢行セシムヘシト云フニ在リ、軍司令官ラシキ決心ニテ一言ナシ
夜3D派遣ノ二神参謀（軍）15碇泊場部員来艦3Dノ現況、呉淞ノ敵情（コンクリート、鉄板ノM*G座連続ス）ヲ述ヘ攻略ノ自信ナキヲ以テス　然レトモ種々反問スルニ未タ攻略／熱意十分ナラサル為周到ナル準備ヲ進メアラスシテ難色アルヲ見ル。其原因ハ軍カ将来此揚陸地ヨリ主力ヲ北方ニ呉淞ヲ通シテ転回スル意図アルニ気付カス、現在ハ夜間敵ノ射撃ヲ受クルモ昼間ハ何等不安ナク揚陸シ得ルヲ以テ強テ呉淞ヲ攻略スル必要ナシト考ヘアリシニ存ス此点ヲ説明シ夜半参謀ヲ還ス

独立工兵第十聯隊（長　工兵中佐永山喜一25期）
「水戦」は水雷戦隊
MG座は機関銃座

◇八月二十七日
原田少将ニ軍司令官ヨリ左ノ依頼アリ
軍当面ノ敵ハ閘北、大場鎮ノ線ニ防勢ヲトリ北方ヨリ軍ノ右側ニ向ヒ攻勢（逆襲）ニ転スルモノト判断セラル此情勢ヲ適宜武官側トシテ中央部ニ報告
司令官ノ意中ハ天谷支隊等ヲ軍ニ増加シ中支ニ於テ徹底的打撃ヲ与ヘ根本的解決ヲ為シ得ル如ク中央部ヲ導ク一工作ナリ
将来ノ南京ニ向フ作戦ニハ原田少将軍司令官ノ意見一致　大体五師団ニテ作戦可能ト云フニ在リ
3D長ヨリ軍司令官宛、呉淞ハ誓テ之ヲ攻略ス、其方法ハ大体「クリーク」ノ上流ヨリ当面ノ敵ノ右側ニ進出スルニ在ル旨ノ電報アリ之ニ対シ司令官ハヤハリ河岸ヨリ陸戦隊及陸軍ヲ上陸セシムルニアラサレハ成功覚束ナシト考ヘラレアリ　然レトモ斯ノ如キハ勿論軍ノ干渉スヘキ限リニアラサルヲ以テ師団ニ委スルモ海軍側ノ此戦闘ニ協力程度ノ意向ヲ知ル為松田海軍参謀ヲ三艦隊ニ派遣ス
11D揚陸状況不安ナルヲ以テ芳村ヲ派遣ス
○・三○軍艦「北上」ヨリ3D左翼正面ノ敵ハ江湾方向ニ敗退シツツアリトノ電報ヲ受ク
前面ノ敵ノ上陸部隊ニ対スル攻勢意志モソロソロ挫折スル頃ナラン
○・五○頃11Dヨリ左ノ電報来ル　本朝ノ羅店鎮、劉河鎮ノ爆撃ハ効果大、殊ニ師団将兵ノ志気昂ル。明朝八・○○突撃スヘキニ依リ其直前更ニ爆撃サレ度シ　ト
昨日ハ二十七日朝奪取ノ予定ト報告来リ中央部ニ軍ヨリ報告セリ、注意スヘキナリ
三・○○稍前海軍ヨリノ通報、3D左翼殿行鎮ニ進出セリト
四・○○頃昨日出タ榊原参謀帰艦。本朝人夫96名11D方面碇泊場ニ送リ届ケタルコト　11D方面ノ揚陸効程順調ニ進捗シ十四隻ノ中既ニ十隻ハ午前中ニ揚陸終リ11Dノ山砲、MG、大小

行李ノ馬ハ大部揚陸　其他ノ報告ヲ受ク　之ニテ一安心

夜八・三〇芳村参謀帰来、11Dノ揚陸状況詳細聞ク　十一隻ノ大部ヲ揚ケ明日午前中ニハ終了ノ筈、輜重其他上陸、陸上運搬ノ件榊原参謀ト同様川内ト陸岸トハ海軍無線、陸岸トD司令部トハ三号ニテ完全ニ連絡

11D小尾参謀来艦　上陸後ヨリ本日迄ノ戦闘経過ニ就テ説明。軍師団間ノ通信ニ相当ノ行違ヒアリシカ如シ。羅店鎮ハ最初ノ判断通リ上陸当時ハ守備ナカリシカ如ク工兵中隊長以下30名ハ羅店ニ至ル道路偵察ヲ命セラレ難ナク羅店ヲ占領シタルモ之ト同行スヘキ歩兵大隊之ニ続カス途中ニ停止セルカ如キヲ以テ其間ニ敵ハ自動車ニ依リ急行シ工兵ハ其自動車ヲ壊シ弾薬ヲ河中ニ投スル等適切ニ奮闘シタルモ敵ハ逐次増加シ全ク包囲セラルルニ至リ近接セル味方大隊（前記大隊トハ異ルカ如シ）ノ方向ニ血路ヲ開カントシ奮戦苦闘准尉以下7、8名辛ウシテ脱出シ中隊長以下20余名ハ今以テ行方不明ナリ　戦機ヲ捕フルコトノ必要ヲ痛感ス　之カ為多大ノ損害ヲ出シ師団主力ヲ用ヒ今日尚奪取シ得ス

航空参謀光成大尉ハ毎日要求通リ詳細ナル偵察ヲ為シ且写真偵察ノ結果ヲ提出ス

其実視セル処ニ依レハ二十五日午前一一・〇〇頃ニハ確カニ我第一線ノ左半部ハ羅店ニ入リ村落内ニ彼我ノ戦線アリシト確言ス　之ト師団参謀長ノ羅店ノ敵撃破之ヲ追撃中云々ノ電報トヲ対比シ我部隊ハ一旦村落内ニ入リナカラ敵ニ撃退セラレタルニアラサルヤヲ疑ハシム

3D方面本日終日カカリテ一輸送船ノ揚陸出来兼ネル状態ニテ二隻モ「由良」附近ニ停船シアルヲ以テ夜ニ入リテ榊原参謀ヲ実地視察ニ派遣ス

◇八月二十八日

川沙ロカラ羅店鎮ヘノ重砲道ハ見込絶無トノ電報ヲ先キニ受領シ小尾参謀ノ昨夜ノ話ニモ河ニ平行スル十*万図上ノ赤線道路（自動車道）ハ誤記ナリトマテ極言シ軍将来ノ作戦遂行上大難関ニ逢着セルモ本朝11*D参謀長ヨリノ電報ニ河ニ平行スル道路ノ或部分ハ補修スレハ見込アル

十万図は梯尺十万分之一の地図

参謀長　片村四八大佐23期

模様ナレハ稍安心　軍司令部員ノ中、上海事変当時該地附近ヲ測量シタル者及築城交通ノ専門将校昨日来リシヲ以テ芳村参謀ハ之ニ直ニ偵察ヲ命シタルト　11Dノ騎兵モ既ニ上陸セルヲ以テ近ク真相判明スヘシ

3Dヨリ白川橋（呉淞鎮クリーク）ハ約一日ニテ戦車ヲ通シ得ル如ク修築シ得トノ報告アリ

昨夜3D東正面呉淞附近ニ二、三大隊ノ敵進入シ水雷艇二ヲ射撃セリ、ト

小尾参謀師団ニ帰ル為軍司令官ニ申告ノ際各部長昨日到着本日来艦

下山航空兵少佐報告一・三〇敵ハ羅店鎮ヨリ大場鎮方向ニ退却シツツアリ

押*目大尉昨夜到着「神*威」ニ派シ偵察ニ従事セシメントコロ本日劉河鎮ヲ爆撃シ臀部ニ敵弾ヲ受ケ数日間静養ノ要アリ

三・〇〇11Dヨリ正午羅店鎮占領敵ヲ追撃中ノ電報受領

海軍機江湾附近ニ於テ敵ノ高射砲（?）ノ為撃墜セラレタリト。又他ノ一機ハ鉄道桟橋3D占領区域内ニ落サル

芳村参謀3D揚陸視察ノ為輸送船ニテ入港ノ際ハ昼間ニ拘ラス呉淞ヨリ射撃セラレ舵手、厨夫負傷　依テ駆逐艦水雷艇ヲ敵ノ前ニ投錨掩ゴスルコトトシタル為帰路ニハ射撃ヲ受ケス

3D占領区域内ニハ今日尚敵アリ坑道ノ如キ中ニカクレM*G?　L*G?　ヲ持チ時々出テ我レヲ射撃スト

3Dノ呉淞攻略方法ハ一旦ハ上陸ハ訓練ノ関係上不可能ナレハ「クリーク」上流ヨリ渡河攻撃トシテ其第一案ヲ得タルモ確信ヲ持チ得ス、更ニ河岸ニ上陸スル案ニ傾キ尚研究中。船舶工兵ノ中隊長ハ確信ヲ有スルニ至レリ

3Dノ一小隊ハ昼間不意ニ鉄道橋ヲ互リ敵岸ニ到リタルモ続ク者ナク友軍ハ全ク之ニ気付カス遂ニ左右ノ敵ノ攻撃ヲ受ケ退却セリト

3Dノ呉淞攻撃ハ上述ノ如キ状態ニ在ルヲ以テ羅店鎮ヲ奪取セル11Dノ有力ナル部隊（四大隊位ノ考）ヲ以テ敵ノ背後ニ進出セシムルコトヲ以テ呉淞ヲ占領セントスル案ヲ司令官ニ具申

独立飛行第六中隊（九四偵九機）

長　押目音治郎大尉37期

水上機母艦「神威」

MGは重機関銃、LGは軽機関銃

ス

司令官ハ第三師団長ノ面目ト11Dカ漸ク羅店鎮ヲ奪取シタル今日直ニ従来ノ任務外ナル呉淞攻撃ニ向ハシムルハ給養其他ノ点ヲモ考ヘサルヘカラスト云フ理由ニテ直ニ同意セラレス、遂ニ3Dノ攻撃実行ト同時ニ之ニ11Dヲ協力セシムルコトニ決ス　依テ3Dニハ攻撃計画決定セハ直ニ報告スヘキヲ要求シ11Dヘハ参謀長ヨリ軍司令官ノ意図トシテ以上ノ準備ヲ希望ス。尚参謀長宛羅店攻略ノ祝電ト共ニ一部ヲ刈家行ニ出サルルヲ望ム旨電報ス

三艦隊兼任大西参謀連絡ノ為来ル

武官ヨリモ連絡アリ予メ準備セル宣伝ビラ二種ヲ持参シ司令官ニモ見セル

海軍武官ノ情報トシテ敵ハ日本陸軍ノ上陸ニ依リ一旦ハ後退シ陣地ニ拠ル考ヘナリシモ其進出迅速ナラス且兵力案外少数ナルヲ以テ再ヒ攻勢ヲ執リタリ等ノコトヲ聞ク

当面セル感想ハ上陸当初ハ準備十分ナラサリシモ（殊ニ11D正面）逐次兵力ヲ自動車ニ依リ移動シ目ボシキ村落ノ防備ニ任シタルカ如ク思ハル

松田海軍参謀3*Sニ連絡ニ行キ帰来其報告ノ要旨　海軍ノ公大飛行場ハ近ク使用可能ノ状態トナルモ恒風ニ対スル着陸方向ハ敵ノ「トチカ」ヨリ射撃セラルル関係ニ在リ従テ速ニ此前面ノ敵ヲ掃蕩セラレ度　3Sハ全力ヲ挙ケテ陸軍ニ協力スルモ陸戦隊ヲ以テ3Dノ上陸戦闘ニ協力スルノ余力ナシ　トノコト

夜九・〇〇頃3D正面殊ニ呉淞ト思ハルル正面ノ銃砲声最盛ニシテ一時間足ラスニテ静マル

◇八月二十九日

八・〇〇頃出港川沙口方面ニ到リ上陸シテ揚陸状況ヲ視察ス

永山工兵聯隊長相変ラス元気ニ活動シアリ

本日午前ニテ応急動員部隊ハ輜重一中隊共全部上陸ヲ終ル筈。3D作戦ノ為T*中隊ノ要員大部ヲ其方面ニ廻シアル為動カシ得ル発動艇少シ　故障ハ一割位トノコト　馬ノ衛生状態モ今ノ

3Sは第3艦隊（正しくは3F）

T中隊は輜重兵中隊

処良好　人モ良好ナルモ一人下痢患者アリ軍艦ニハ収容シ得ス輸送船ニ乗ス　本日上海ヨリ大型小蒸汽ヲ徴傭シ患者ハ一時之ニ収容スル予定

石洞口対岸ニハ敵アリ之ト交戦シツツ上流迄偵察シタルモ幅狭ク大発ノ行違ヒ廻転出来ス大量永続ノ輸送ニハ適セス

警戒ニ任スル兵員無キ為各輸送船ノ警備等約一中隊ヲ上陸セシメ石洞口其他ノ警備並11D正面ノ患者ノ輸送ニ任セシメアリ　呉淞附近掃蕩時ノ敗退兵ニ対スル為ニハ師団ヨリ一部隊ヲ出スノ要アリ

道路ハ工兵一中、人夫百人位ニテ四日ニテ重砲ヲ通シ得ルニ至ルトノ鴨沢少佐、某工兵少佐ノ報告、先ツ一週間見積レハ可ナラン

揚陸場ノ整理ハ大体本日中ニ行ヒ得ル筈ニテ陸上ニハ極メテ少数ノ物ヲ積ミ他ハライターニ積ミ待機セシムル方針トノコト

毎夜ノ如ク11D正面敵機来ルモ幸ニ損害ナシ　日ノ丸印ヲ附ケタル飛行機二機本朝11D司令部附近ニ爆弾ヲ投下セリトノ電報アリ

3Dハ復々呉淞鎮北方ニ上陸戦闘ヲ為スコトニ決シタル旨報告アリ　午後川上参謀ヲ連絡ニヤル

二十九日朝ノ戦闘ニ於テ歩6倉*永聯隊長戦死ノ報告アリ　戦死者ニ対シ云々スルハ礼ニアラサルモ師団幕僚ノ間ニ於テ同聯隊長ノ二十三日以来ノ戦闘指揮勇敢ニモアラス巧ニモアラストノ声アリシヲ以テ之ヲ耳ニシ強ヒテ戦死シタルニアラスヤトノ疑ヲ抱ク向アリ　其真偽ハ別トシテ殊ニ緒戦ニ於ケル隊長ノ指揮、勇敢ハ隊ノ掌握ハ勿論延ヒテハ其隊ノ戦力ニ影響スル処少カラス

68iⅡ長矢住少佐モ二十三日ノ戦闘ニテ戦死、「足柄」ニテ航海ヲ共ニシタルダケ印象深シ。下坂参謀ト云ヒ幹部ノ戦死多シ殊ニ各司令部ヲ狙フ、68i長鷹*森大佐モ之カ為軽易ナカラ負傷シ聯隊副官其他本部員ノ大半死傷セリ

歩兵大佐　倉永辰治23期

歩兵大佐　鷹森　孝20期

呉淞鎮方面ノ敵ハ従来昼間ハ輸送船等ニ対シ射撃セス夜間ハ射撃シアリ又昨日ハ昼間射撃セルモ駆逐艦ノ投錨掩護ニ依リ射撃ヲ中止セリ。本日ハ御影、海福、松浦（下流ヨリノ順序）桟橋荷役中六十余発ノ重砲弾（主トシテ江湾方向ヨリ）及各方面ヨリ日清汽船ニ開設ノ衛生隊医長及看ゴ兵数名死傷トノコト

機関銃弾ヲ受ケ幸ヒ重砲弾ハ命中セサリシモ将校一、船長一（御影丸）負傷、荷役ヲ中止セサルヘカラサルニ至レリ

3Dノ呉淞攻撃ハ三十一日午前一〇・〇〇ト決定　計画モ出来着々準備中

揚行鎮ニハ本日午後二・〇〇二、三百ノ敵進入セル飛行機報アリ。遂ニ11Dノ一部ヲ以テ3Dノ攻撃ニ協力セシムル件ノ承認ヲ得　然ルニ艦砲射撃、爆撃ノ危険上11Dヲ無制限ニ進出セシムル能ハス　揚行鎮、月浦鎮ノ線ニ進出シ敵ノ退路ヲ遮断セシムルコトトスル意見ヲ司令官ニ具申シタルモ司令官ハ3Dノ部隊ノミニテ各所ノ敵ヲ掃蕩スルハ困難ナルヲ以テヤハリ11Dノ部隊ヲ直接協力セシメヨトノコトニテ之ニ決シ所要ノ電報ヲ発セントシタル時（午後一一・〇〇）「三水戦」*ヨリ三十一日ノ上陸ハ一二・三〇ニ延期セラレ度旨申出アリ（潮流ノ関係ニテ水雷艇駆逐艦等ヲ河岸ニ平行シテ投錨シ難キ為）モトモト三十日トシテ午前一〇・〇〇ナレハ三十一日トナレハ一・三〇（ママ）位ノ延期ハ当然ナルモ一二・三〇マテ延期ハ誤リナルヤモ知レス。依テ先ツ北上ニ之ヲ確ム

小尾参謀（11Dニ配属シアル）ノ11D上陸点附近飛行機偵察報告。羅店鎮攻撃ノ際敵兵力判断、道路偵察報告等周到適切ヲ欠ク

独立飛行大隊ハ二十三日天津ニテ積込ミ当軍ニ転属セシメラルル予定ナリシカ如キモ今日尚天津発ノ通知ナシ。依テ総務部長経由北支軍ニ何日頃出発セシメラルルヤノ問合セ電報ヲ発ス

3D上陸ハ正午ト決定ス

11Dトノ連絡ノ為長参謀ヲ派遣ス

「三水戦」は第三水雷戦隊

◇八月三十日

嘉定ニハ敵兵逐次増加シツツアルカ如シ、我ハ外線ニ立ツモ足ナク彼ハ内線ニ立チ数ニオイテ絶対優勢ナルノミナラス自動車ニテ移動ス

3D攻撃（呉淞）ニ11Dヲ協力セシムルコトハ3D長以下ノ面目ヲ考ヘ計画確定迄ハ之ヲ3Dニ知ラセス11Dニ準備ヲ命シタルノミナリシヲ以テ3Dノ計画ノママニテハ艦砲射撃空爆ノ為11Dニ危険ヲ及ホシ3D、11D相互ノ間ニモ何等協定出来ス之等ヲ処理スル為芳村参謀ヲ3Dニ派遣ス

午前八・〇〇海軍ニテ呉淞対岸ニ敵ノ密集部隊ヲ発見シ爆撃ヲ要求

3D呉淞攻撃ノ為歩兵砲擲弾筒等ノ弾薬ナキ為11Dノ揚陸シタルモノヲ3Dニ融通セリ。之カ為永江大尉（職不明）ヨリ11Dハ3Dニ渡シタ弾丸以外一発モナシ何時頃補充セラルルヤトノ電報来レリ

午後一・〇〇頃芳村参謀3Dト打合セ帰来、3Dノ攻撃ハ海軍ニ多少難色アルモヤハリ三十一日午前一〇・〇〇ニ決行スルコトトセリ

独立飛行中隊搭載ノMT*ハ本日馬鞍群島ニ到着セルモ飛行場ノ設定能否不明ニ就キ一時待機セシム。海軍ハ11Dト協力ノ為貴腰湾ニ飛行場ヲ設定スルラシク桜井碇泊場司令官ト協定シタル旨同大佐ヨリ報告アリ

11Dノ砲八門本日揚陸

偵察将校ボツボツ到着

11D43iノ主力劉河鎮攻撃中ナリシモ本三十日攻撃ヲ断念シ一大隊大隊砲一小隊、K*一小隊ヲ以テ劉河鎮東南方約四キロ附ノ線ヲ守備スルコトトナレリ

下山少佐光成参謀ヨリ太倉、嘉定方面ノ新タナル陣地ニ就テノ飛行機偵察報告アリ

3D及11D後方状況視察指導ノ為派遣セル櫛田参謀ハ夜八・〇〇頃帰来、大体ハ順調ニ進ミ

MT＝上陸用舟艇輸送船「神州丸」

「K一小隊」は騎兵一小隊

居ルカ如キモ3Dハ弾薬殊ニ欠之、11Dヨリ一時融通之カ為11D輜重ノ弾丸ナシ　軍全体トシテモ将来不足ヲ来スヘキヲ以テ内地ニ着々準備セラレ度旨事情ヲ具シ希望電報ヲ出ス

午後七・三〇頃呉淞ノ敵野砲陣地ヨリ射撃ヲ開始セリト、本日一日極メテ静穏ナリシ此方面モ夜間活動

夜一〇・三〇問ヒ合セノ結果11Dハ3Dノ呉淞方面掃蕩ニ協力スル為43*ノ一大隊（浅間少佐）山砲一中ヲ基幹トスル部隊ヲ午前九・〇〇揚行鎮　月浦鎮中間地区ニ到着一〇・〇〇攻撃前進セシムル旨報告アリ

有力ナル歩砲兵ト云フ命令ニ対シ斯ノ如キ少数ノ兵ヲ出ス如キ消極的ヤリ方ニテハ将来ノ命令ニ就テ考ヘサルヘカラス　浅間少佐ハ平素極メテ消極的ノ人ナリト云フ

11D下坂参謀ノ後任桜井参謀本夜本艦ニ到着

夜一一・〇〇三艦隊参謀長ヨリみどり筒使用ハ海軍ニ装備ナク且居留民ニ対スル彼等ノ報復手段甚シカルヘキヲ以テ見合セラレ度旨電報アリ　取リ敢ヘス3Dニみどり筒ヲ使用セサレハ計画上大ナル支障アリヤヲ問ヒ合スコトトス

天気ヨシ薄曇

◇八月三十一日

朝六時半頃みどり筒ヲ使用ハ大勢ニ影響ナシトノ返電ニ接シ今回ノ攻撃ニハ使用見合サレ度旨電報ス

「ソ支不可侵条約」ヲ八月二十一日調印二十九日発表セル旨武官ヨリ電報アリ、イヨイヨ本格的非常時ニ入レリ　当方面成ルヘク速ニ戦局ヲ結ヒ良好ナル結末ヲ付ケサルヘカラサルモ敵ノ兵数大ナルノミナラス極メテ執拗勇敢ナル為容易ニ戦闘ヲ進捗セシメ難シ

長参謀午前二・〇〇頃帰来朝報告ヲ聞ク　11D正面ノ敵兵力今尚意外ニ優勢ニテ絶ヘス背後ニ侵入攪乱シ我ハ奔命ニ疲レル有様

歩兵第四十三聯隊（長浅間義雄大佐18期のち少将）の誤記

3Dノ呉淞攻撃ニ協力スルハ浅間聯隊長ノ率ユル二大隊弱山砲一中ニテ電報ノ誤リト判明、11Dノ誠意ヲ認メラル

3D鷹森部隊ノ強行上陸ハ天候風向ニ恵マレ予定通リ艦砲及爆撃ノ協力ノ下ニ午前一〇・〇〇決行セラレ艦橋上ヨリ良ク其状況ヲ視察シ得タリ。鉄道橋ヲ通過スヘキ中隊モ同時刻ニ渡河セリ

（みどり筒使用中止ノ件ハ次長ヨリモ電報来レリ（午前七・〇〇頃）斯ノ如ク海軍ノ電報ハ急速ニ通スルモ陸軍ノ電報ハ甚タ遅延シアルカ如ク昨夜到着セル桜井11D参謀ノ言ニ依レハ東京ニテハ軍ハ何等ノ損害ナク上陸シ極メテ容易ニ作戦進捗シアリト考ヘアルカ如シ　天谷支隊ハ大体軍ニ復帰セシムル考ヘナルカ如キモ之ヲ崇明島又ハ浦東地区ニ上陸セシメン等ト考ヘアル処、又軍ノ情況甚タ不明ナリト称シアル点ヨリ見テ陸軍通信ハ極メテ不良ナルカ如シ）

鷹森隊ハ午前一一・三〇頃呉淞鎮村端ヲ距ル五百㍍位ノ線ニ進出シ前面一帯ノ敵ト対峙シアリ浅間部隊ノ状況全ク不明

3D11D南正面ノ敵ノ中主トシテ11D正面ノモノニハ常勝軍ヲ以テ任スル陳*誠ノ11、14師アリ之ヲ以テ見ルモ此正面ニ主力ヲ指向シアルヲ判断シ得

3D正面ハ張*爾忠ニテ大シタ者ニアラス、南市ヨリ浦東地区ニハ猛将陳*発奎ナルカ如シ

第二課ノ情勢判断トシテ中央軍ノ最精鋭部隊ヲ此正面ニ用ヒ且集中セル兵力意外ニ大ナルヲ以テ我レモ五ケ師団位ヲ以テ之ニ一大打撃ヲ与フルコトカ即時局ヲ迅速ニ収拾スル所以ナルヲ中央ニ打電シ、且三艦隊ト連絡ノ為長参謀及松田海軍参謀ヲ派遣ス（多分夕刻出発トナルヘシ）且原田少将ニ一度来艦ヲ促ス

海軍ハ貴腰湾附近ニ陸上飛行場ヲ設定中ナルカ如キ話アルヲ以テ問ヒ合ス（三・〇〇）

三・〇〇ニ至ルモ浅間支隊ノ消息不明、3D鷹森隊ハ逐次戦線ヲ北方ニ推進シツツアリ五・〇〇ニハ水産学校附近ニ在ル敵ノ前面ニ迫リアリ浅間支隊尚不明

九・三〇、3Dヨリ報告アリ68iノ主力ハ税関桟橋附近ヨリ永安紡績ノ線ニ進出シ野砲モ

陳誠　一八九七～一九六五　保定軍官学校卒一貫して蔣介石直系軍隊の重鎮として、北伐・ソヴエト地区包囲戦・日中戦争に活躍。一九四六、国防部参謀総長四九、台湾省主席。五四、国民党副総裁。台湾では蔣経国とならび蔣介石に次ぐ実力者であった。（コンサイス人名辞典）

張自忠　一八九〇～一九四〇　山東省の人。天津法政専門学校卒。北伐で華北各地を転戦。一九三三、長城喜峰口で日本軍と戦う。蘆溝橋事変後、宗哲元に

「クリーク」ヲ越ヘテ北方ニ進出セリト
浅間隊ハ遂ニ連絡ナシ
八・〇〇後甲板ニ幕僚ヲ集メ軍司令官ノ御注意アリ
其要旨ハ　根拠ナキ判断ヲ為スヘカラス直系中央軍上海附近民衆ノ抗日熱等ノ認識ヲ正シクスヘシ
図上戦術、演習式ノ戦術ヲ為スヘカラス
信ヲ人ノ腹中ニ置ク主旨ヲ以テ統帥スヘシ　思ヒヤリナカルヘカラス
陸海協同ハ各其任務ヲ尽スコトニ依テ完シ自ラ為スヘキヲ為サスシテ
昨夜馬鞍群島ニ九機飛来二機ヲ落ス、毎夜何レカニ飛来スルモ爆弾投下ハ少シ昨夜ハ米国船ニ命中若干ノ死傷者ヲ生シタリト
午後一一・一〇ニ至リ山室部隊ヨリ漸ク左ノ報告アリ
浅間部隊ハ午後四・〇〇獅子林西方約二粁ノ敵ヲ撃退シ前進中ナリ　著シク軍命令ト異リ行動緩慢ナリ、午前四・〇〇羅店鎮発ト云フモ之スラ疑ハシク将来一応取調ヘヲ要ス
二十九日迄ノ両師団戦死傷約一、五〇〇、藤田部隊ノ戦傷稍多キモ将校ノ損害ハ山室部隊方多シ

代わって冀察軍政をとる。無抵抗で平津地区を放棄し批判をうける。第五九軍長として臨沂で日本軍を破り、徐州、武漢に転戦。第三三集団軍総司令として、宜城で戦死。（コンサイス人名辞典）

張発奎（チョウハツケイ）　一八九六〜？　広東省の人。武昌軍官学校卒。一九二六、広東派として北伐に参加。のち武漢にくみした。三〇、閻錫山、馮玉祥と反蔣に立ち、敗北。日中戦争で第四戦区司令長官。戦後、陸軍総司令など歴任。四九、以降、香港在住。（コンサイス人名辞典）

◇九月一日

軍当面ノ敵ヲ徹底的ニ撃滅スルハ時局ヲ迅速且有効ニ収拾スル所以ニシテ之カ為ニハ最少限五師団ヲ要スル旨ノ情勢判断ニ対シ次長ヨリ同意シ難キ旨電報アリ且独14Dハ既ニ北支ニ使用セラレ天谷支隊ハ当軍ニ復帰セシメラルル筈トノコト

揚行鎮—羅店鎮自動車道ハ下山航空少佐ノ偵察ニ依レハ現存セスト、其他十万図上ニ在ル赤線ノ自動車道ハ信ヲ措キ難キモノアリ

九・〇〇天谷支隊ハ後命ヲ待チツツ上海ニ向ケ航行中ノ電報アリ其位置ハ明カナラス

更ニ電報アリ三日朝揚子江口ニ到着　軍ニ配属セラルル筈

29iBノ大部ノ輸送船到着セルモ三個処ノ揚陸効程十分ナラス上海呉淞方面ノミニテモ二十余隻滞留シアリ

呉淞攻略ノ為11D山砲ノ弾薬ヲ3Dニ、後ニ到着セル3D聯隊砲ノ弾ヲ11Dニ廻送シタルモ両者式ヲ異ニシ使用シ得ス　目下之ヲ更ニ交換スル如ク手配中ナリ

29iBハ3D長ノ隷下ニ於テ揚行鎮刘家行方面ニ使用セラルル予定、及68iヲ後ニ軍予備トスルコト3D長ニ電報ス。其後ニハ68iヲ〔以下白紙〕

一・〇〇前長参謀帰来、三艦隊ヨリモ陸軍ヲ更ニ兵力増加シ急速ニ解決スルヲ可トスル旨打電セリ、海軍武官又然リ、大使、総領事モ原田武官ノ意見ニ依リ同趣旨ノ電報ヲ一昨日打電セリ（武官ヨリハ一昨々日打電）

原田少将秘密軍事協定ト称スルモノヲ白系露人持参セリ真偽不明ナルモ其内容　ソ国ヨリ軍需品供給、対日戦争ハ政治的経済的ニ困憊セシム、南京政府ハソ国ノ同意ナクシテ如何ナル媾和条約モ為ス能ハス

此内容ノ真偽尚調査ヲ進ム

上陸セル陸軍ハ二師団半トシ或ハ三師団トシ三師団以上ト見アルモノナシ

軍前面ニ在ル師団ハ確実ナルモノノミニテ十二師、教導総隊、保安隊ナルモ各師全部現ハレアルニアラス其他現ハルルト称シアルモノ五、六師（略現出シアリト判断セラルルモノ）

最初ハ張治中ナリシモ後之ハ3D、陸戦隊正面ノ指揮ニ任シ陳誠11D正面浦東ハ張発奎

最近蔣介石ハ北支ハ放置シ上海方面ヲ撃破セヨト命シアリト旅長級ノ者称シアリ

湖南軍モ来リツツアリ

支那軍ノ企図ハ持久シ已ムヲ得サル時ハ常熟ノ線ニ持久スヘク「トーチカ」構築サレアリ其前進陣地トモ称スヘキハ劉河、嘉定、南翔、黄浦、松江ノ線、中間ニハ太倉、昆山ノ線

南京政府ノ企図（共産系トシテ入レアリシ者ノ言）　蔣介石ハ英米ノ干渉ニヨリ名目立タハ和平解決、ソ聯トノ民衆的提携、陳誠ノ声望高ク蔣下野後之ニ代ルハ陳ニシテ挙国的統一党ノ下ニ政府ヲ作ル

武官室ノ宣伝進捗状況（大内少佐報告）

邦字紙（上海毎日、上海日日）二種全紙一頁一千部宛発行、記事正確ナル為外字紙ハ之ヨリ伝載、漢字紙一種一千部発行シツツアリ　ビラ散布ノ時機、方面、司令部ト連絡決定　「パンフレット」志田正二ノモノヲ上海日々ノ漢字面ニ掲載中（論文）、軍司令官ノ論文翻訳三百部準備中　大東放送局（日本ノモノ）ヲ使用準備中、目下ハ日支共商業ニュースノ外放送シ得サル規定、1キロワットノモノニ改造、放送協会ノ技術者招致セントス

真如ノ放送局爆撃企図

逓信省ト協議二キロノ器械設備中

外国人ノ然ルヘキ者ニ講演セシムル為物色中

鉄道ハ二十八日以来再ヒ不通

天谷支隊二日午後五・〇〇江口到着ノ予定

公大飛行場攻撃ハ18*iノ一大、戦車一小、野砲一中ヲ陸戦隊正面ニ加ヘ実施スルコトニ決シ準備ヲ始ム（三・〇〇）

18iの一大は歩兵第18聯隊の一ケ大隊、戦車一小は一ケ小隊、野砲一中は一ケ中隊

英国大使自動車（太倉ヨリ嘉定ニ向フ途中）ノ空中射撃及爆撃ニ依ル負傷事件ハ我海軍機ト云フコトニナリ居ルモ明確ナラス支那機カ日丸ヲ附シアル疑十分、且共産党員カ故意ニ之ヲ為ス公算アリ

一〇・四〇浅間支隊ノ一部月浦鎮ヲ攻撃開始セルカ如シ　劉河鎮陣地増加敵兵力又続々増加シアルモノノ如ク嘉定ニモ増加其東方ニ三線ノ陣地構築中（下山航空報告）

鷹森支隊ハ四・〇〇艦砲射撃ノ掩護ノ下ニ煙幕ヲ利用シ攻撃前進

「鬼怒」ハ劉河鎮ノ敵ヲ砲撃砲二門ヲ破壊、敵部隊ノ一部ヲ潰走セシム

関口大尉3Dニ連絡帰来報告　鷹森隊ハ第一線前進、此正面ニテ投降者増加、南部正面戦意減退、食糧ノ補給不十分ナリト（五・〇〇）

六・〇〇次ノ報告受領　浅間支隊ハ獅子林砲台北ヨリ三番目迄攻略。3D鷹森隊ハ商船学校北方約百㍍ニ進出

七・〇〇海軍ヨリ浅間支隊ハ完全ニ砲台ヲ占領セル旨報告アリ、鷹森隊ノ右翼ハ大体砲台南端、左翼ハ稍進出シアルカ如キモ明カナラス

天谷支隊カ応急動員部隊ノミニテ到着セリ已ムヲ得ス川沙口ニ上陸然ラスシテ充足人馬ヲ同行セバ呉淞ニ上陸月浦鎮方面ヨリ11Dニ対スル敵ノ背後ニ進出セシムル案ニテ11D参謀長ニ意見ヲ徴ス

公大飛行場ハ浦東ヨリ小銃射撃ヲ受クルノミナラス飛行場其物モアマリ適当ナラサルカ如シ　海軍水上機ノ為ニハ貴腰湾ニ設備中　航空本部長ヨリ「ダグラス」ニテ福岡ヨリ連絡シ度ニ就キ飛行場ノ様子知ラセトノ意味ノ照会アリ　大体不適ナル旨返電

呉淞北方ニ飛行場ヲ捜索スルコトトス

次長ヨリ情況報告ノ催促アリ電報ノ遅着其他相当ニアルカ如シ改メテ軍ノ企図ヲ報告シ重要電報ハ受領通知ヲ請求ス

11D方面20名余リノ赤痢疑似患者発生、野戦防疫部ハ上陸シアルモ速カニ防止スルコトヲ祈

願ス

一〇・四五天谷支隊ニ属スル第六碇泊場、工兵第六聯隊、陸上水上各一隊ハ揚子江到着ノ時ヲ以テ天谷少将ノ隷下ヲ脱シ軍司令官直轄タルノ命令到着セリ（天谷支隊ヲ隷下ニ入レラルルノ電報ハ到着セス）

11D方面本日ハ遂ニ何等ノ報告ナシ、駆逐艦ヨリ見テ砲台ヲ占領シタルヲ知リ得タルノミ

◇九月二日

正午頃迄ニ「由良」艦長ヨリノ視察、及本艦飛行機偵察ノ結果3D鷹森隊ハ宝山城ノ五六百米ノ線ニ迫リ11D浅間隊ハ獅子林砲台南側附近ニ在ルコトヲ知ル　全般ノ空気ヨリ察シ宝山ヲ中心トスル敵ハ昨夜退却シタルニアラスヤト思ハル

午前一〇・〇〇頃ヨリ商船学校桟橋ヲ利用シ29iBヲ揚陸ノ準備ニ着手ス　水雷艇「子ノ日」ニテ掃海水深測量等ヲ行ヒ一・〇〇頃其完了及水深ハ十二、三㍍以上トノ報告アリ　一方陸軍側ノ準備ヲ整ヘ二・〇〇頃概ネ之ヲ終ル

3Dニ対シ上野部隊上陸セハ之ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ揚行鎮ヲ占領シ爾後刘家行顧家宅ノ線ニ進出スヘキコト、戦車一中隊（内一小隊ハ公大飛行場占領ノ為上海ニ揚陸）配属ノ件、従来ノ6i正面ハ爾後情況ニ応シ第一線ヲ西方ニ拡張スヘキヲ命令セラル

「トーチカ」攻撃ノ18i飯田大隊長*、砲兵指導ノ軍司令部鈴木中佐等ハ偵察準備ノ為上海ニ赴ク

11Dニ配属シアリシ小尾参謀ハ急性腎臓炎ノ為本来ノ職務タル関東軍司令部附ニ帰スコトトシ内地ニ於テ静養ノ後赴任セシムル如ク処置ス

長中佐ハ第二課ノ意見トシテ全般ノ敵情ヲ判断シ軍将来ノ作戦ハ最モ慎重ニシ大体大場鎮ヲタタク如クシ狭ク上海及其北方ノ線ヲ確保シ後図ヲ策スルヲ可トストノ趣旨ヲ述フ　モトモト幕僚会議開催ヲ申出テタルモ其必要ヲ認メス忌憚ナク意見ヲ述フヘシトノコトニテ述ヘタルナ

第三大隊長　飯田七郎

リ　大場鎮攻撃ノ為両師団ニ与フル後方連絡線及大場鎮ヲ中心トスル左右ノ陣地強度ノ差ヲ具体的ニ調査スヘキヲ要求シ置ク

三・〇〇頃ヨリ商船学校桟橋ニ29iB乗船吉野丸ヲ横付ケシ揚陸ヲ開始ス

（11D報告）11D浅間隊ハ午前六・五〇獅子林砲台ヲ占領シ正午頃南進ヲ開始セルカ如シ（昨夕占領ハ誤リナルヘシ）

天谷支隊使用ニ関スル意見ニ対シ11Dハ孰レニスルモ川沙ロニ上陸師団ニ復帰、浅間隊モ速ニ帰ラシメラレ度其理由ハ徒ラニ戦線ヲ拡張スル弊アレハナリト云フニ在リ

之ニ関スル軍司令部主任者及予ノ意見ハ呉淞砲台及宝山ノ敵ノ無抵抗振リニ鑑ミ月浦鎮ニハ決シテ大ナル部隊アルコトナク、月浦鎮道ハ11D将来ノ補給路テアリ、3Dノ有力ナル部隊カ揚行鎮或ハ進テ刘家行顧家宅ノ線ニ出ツルノト相提携セハ月浦鎮附近ニ膠着スルコトハアリ得ヘカラス、且11D主力ノ敵ノ背後ヲ攻撃シ11Dヲシテ花々シキ戦勝ヲ味ハシメ志気ヲ昂揚スルヲ可トストノ理由ニ依リ月浦鎮ノ敵ヲ撃破シ羅店鎮ニ前進直ニ敵ノ背後ヲ攻撃セシムル案ナリ

軍司令官又以上ノ案ニ同意セラレ天谷支隊ニ戦車一中隊ヲ属シ実行スル如ク夫々下令

11D浅間隊ハ獅子林砲台下流一㌔㍍附近ニ於テ敵ト交戦中トノ報七・〇〇頃海軍側ヨリ来ル

鷹森隊ハ宝山城ニ迫リアルモ未タ入城シタル模様ナシ

青島ニ避難セル南京独乙領事ノ語ルトコロニ依レハ南京ノ人心ハ甚シク動揺シアリ蔣介石ハ尚南京ニ在リト、海軍ニハ機ヲ見テ更ニ南京爆撃ヲ希望ス

敵飛行機根拠地最近ハ杭州ナルコトヲ知リ海軍機ハ本夜同地ヲ爆撃スト云フ

夜敵機ト思ハルルモノ数回飛来遠クニ吊光弾投下、一発ハ商船学校桟橋ニ揚陸中ノ吉野丸ニ対シ機関銃射撃ヲ為シタル如ク見受ケラレタルモ或ハ之モ更ニ遠クノ陸上？

◇九月三日

午前五・〇〇天谷支隊ノ乗船十二隻（充足人馬共）黄浦江口ニ到着先ツ青柳参謀来艦連絡、

八・〇〇稍過天谷少将来艦　命令ヲ手交サレ所要ノ注意アリ、後参謀長以下ニテ所要ノ事項ヲ話シ九・〇〇前退艦

3Dノ宝山城攻撃計画ヲ見ル、要旨ハ本日宣伝ビラニテ降服ヲ勧告シ午後二・〇〇ニ至リ聴カサレハ陸海ノ砲撃空爆ニ引キ続キ鷹森隊ニテ攻撃スルニ在リ

宝山及其西方地区ニハ尚五、六百ノ敵在ルモノノ如シ

今回軍ニ転属セシ独飛六ノ大曲中尉ヨリ名刺ヲ貰フ

11D浅間支隊ハ一一・三〇宝山城東方約一粁半附近ニ進出トノ海軍ヨリノ通報アリ

三・〇〇前大西参謀来艦、3Dノ飛行場攻撃ハ全ク誠意ヲ認メ難ク海軍トシテハ将来協力シ得ス中央ニ電報スト迄激昂セリトノコトヲ伝ヘ3Dヲ反省セシメントス　依テ兼任参謀ノ態度ニ就テモ話シ尚3D参謀長ニ手紙ヲ書キ芳村参謀ヲ3D、三艦隊ニ派遣スルコトトセリ

五・三〇　3Dヨリ報告、宝山城ノ敵ハ午後二・〇〇ニ至ルモ降服セサルヲ以テ砲撃爆撃ヲ行フモ歩兵ノ攻撃ハ行ハサル予定　ト

本朝「加賀」ノ飛行機羅店鎮我陣地付近ヲ誤爆撃シ艦長ヨリ陳謝アリ返電ヲ出シ置ケリ

3D連絡ノ二神参謀帰来報告、鷹森隊ハ明日更ニ勧降ビラヲ撒キ聴カサレハ更ニ砲撃爆撃ヲ為ス考ヘナリト軍司令官ハ之ヲ以テ手緩シトセラレアリ

呉淞地区掃蕩本日迄四日間ノ損傷ハ3D戦死3、11Dナシ負傷者20内外

「トーチカ」地帯ハ敵陣地極メテ堅固ニテ二列三列ニ陣地アルコト大沢大尉ノ偵察ニテ明瞭トナリ飯田大隊ヲ以テ之ヲ攻撃セシムルハ一考ヲ要スルコトトナレリ

火炎放射器、焼夷弾、特種防楯、発煙弾ハ九月十二日頃其他逐次九月尽日頃迄ニ到着ノ旨通知アリ

九・〇〇頃3Dハ将校ヲ軍司令部ニヨコシ宣伝ビラヲ持参ス　軍司令官ハ斯ノ如キハ皇軍ノ威信ニ関ストシテ中止ヲ命セラレタルニ依リ明日ハ断然歩兵ノ攻撃ヲ実施スヘキ御意図ヲ相当詳細手紙ニ書キ参謀長ニ送リ明日ノ攻撃開始時刻等速ニ報告スヘキヲ要求ス

独飛六は独立飛行第6中隊

参謀本部第三課西村*少佐九月一日東京発本日九・〇〇頃来艦未タ話ヲ聞クニ至ラス

◇九月四日

昨夕ノ鷹森隊ノ状況ヲ今朝聞ク少シ戦線カ推進サレタルノミ　3Dノ報告ニハ「クリーク」ノ状況、橋梁件ヲ添ヘアリテ嬉シ

天谷支隊ノ出発ハ五日午前一〇・〇〇トノコト

司令官ハトーチカ攻撃兵力ヲ一大隊トスル如ク3Dニ言ヘトノコトニテ処置ス。本日ノ海軍ノ爆撃計画ヲ見ルニ我要求ハ実行セス陸戦ト縁故ナキ地方ノミノ爆撃ヲ計画シアリ

羅店鎮—月浦鎮道ノ前後ニハ江岸ニ面シ二線ノ陣地ヲ準備シツツアリ

3D連絡ノ二神参謀二・三〇頃帰来、鷹森隊左翼Ⅲ正面ニハ南面及東面シテ相当ノ陣地二線ニ亘リ（東面ノミ）師団ノ意向ハ先ツ本日此敵ノ中「クリーク」東方地区ヲ撃退シ明日「クリーク」西側ノモノヲ撃破、宝山城（敵ハ二、三百ト考ヘアリ）攻撃ハ追テ計画ストノコト　軍司令官ハ天谷支隊カ明朝出発スル能ハストシテシキリニ気ヲモマレアリ、之カ為二神ノ帰ル少シ前「速ニ宝山城ヲ攻撃スヘシ」ト督促命令ヲ出セリ、其当時ハ上記ノ敵情ハ全ク不明、結局第一線ノ考ト軍ノ考トハ一致シアラス、之ハ戦場ノ常態ト云ヘハ夫レマテナカラ参謀長トシテ更ニ努力ヲ要ス　軍ニテハ第一線ノ努力足ラス積極的ナラス戦機ヲ逸ス等ト不満ヲ抱キ第一線ニテハ軍幕僚ハ第一線ノ苦労ヲ知ラスムヤミニ過度ノ要求ヲ為ス、攻撃ヲ急カスト称ス、之等カ蒿*シテハ遂ニ軍司令部ト師団トヲ反目セシムルコトトナル

西村少佐ヨリ左ノ要旨ヲ聞ク

対ソ第一期作戦用ノ兵力ハ全部使用シ尽シタルヲ以テ上海軍カ現任務ヲ最小限ニモ達成セラレス即軍カ危殆ニ頻スルカ如キコトアラハ勿論別問題ナルモ然ラサル限リハ北支保定会戦ヲ終ラサレハ兵力ヲ増加シ得ス　此方面ノ情勢之ヲ要スレハ十月中、下旬ニハ転用シ得、其際之ヲ如何ナル方面ニ使用スルヤヲ偵察シ置カレ度

作戦課員　西村敏雄32期

後ニ隷下ニ入レラノタル重砲ハ九月七、八日頃到着ノ予定
浅間支隊天谷支隊連絡ノ御厨参謀ノ言ニ依レハ浅間隊ハ月浦鎮東方及東南方ニ依テ敵ト対戦中ニシテ大隊長一ハ戦死、一ハ負傷シ山砲弾無シトノコトニテ天谷支隊ノ弾丸ヲ本夜送付スルコトトセリ
天谷支隊ハ明五日朝七・〇〇出発戦闘隊形ヲ以テ宝山城ト金家宅附近ノ敵ノ間ヲ突破シテ前進スル予定
昨日艦隊　陸戦隊　3D連絡ノ為派遣セル芳村参謀ノ言、3D参謀長ハ予ノ手紙ニ対シ非常ニ憤慨シ芳村参謀ヲ叱ツタトノコト　二中隊ニテ3Dハ責任ヲ以テトーチカ地帯ヲ奪取ストノコトニテ艦隊側モ陸戦隊モ兎モ角了解セリ
別ニ3Dニ連絡セル寺垣参謀ノ言ニ依レハ3Dハ軍ヨリノ電報ニ依リ飯田大隊ヲ完全大隊トセリト、又29iBノ揚陸思フ様ニ進マス本日漸ク18iヲ上陸セシメ得タルノミニテ碇泊場ニ言ハシムレハ貨物ノミノ船ヲ桟橋ニ付ケ軍ノ命令ナリトテ順序変更ヲ肯セストノ不平アリ芳村参謀ハ今更順序ヲ変更シテハ反テ遅滞スト云フ信念ニテ実施シアリ多少間違ヒアル如シ　軍司令官モ上陸状態ヲ心配シ居ラルルヲ以テ夜ニ入リ更ニ参謀ヲ派遣ス　11D方面ハ本日輜重聯隊本部ト一中隊上陸後ニハ一隻残ルノミト
明日軍司令部ノ移乗スル船ノ交渉ニ行キタル森重少佐桟橋附近通過ノ頃五六発ノ迫撃砲弾飛来照空隊、輸卒隊等ニ六名ノ戦死者ヲ生シタトノコト、依テ明日移乗スルモ沖ニ居ルコトトス　射撃カ宝山方面ヨリカ浦東地区ヨリカ不明、之ヲ確メサルヘカラス
東京ニ報告ニ帰スコトノ相談ノ為原田少将ニ明日来艦ヲ求ム
歩六後任聯隊長川並密大佐ニ発令

◇九月五日

本日まや丸ニ移乗桟橋ニ横付ケスル予定ノ所同船ノ無電ハ火花式ナルコトヲ本日ニ至リ判明

中止（此件ハ特ニ注意シ之ヲ唯一ノ条件トシタルモ昨日ノ調査確実ナラサリシニ依ル）
九・二〇頃軍司令官ト最初ノ作戦方針ヲ放棄シ先ツ大場鎮ヲ奪取スル案ヲ述ヘ大体承認ヲ受ク
宝山城及其西方地区ニテ午前一一・〇〇頃ヨリ総砲声盛一時間半許リニテ次第ニ静カニナリ大体我戦線ヲ推進シ得タル如ク観察サル、本艦飛行機ノ視察ニ依レハ一一・三〇頃68iノ左翼ハ「クリーク」東岸ノ敵兵営ノ一角ニ進出シ天谷支隊ハ煙幕ニ依リ右側ヲ掩ヒ前進シタルカ如ク思ハル　浅間隊ノ左翼モ宝山城北方一粁半許リノ地点ニ日章旗ヲ立テ午後二・〇〇頃ニハ宝山城ノ一角ト思ハルル辺ニモ日ノ丸ヲ見ル　一・〇〇頃戦車入城セルヲ見ル　二神参謀3D及天谷支隊ニ連絡ノ為午後出発
昨日海軍通信参謀　長岡少佐来艦（東京ヨリ）将来軍司令部兼勤トスル筈、天谷支隊ニ兼勤中ノ海軍参謀ハ11D附兼トスヘク正式交渉中
「クリーク」攻撃ノ飯田支隊ハ海軍ノ絶大ナル協力及二中隊増加ニ依リ確信ヲ以テ明六日午前六・〇〇攻撃開始ノ報告アリ（四・一〇）
杉田参謀、通信、軍ノ大場鎮先攻、宝山附近飛行場設置断行等ノ連絡ノ為午後上海出雲ニ行ク
四・三〇浅間支隊ハ反転シテ北方ニ行動開始、宝山ニ入リシ戦車モ再ヒ城外ニ出テ来ル蓋シ天谷、浅間両隊ハ手ヲ繋キ宝山城ハ完全ニ占領サレタモノト認メラレ、司令官モ一安心
二神参謀五・〇〇頃連絡ヨリ帰来シテノ報告ハ以上程楽観的ナラス即3Dハ本日ハ宝山城ノ攻撃ハ行ハス天谷支隊ハ之ヲ側面ニ見テ一・三〇～二・〇〇ノ間ニ宝山城西門ノ線ニ進出爾後ノ前進ヲ準備中　宝山城内ニ国旗ヲ掲ケタルハ天谷支隊ノ一部カ進入シタルモノナルヘク一旦入城シタル戦車カ帰還セリト見タルハ実ハ城門ヨリ進入スル能ハスシテ引キ返シタルモノナリ　又68i左翼ハ大体「クリーク」ノ線（金家宅）マテ占領シタルモ其南端橋梁ノ敵機関銃頑強ニシテ撃退シ得サル状況ナリ

五・〇〇頃11D作戦主任藤沢参謀来艦　真相ヲ聞キ且参謀長ヨリ軍幕僚カ師団ノ作戦カ消極的ナリト言ヒ居ルコト連絡報告遅シト言ヒ居ルコト等ハ心外テモアリ甚タ悪影響ヲ及スカ故ニ注意サレタシトノ意味ト作戦上ノ意見ナリ　之等ニ就テハ当方ノ意見ヲ述ヘ漸次了解ス両者ノ意思疎通ハ不良ノ電報ニテハ意外ニ悪シ

軍司令官ノ許可ヲ得藤沢参謀ニ将来ノ作戦指導予定ヲ話シ嘉定攻撃ニ頭ヲ悩シ居ルノヲ除ク

11D右側支隊（劉河鎮正面ノ大隊主力）正面ニモ五、六百ノ敵昨日ヨリ（?）近迫シ一時ハ劉河—羅店道ヲ遮断サル

11D主力方面連夜猛撃ヲ受ケ殊ニ近来ハ一万以位ヨリ砲撃シ敵戦闘機八、九機日ニ二、三回襲来ス、唯幸ニモ爆撃ヲ行ハス

原田少将遂ニ来ラス

◇九月六日

飯田大隊六・〇〇カラ「トーチカ」攻撃ヲ開始シタラシク砲声ヲ聞ク

3Dノ宝山城攻撃モイヨイヨ九・〇〇カラ開始

*末藤大佐以下ノ報道部ヲ軍司令部附トセラル

西村少佐午前退艦、上海ニ行キ明日正午ノ飛行艇ニテ帰京ス（海軍飛行艇ハ毎週火、金正午馬鞍群島発）

一〇・二〇頃鷹森隊ハ東南角城壁ヨリ城内ニ進入セルカ如シ

海軍ハ第二艦隊ヲモ併セ封鎖区域ヲ拡張セリ

ソ支ノ関係ハイヨイヨ濃厚密約ノ概要モ窺知サレ既ニ上海附近ニハ露語ヲ話ス将校少カラス共産軍参加シアルヤノ疑アリ

城壁突入時ノ負傷者十余名ヲ本艦ニ収容ス

*桜井大佐連絡ニ来ル　11D戦列部隊全部輜重ノ大部揚陸完了一部モ本日中ニハ終ル　3D戦

末藤知文（ともふみ）23期　上海派遣軍参謀兼特務部諜報班長

第十四碇泊場司令官　桜井省三（せいぞう）23期

列部隊全部輜重ノ一部揚陸終リ軍直重砲（15*c）モ本日ハ上陸スル筈ニテ天谷支隊配属ノ命令下ル

藤田部隊宝山城占領ノ為配属ノ臼砲ハ引キ上ケ一部ヲ以テ浦東地区ノ敵砲、機関銃ノ制圧準備ヲ命ス

本日上陸シツツアル独工第八聯隊ニ呉淞鎮橋梁ノ補修ヲ命ス

五・〇〇ノ情報、天谷支隊ハ右翼ヲ張リ出シ浅間支隊ト連絡　本夕迄ニ宝山西方約二粁ノ「クリーク」ノ線ニ進出スル予定　兵営ニ在リシ敵約600降伏セルモ敵対行為アリシ為殺ス　鹵獲品ノ後始末ヲ頼ム　青津参謀ヲ明日軍司令部ニ派遣ス

鷹森隊ハ宝山城々壁上ヨリ城内ノ残敵ヲ掃蕩中

下山少佐ノ飛行機偵察ノ結果、揚行鎮ニハ敵陣地ヲ認メス　写真撮影ノ予定、浦東地区出雲ノ対岸附近、公大飛行場ノ対岸ニハ相当ノ陣地ヲ認ム　大場鎮、嘉定、南翔等変化ナク、飯田支隊正面モ平静

松田参謀帰来談、飯田大隊ハ艦砲掩ゴノ下ニ先攻中隊、駆逐艦ヨリ上陸ヲ開始シタルモハネ返ヘサレ已ムナク大発ニテ他ノ個処ニ上陸（先攻中隊ハ中隊長戦死、死傷十余名ヲ出ス）飛行場南方ノ「クリーク」ノ線ニ進出一部ヲ大発ニテ下流ニ上陸セシメ「トーチカ」正面ニ進出シツツアリ

艦隊参謀長モ大隊ノ兵力増加ニ満足ノ意ヲ表ス　今朝ノ戦闘ニハ「出雲」自ラ出テ200発以上15cヲ射撃シタルモ先任参謀、機関長負傷セリ

占領線ヲ進出セハ競馬場ノ飛行場モ整備ニ着手ス　貴腰湾水上機場モ十二日ニハ設備終ル予定ナレハ宝山城附近見込アラハ直ニ着手スヘシト

軍司令官声明ヲ十日頃即攻撃準備開始頃ニ発表スト言ハレ過早ト思フカ兎モ角武官室ニ其準備ヲ為サシム　又外国建物等ヲ敵カ利用シアルカ故ニ将来之ニ損害ヲ与フルモ責任ハ彼ニ在ル旨領事ヲ通シ各国ニ通告スル如ク取計フ

15Cは口径十五㎝の意。八九式十五糎加農砲である。